

(2) 技術上の進歩、發明を阻害したる事、
は其の大なるものなりとす。

次いでルイ十三世はリシウリウーを任用して改革に従へり。リシウリウーは當時歐洲一流の財政家にして、二十年の間(一六四二—一六六二)ルイ十三世を助けて主權の擴大を圖り、更らに國勢を海外にはらんとし、英和兩國に倣つて、政府の命令のもとに、貿易會社を設立させ、航海貿易の業を行はしめしも當時、資本と人物の缺乏の爲めに、この進取政策は不幸失敗にきせり。然れ共、千五百九十九年より千六百四十二年に至る間に、廿二の貿易會社設立せられ、其貿易範圍は、カナダ、西印度諸島、ギニア、アフリカの西海岸、マダカスカル、東印度馬來半島及びジャバに及びり。其植民地面積の大なる點に於いては僅かに一のスペインに劣りしのみ。この植民地は永久にフランスの有たる能はざりしも、一時この盛況を呈し、しかも商業上一大勢力を現出せしは、コルベール其人の力にありと云はざる可らず。

コルベールは、ルイ十四世を助けて、千六百六十一年より千六百八十三年に至るまでフランスの財政經濟を調達せし人にして、其經濟政策は、

重商主義、及び保護貿易(重商主義と近代の保護主義とは相似點多けれ共、重商主義の主とする所は硬貨の流出を防ぐにあり)

リシウリウーの經濟政策

海外貿易の發展

コルベールの商業政策

重商主義保護主義

租稅制度
内國關稅制度

コルベールの外國貿易主義

の張本なり。コルベールは民力を休養する第一の策は財政調理にありと信じ、租稅制度を改革し、産業の發展に害ある租稅は是れを禁んじて、人民に休養を與へたり。又内國關稅制に改良を加へ、經濟の進歩したる地方を一團として其周圍に國境關稅に近きものを設け、經濟の進歩せざる地方は其進歩に隨つて、是を關稅區域内に加ふる事とせり。然れ共、この制度を打破する能はざりしはフランスに取りて一大損害なりき。是れが爲め、各地方は其容易く生産し得る所のものゝみに全力を注ぐ能はず、又生産者は佛蘭西全體を、其生産物品の市場となす事能はず、消費者は需要の物品の供給を全佛國に向つて仰ぐこと能はず、何れも一定の小區域内に制限せらるゝの結果を來せり。コルベールも未だ是を打破し能はざりき。然れ共、故習は容易に是を破る能はざるものなれば、コルベールをのみせむるは酷なり。コルベールは外國貿易は多く特許會社に委託したり、東印度及西印度は各其會社に、地中海沿岸貿易はレバント會社、北方バルチック海地方は北方貿易會社に委託せり。しかも植民地貿易は全然佛人專占のものにして外國人の通商を嚴禁し、植民地の物産は佛船にて輸送すべく、他國の船舶にて輸送する事を嚴禁せり。又佛國諸港より植民地へ輸送すべき物品は佛國産に限ると定めたり。この方法は他の列強と同一なりき。

工業獎勵

コルベール思へらく、英伊獨の工藝品がしきりに輸入せらるゝは、其品質が佛國產のものに優れたるが故なり。輸入を防ぐ根本要素は、「自國の工藝品をして進歩改良せしむるにあり」と。依つて此の見解よりして、一般輸入品に對して重き輸入税を課し、以て佛國工業を振興せしむるの策とせり。依つて、政府率先して國內に新工場をおこし、工業に對して政府は嚴密なる干渉を試みたり。其干渉の一般を述べれば、總べての織物の長、幅、織の端廣さ、^{タテ}經の數、原料の品質、織法等悉く法律に依つて一定せられたり。又其の染色に關しても繁鎖なる規定ありて是れに背く事を得ず、織物染物師等は各々其責任を明かにせんが爲めに各物品毎に、記號を符し、一々ギルドの檢章を押捺するを常とせり。この干渉主義たるや、もごコルベールが産業の發達を企圖せる熱心より出でしものなれ共、反つて工業の進歩に好結果を與ふる能はざりき。コルベールが工藝師範學校を設立せしは、工業教育上特筆すべき事なり。

工業教育
海軍力増大

又コルベールは、英國と覇權を争ふには強大なる海軍力の必要なる事を看破し、英國に優る海軍力を備ふるに至れり。然るにコルベールの死後、ルイ十四世は、益々奢侈に耽り、大いに國費を消費し、オランダ、イスパニア征討の爲めに莫大の軍費を消費せしより、財政大いに窮乏し、雜税をおこし、特許を濫用するに至れり。コルベールの主義を商工業上に襲用せしも其

コルベールの主義の精神を失ふ

ジョン・ラウの恐慌

ジョン・ラウの財政調理

精神を忘れ、唯干渉一方にのみはしりしかば、人民も是れを喜ばず、重要なる輸出品に輸出税を課するや、英國の如きは反つてポルトガルより輸入してフランスを苦しめ、ナントの勅令の撤回せらるゝや舊教徒再びおこり、國內亂れ、商業は隆盛に赴かんとして再び衰微の運に向へり。特に財界亂脈の中にて、一大打撃を與へしはジョン・ラウの恐慌なりとす。ラウはもごスコットランドに生まれし人にして、イギリス及び和蘭制度を研究し、後フランスのオルレアン侯の知る所となり、千七百十六年に一株五千ルーブルの株式にて(千二百株)私立銀行を設立し、其業務に精勵して大いに名譽を博せり。終ひに是れをオルレアン侯にすゝめて國立銀行となり、銀貨は是れを銀行庫中に收めて兌換券を發行して、國中の流通に便ならしめたり。是れと同時に西部貿易會社を一億の資本にて設立し、米大陸に於ける植民地貿易に従事し、前述せし銀行の硬貨を流用せり。此會社の株券はラウが煙草の專賣を始めてより、額面五百ルーブルのものが五千ルーブルに迄騰貴せり。かく好況なりしかば、更らに會社の事業を擴張して、雷に米大陸の富源の開拓にとどまらず、東印度アフリカに於ける貿易の特權を得て、新に株式を募集し、好成績を得たり。此に於いてカラウは此機に乗じて、財政整理を行はんと欲し、彼れが經營せし國立銀行が獨り銀行券を發行し得るの權を利用して、政府へ租税を擔保として、十二

植民事業の失敗

億ルーブルを貸付け、以て當時政府が苦しめる四分利附公債を返附せんとせり。ラウが財界調理の手腕尋常に非らず、然れ共、盛者必滅は世の習ひ、千七百二十年來、同株式は漸次下落の兆向を示し、つひに株式、銀行券共に極端に下落して、フランス財界に一大恐慌を與へたり。

ルイ十四世の失政以來、佛蘭西は、其植民地を失ひ、千七百六十三年七年戰役の終局を告ぐるや、北アメリカに於ける屬領の一切と印度及びアフリカに於ける植民地の大部分を委棄せざる可らざるに至りぬ。フランスは歐洲に於いて、はた植民地に於いて、イギリスと争ひて、大なる努力を水泡とし、印度帝國建設の望は、過去の夢となりぬ。かくフランス人が植民に成功せざりし所以は、他多あれ共畢竟するに、フランス人が植民的國民に非るが故なり。フランス人は進取的に海外發展をなす國民に非ずして、いはゞ美術工藝に適せる國民なり。是れを英人と比すれば、フランス人は京都を中心とせる關西の人に似たり。イギリス人は關八州の人に似たり。

フランスが植民に成功せざりし所以

フランス貿易進歩の概況

かくフランスは植民事業に於いて失敗をなせり。外交政策、内治政策に於いても失敗して、南業の發達を害せしこと大なるにもかゝはらず、其國土の大にして富源の豊かなるがために其外國貿易は、第十八世紀に於いて、年々進歩發達せり。其貿易進歩の度合はイギリスに比して

甚だしく劣らざれ共、其範圍はイギリスの如く世界的ならずして、イタリー、ドイツ、イギリス、バルチック等の地方に限られたるは、一大弱點と云はざる可らず。貿易進歩の情況は、

	一七一六年	一七八七年
歐羅巴	三、五〇〇 萬弗	一六、一〇〇 萬弗
アメリカ	五〇〇	五、四〇〇
アジア	二〇〇	一、〇〇〇
アフリカ	二〇	一〇〇
合計	四、三〇〇	二三、〇〇〇

にて知る可し。

＝フランスに於ける商業に關係ある法典の編纂はコルベールの時代よりの事とす。千六百七十三年の商法、千六百八十一年の海上法是れなり。かの千八百八年編纂の佛國商法は、前述の兩法典に則りしものとす＝

商法、海上法

第八章 英吉利の商業

外國人の
手中にあ
るイギリ
スの商業

エドワ
ルド三世
の工業
奨励

イギリ
ス工業
の開始

國家統一
が商業に
與へし影

中央集權

中世に於けるイギリスの商業は頗る幼稚なるものなりき。國內に於ける工業農業は微々として振はず、外國貿易は殆んど外國人の手中に歸し、歐洲に於ける貧寒なる一小國に過ぎざりき。内地商業はユダヤ人、外國貿易はヴェニス、ハンザ同盟の商人に任せ、フロレンス人はロンドンに滞在して金貸業を営むてふ有様にて、イギリスの經濟は外國人の左右する所なりき。

十四世紀の頃エドワード三世(一三二七—一三七七年)出で、工業の振興に努力し、フランダールの織物業者を招致し、政府の保護を保證し、煩雜なる制度を撤去せしより毛織物の製造術、駁々乎として進歩し、千三百四十七年後は、是を外國に輸出するに至れり。政府は、イギリスの工場にて製出せし以外の毛織物の購買を禁止し、又絹織物の如きも其輸入を禁止して外國品との競争を防遏し、以て其發達につとめたり。これイギリス工業獨立の始めなり。然れ共、未だ其の外國貿易は獨立するに至らず、百年戰役、薔薇戰役、終りを告げて、チユードル家のヘンリー七世位に即きヨーク家のエリザベスと婚を通じて、チユードル朝を開き、國家統一の業を完成して以來、始めて商業の進歩見る可きものあるに至れり。故にイギリスが一箇の大商業國となれるは全く千五百年後にありと云ふを得可し。

中央集權完成後のイギリスは、

後のイギ
リスの國

イギリス
商業發達
の特徴

十六世紀
後に於け
る商業發
達的情況
ヘンリー
八世

(1) 貨幣を國內にとどめて軍費に備ふること、
 (2) 海軍を強大にして國防を嚴にすること、
 (3) 農業を奨励して人口の増加に備ふること、

を主眼とせり。今、イギリス商業の發達を述ぶるに先ち、是れを當時の列強のそれと比較し見る可し。イギリスの發達はポルトガル、スペインの如く外部の膨張にのみ傾かず、内外共に圓滿なる發達を遂げたり。又オランダの如く薄弱なる政權に非らずして、強固なる政權ありて、政府と人民の意思相通せり。フランスの外觀を壯麗になすに苦辛せるに反し、着實を以て主義とせり。要するにイギリスの發達は、ポルトガル、スペイン、オランダ、フランスに優りたる點を具備せり。これイギリスが今日の盛りをなせる所以なり。

然らば十六世紀後、商業發達的情況如何。チユードル家のヘンリー八世は、英吉利商業發達に與つて力ある人なり。王は、父ヘンリー七世と同じく航海業を奨励し、貿易範圍の擴張に努力せり。史家王を「英國海事の創設者」と稱す、宜なりと云ふ可し。千五百五十八年、エリザベス女王即位するやイギリスは商業史上一光彩を放ち、商業に於いて世界の牛耳を取る基礎をおけり。女王の主なる功績は、

エリザベス女王の商業史の功績

(1) ハンザ同盟商人のイギリスに於ける勢力は大にして、容易に商權を回収する能はず、エリザベス女王は、頑強なる體度を以て是れに對し、千五百九十八年七月廿五日にハンザ商人をスチールヤードより國外に追放して、イギリス商業の獨立を圖れり。

(2) 女王はスペインと戦ひ、千五百八十八年に、其無敵艦隊を撃破し、海上權を全くスペインより奪取せり。

イギリス商業の獨立より海上權を奪ふ

かくて女王はハンザの商權を回収し、スペインより海上權を奪取して英吉利發展に金鐵よりもかたき基礎を置けり。又女王は種々の商品に對して專賣の法を設けたり。この法は商業發達の見地よりして行ひしに非ずして、財政上の便宜に依つて行ひしものなり。

專賣事業

「專賣は政府の處理に屬せし者、一箇人に附與せられし者、又商事會社に附與せられしものと種類多し。この種に屬する商品は火藥、骨牌、毛皮、魚油、紙、乾葡萄の如きものなりき。

海外貿易能動的となる

海外貿易は能動的となり、イギリス人は近海貿易の外、新大陸に於いて活動す可き基礎をつくるに至れり。女王の時既にアメリカ大陸も等閑に附せられず、幾多の探検家は英米の間を往復しけるが、其主要なる目的は新發見と掠奪にありて純粹の商業に非りき。否な普通の商人と雖も歐洲文明の地を離るゝ時は、切取、強盜、剽掠逆殺等の行爲を敢えてして憚らざりき。

探險貿易事業

ジョン・ホーキンスの奴隸商賣

當時ジョン・ホーキンスがアフリカの奴隸商業に従事して、其利益を女王と折半せし事は隠れなき事實とす。然れ共、當時外國貿易に従事するは、箇人の力の到底及ばざる所なれば、貿易は特殊の會社に於いて經營せられ、各會社、各々其貿易範圍と特殊の航路を有したる事恰も今日の鐵道會社にさも似たり。千五百七十九年に設立せられしロシア貿易會社は、バルチック沿岸の商業の特權を得、レバント貿易に對しては、トルコレバント會社あり、アフリカ西岸に東

特許會社

ロシア貿易會社

レバント會社

岸ギニア會社、北アメリカにヴァージニア會社あり、就中著名なるは千六百年に設立せられし

東印度株式會社なり。この會社はエリザベス女王より喜望峯とマガリエンス海峽との間の貿易

獨占權を得イギリスに於ける株式會社の濫觴をなすものなり。然れ共一般の會社は、是等の會

社が或る種の特權を有するに對して甚だ不平なりき。又資本なくして會社員となる能はざりし

商人等も不平なりき。されば是等不平黨は相集つて密輸入會社を組織し、特權會社の勢力範圍

内に侵入する事を業とするに至れり。十七世紀の末頃よりして是等の反感は益々其度を高め、

終ひに特權は廢止せらるゝに至れり。然れ共十七世紀時代に會社事業の旺盛を極めたるは、こ

れ應がて十八世紀に於いて箇人的經營の時代を齎らせるなり。

かくの如くイギリスの海上權は勃興せしも、未だ和蘭と云ふ一大強敵あり。此に於いてか、

特權反對の運動

東印度會社の獨占

東印度會社

ニア會社

ヴァージニア會社

東印度會社

個人經營時代の現出

航海條令

英蘭戰爭

和蘭・ギリスに屈從す

此強敵の勢力を打破せんが爲めに、クロムウエルは千六百五十一年に航海條令を發布して、和蘭の仲繼商業に大打撃を與へたり。これ商業立國民たる和蘭人に對して商業戰爭を宣告したるも同様なれば、和蘭は千六百五十二年、イギリスに對して宣戰を布告し、提督ヴァン・トロンプは屢々イギリスの海軍を撃破せり。然れ共、クロムウエルがブレイキ將軍をして指揮官たらしむるや、イギリス海軍頗る振ひ、千六百五十四年和蘭をして航海條令に服従せしむるを得たり。又クロムウエルはフランスと同盟してスペインと交戦し、西印度諸島中のジャマイカ、ベルギーのダンケルクを取りて和を講せり。かくして英國は益々其基礎を定めたり。英國の史家は、航海條令を目して、

“The first nail in the coffin of Dutch greatness.”

と是を英國商業史より見る時は、エリザヘス女王の事業は商業發展の第一階段をなし、クロムウエルの事業は第二階段をなすものなり。

かくしてイギリスは、スペイン、ポルトガル、オランダを壓して、其植民地を廣めたり。更に争ふ可きはフランスなり。イギリスは歐洲に於いても、はた植民地に於いても、フランスと争へり、英佛の争ひに結末をつけしは、有名なる七年戰役（一七五六—一七六三）なりとす。この時植民

七年戰役

巴里條約が成功せし所以

領土擴大

イギリス商業の進歩

地に於いてもイギリス、フランスの戦ひありしが、フランスが主力を歐洲内の攻争に注げるに反し、イギリスは、唯軍費をプロシアに給し全力を植民地に用ゐしかば、堂々たる勝利を得て巴里條約に依り、

(1) 佛國より加奈陀、ケープブレトン島、ミシシッピ河以東の佛領及アフリカのセネガル河地方を得たり。(2) 佛國にボンジエリー及シャンデルナゴルを還し、(3) 西班牙よりフロリダを取り、(4) 其賠償としてミシシッピ河以西の佛領を與へたり。

かくして、イギリスの植民地は俄かに増大したると共に、印度に於ける拓殖侵略共に、大いに歩をすゝめて、商的活動の基礎を定めたり。かくして、十八世紀に於けるイギリスの商業は急速なる進歩を遂げたり。

十八世紀に於けるイギリス商業の進歩が如何に著大なるものなりしかば、左の表に依つて明かなる可し。

時期	輸入 (一年平均額)	輸出 (一年平均額)
一六九八—一七〇一	二、七〇〇 萬弗	三、二〇六 萬弗

一七四九—七七五五	四、五〇〇	六、一〇〇
一七八四—一七九二	八、八〇〇	九、二〇〇
一八〇二	一五、七〇〇	二〇、七〇〇

對和蘭貿易

次に、イギリスと貿易諸國との關係を述べ可し。

(1) 和蘭との貿易 イギリスが航海條令を發布するや、英蘭の貿易關係に一大變動を與へたり。イギリスより和蘭への輸出品は十八世紀に至りて激増せり。又和蘭よりイギリスに輸入せし商品の多くはイギリス本國の消費に歸せずして是れを外國に販賣せり。十八世紀を通じて、イギリスより和蘭へ輸出する額は、和蘭よりイギリスへ輸入する額の三倍乃至七倍なりき。

對北方諸國貿易

(2) 北方諸國との貿易 イギリスはロシア、スウェーデン、デンマーク等の北方諸國との貿易を盛んにせんが爲め、和蘭其他の勁敵と戦ひ、終ひに其商利の大部分を割取し得たり。當時イギリスは此方面の物産を要求する事切にして、亞麻、大麻、獸脂の輸入は最も重要なものなりき。スウェーデン産の鐵又然り。千七百三十四年英露通商條約に依り、露人と同一の條件にてロシア物産の輸出をなすを得るに至り、多くの便宜を得しも、スウェー

英露通商條約

對フランス貿易

デンのみは、諸種の禁令を設けてイギリスの商權外に自立せんと企てぬ。然れ共、大體に於いて此方面の貿易も良好なりき。

3) フランスとの貿易 イギリスは、フランスと絶えず「商權爭覇」の上よりして相競へり。されば兩國の貿易は國際上の紛擾と相互に物産の輸入を禁止するの政策を取りたるに依り屢々中絶の不幸を見たり。然れ共、兩國民相互ひに表面に於いては密商を盛んに行ひたり。イギリスはフランスの奢侈品を密輸入し、フランス人は價格の低廉なるイギリスの粗製工藝品を密輸入せり。當時イギリス人は一般に、フランス人を敵視する情よりして、フランス人との貿易を不利なりと考へたり。然るに千七百八十六年、通商條約を結ぶや兩國貿易の上に一生面を開展し、從來兩國に於いて他國の輸入物産に對して賦課せる苛税をば輕減するに至れり。此結果、兩國の貿易額は増大せり。

英佛通商貿易

年 代	輸 入 額	輸 出 額
一七八七	三四、二〇〇、五〇〇 ^{フラン}	五二、二二七、七〇〇
一七八八	三一、一五四、五〇〇	六三、七四七、七〇〇
一七八九	三五、一〇四、〇〇〇	六〇、九一二、〇〇〇

イギリス人がフランスとの貿易を不利益なりと考へし事の誤れるは、此表にて明かなる可し。

對ポルトガル貿易
メチューエン條約

(4) ポルトガルとの貿易 イギリスとポルトガルとの間に重大なる關係を生ずるに至りしは、實に千七百三十年の「メチューエン」條約締結以來の事なりとす。これ重商主義時代に於ける最も顯著なるものにして、政治方面より云へばポルトガルをフランスより離間してイギリスの盟邦とせん事を目的とし、經濟上より云へば「英國の優越權」を認めたるものとす。ポルトガルは英國産羊毛製品の輸入禁制を解除し、イギリスは又是れに對して葡國産葡萄酒の輸入税をフランス産葡萄酒輸入税の三分一に減せり。隨つて、此條約締結以來佛國産葡萄酒の輸入は著しく減じたり。(千七百三十年前には、佛國産葡萄酒の輸入額、年平均一萬八千噸位なりしが、これ以後年平均千噸位に減ぜり)これに反して、ポルトガル産葡萄酒の輸入額は四百三十三噸より一躍、八千四百四十五噸となりぬ。(千七百八十六年の英佛通商條約により、佛葡兩葡萄酒の輸入税は同等となりぬ)然れ共、ポルトガルに於いては英國工藝品の輸入せらるゝもの多く、結局其の經濟上の進歩を阻害せり。然るに十八世紀の末、ポルトガルに宰相ボンバル出づるや、英國の羈絆を脱して、經濟上の獨立を規畫せり。ボンバルが經濟上になせる事業は、

ボンバルの事業

(1) ポルトガルの農業は當時頗る衰微して全國民を養ふに足らず、ジョーゼ登極の際全國の人口約二百萬ありしも、全國の收穫高は三十萬人を養ふに過ぎず、此に於いてかボンバルは

- (A) 從來法律にて禁せる穀物の自由貿易を許可す、
- (B) 農藝學校の設立、
- (C) 僧侶をして現在所有の他に領地を擴張せしめざる事とす、
- (D) ブラジル移住の規則を制定して移住を奨励せしこと、及び町村財産の利殖取扱法を定めしこと、

(2) 工藝の發達に全力を注ぎ、諸般の法律規則を制定し、國庫より補助金を出して是を奨励せり。又工藝發達に供せんが爲め外國の職工を招致し、又企業者には相者の資本を貸與せり、

(3) 商業及び航海業の勃興もボンバルの奨励に依る、ボンバルの時代より千八百七年フランスの侵入をうけし迄ポルトガルが第二の商業的活動をなせるは、全くボンバルの力にあり、千七百五十五年にリスボンの商人集りて、株數千二百、資本金百二十萬クルサードを

以て

“Campanhia geral do Grao Para e maranhao”

を設立し、千七百五十九年にリスボン、ポルト及びベルナムビ、ユーコーの商人集りて、株數三千四百、資本金三十四萬クルサードを以て

Campanhia geral do pernambuco e paraita

を設立したるが如きは其獎勵の結果なり。

要するにポントバルの經濟的施設は偏奇の憾甚だ少なく、圓滿なりしは卓見と云ふ可し。後千八百三年に至り「メチューエン」條約を撤廢して英吉利の羈絆を脱するを得たり。

(5) 西班牙との貿易 十七世紀末に於ける西班牙は精神、物質の兩方面に於いて悲惨なる狀況に陥りたり。政治財政の紊亂は極點に達したり。千七百四十二年カムビヨ始めて税法の改革を試み、ウスタリツツ、ツアワラ、ウヨア等の經濟學者相踵いで税制改革に従事せしも其功果尠し、政府は産業の進歩を障礙せる諸弊害を除去せん事をつとめたれ共、國民の性質に固着せる弊習は一朝にして、是れを革除するを得ず、當時職工の勞働時間は一日平均六時間に及ばず、市、町、には至る所乞食横行し、惰民街路に徘徊するてふ有様なり

ポルトガ
ル商業の
獨立

對西班牙
貿易

墮落せる
西班牙

英西通商
條約

き。然れ共、十八世紀の末葉稍々商業は活氣を呈せり。スペインと、イギリスとの通商關係は頗る古く、中世に於いて特に密接なりき。近世に及んで、屢々戰爭の爲め其商業關係は阻害せられたれ共、千七百十三年の通商條約後、圓滿なる解決をこげたり。即この條約に依りて、イギリスは、佛國其他の恩惠國と同等の利權を享受し、又ジブラルタルの要塞を領有し、ミノルカ島及マホン港を割取したり。

輸出品	輸入品
錫、鉛、穀物、魚類、羅沙、羊毛織物	葡萄酒、油類、果物、羊毛、藍、貴金屬

(6) レバント貿易 イギリスとレバント諸地方との貿易は、エリザベス女王の時代より開けたり。かのレバント貿易會社は、此地方の貿易に従事する特權を得たり。この地方の貿易は千七百五十三年に至る迄ロンドン商人の獨占なりしが、會社の貿易額減少の傾向を呈せしかば、イギリス人にして會社の事業に参加せんと欲せば何人にも二十磅を納付すれば其特權を享有し得る事と定めぬ。然れ共、數々の救濟策悉く失敗にきし、クロムウエル後の衰勢を挽回する能はず。

對レバン
ト貿易

(7) 植民地との貿易 イギリスは、十八世紀中、莫大の植民地を得たりしが、英國商品に取りて、最好の市場はアメリカの植民地なりき。イギリスのアメリカに於ける植民は、初期の探検、冒險、海賊等の混沌時代を經過して後は自治的に發達し、大體に於いて、永住的にして、自治獨立の精神に富みたり。これ他の類例のなき特點なり。このアメリカ植民地の人民は、一切の製造品を本國に仰ぎしを以て、本國商品の好市場なり。米大陸及び諸島より英本國へ輸入する品物は、

砂糖、ラム酒、綿、藍、藥品、皮革類、米穀、煙草、鱈、鯨油

等を主とす。アジア方面の貿易は、東インド商會の獨占なるが、是れ又、茶、珈琲、砂糖、綿等を輸入せり。又アフリカ貿易も莫大の利益を收むるを得たり。アフリカに對する輸出は常に輸入に超過したり。第十八世紀に於ける一著述家は、アフリカに輸出せし製造品に關し、

「吾人は、これが代價として、金、齒牙(象牙)、蠟、黒奴を得たり。此黒奴は、海上に於いても陸上に於いても、吾人に最も多くの勞役を與ふるものにして、國家の爲め利益あるものなり」と。宜なる哉。十八世紀中、イギリスは毎年約二萬の黒奴をアメリカに輸出せ

り。されば、リバプール港にては千七百七十一年に百九十隻の黒奴輸送船を使用したりと云ふ。

英本國の製造品の供給地

要するに植民地貿易は、英本國の製品を輸入すべき好市場にして、又本國へ原料品を供給する好原産地たりしなり。

參考 イングランド近世國家の建設者ヘンリー七世の財政に於ける収入は、

經常收入(王室領收入、封建的收入、關稅)

臨時收入(十分ノ一稅、十五分ノ一稅、ベネヴェオレンス、公債)

その他ヘンリー七世の富に依りて生ずる收入。

第九章 貨幣及び銀行制度

物品交換時代

人智の未だ開けざるや、有無相通するに實物を以てせしがやがて實物交換の不便なるを感じ終ひに一種の媒介物として貨幣を使用するに至れり。然らば何物が貨幣の代用を爲せしや、それは經濟狀態の如何に依つて異なるなり。例へば海岸に住める住民は貝殻を以て、農業牧畜を營める民族は家畜又は穀物を以て、狩獵を生業とせる民族は毛皮を以て交換の媒介物とせしが如し。然れ共、是らの品々は、交換の媒介物として不便少からざるのみならず、あらゆる價値を

金屬を貨幣に用ふ

表して、價値の基本となすには適せず、此に於いてか金屬を用ゐるに至れり。ギリシヤ人は鐵を用ゐしが、ローマ人は稍進歩して、前二百六十八年には銀貨を、前二百十七年には金貨を作らりたり。西ローマ帝國滅亡後は概ね銀を使用せり。十字軍の後、伊太利市府の勃興するや千二百五十二年にフロレンスは金貨を鑄造し、これ以後金貨鑄造するものを見るに至れり。然れ共當時は、鑄造方法の拙劣、金銀の換算の宜しからざるが爲め、貨幣制度の發達は遅々たるを免れざりき。イギリス、フランスの君主は中世の末既に、貨幣を改革して、其統一の主義を實行したり。

貨幣制度の進歩遅々たり

イギリスの貨幣制度

ヘンリー八世の惡貨鑄造

エドワード六世の惡貨鑄造

イギリスにては、千三百四十五年、金貨を鑄造して、金貨本位の實を定めたり。當時金貨銀貨の割合を定めて使用せしが、市價と比價との間に差を生ずれば、其一方が忽ち數量を減ずるは當然なり。十六世紀十七世紀の間は、貨幣制度の完全せざるに加へて、政府は財政の窮乏を救はんが爲めに惡貨を鑄造せり。ヘンリー八世の如きは、千五百四十三年に銀貨の品位を下して其純分を十二分の十となし、同四十五年には十二分の四となせり。實に是れ銀貨にして銀を含有する僅かに三分の一のみ、銀貨と云はんよりは寧ろ銅貨と云ふを適當とす。又エドワード六世の攝政ソムマセットの如きは、千五百五十一年に僅かに十二分の三を含む銀貨を鑄造せり。

エリザベス女王の貨幣統一策

此結果、惡貨は良貨を驅逐して市場に残るものは惡貨のみとなり、比較的品位よきものは輸出せられ終りしか、さなくば貯藏せられて市場に出でず、爲めにイギリス財界の不況甚だし。エリザベス女王即位して、貨幣整理をなさんとするや、是れを從來の良貨の制に復せんと欲せば六ヶ年の國家の歳入を投ずるに非れば此業を成就する能はず。依つて重量を原來のもの、三分の一に止め、以て其統一を圖るのやむなきに至れり。然れ共、女王の努力空しからずして、財界の步調一時整ふに至りぬ。

銀貨本位制の弊害

然れ共、惡貨鑄造の弊風は猶行はれ、十七世紀の半に至つて漸くやみたり。當時金貨は量目に依つて授受せしにかゝはらず、銀貨は個數に依つて授受せしにより、盜削の弊を生ぜり。其極一志の銀貨は僅かに六片の實價を保ち、六ペンスの貨幣の如きは銀の細片にだも及ばざるの有様なりき。かくの如く、十六世紀十七世紀のイギリスの貨幣制度は銀貨本位制なりしが、其弊害の大なる事は漸次認められ、千七百十七年に至り、新たに金貨を鑄造して本位に擬したり。終ひに千八百十六年に至り、斷然金貨本位制を取るに至れり。

フランスも亦、幣制改革の頻繁なりし點に於いてイギリスに劣らず、千二百二十六年より千七百二十六年に至る五百年間に、貨幣に關して發布せる法令は千の多きに達せり。又千四百九

イギリスの金貨本位制の弊害の頻繁なる改革

幣制の錯
雑せるド
イツ及び
伊太利

十七年より千六百二年迄に貨幣本位につき十九回の改革を行ひたりと云ふ。金本位を採用せんとし又併用制を採用せんとする等頻繁なりき。然るにドイツ、イタリーは、各々獨立王侯の領邑に依つて、貨幣の種類を異にし、幣制頗る錯雜を極めたり。ドイツの如きは十六世紀中既に帝國共通の幣制を規定して、利害を共にせんと企てしも豫期の結果を得る事能はざりき。要するに近世史第一期は貨幣制度改革の時代なり。

金銀比價に就いては先きに述べし所なれ共、猶一言すれば比價の變動の著しかりしは第十六世紀にして、其初年に於いては一對一二位なりき。第十七世紀に至つて、交通の便大いに開けたると、通商の頻繁となりし爲めに、比價の激變を防遏するを得るに至れり。猶左表に依つて其變動を詳かにすべし。

年 代	金	銀	年 代	金	銀
一七〇〇	---	一四、八〇	一七五〇	---	一四、四七
一七一〇	---	一五、二三	一七六〇	---	一四、九七
一七二〇	---	一五、〇六	一七七〇	---	一四、九三
一七三〇	---	一四、八二	一七八〇	---	一四、六九
一七四〇	---	一四、九八			

金銀比價
の變遷

古代の銀行制度

銀行業伊太利におこる

兩替商

國立銀行の設立

英蘭銀行の設立

今日の銀行に類するものは、既にバビロニア、ギリシア、ローマにも存在せしが、是らの機關は、ゲルマニ民族の侵入により、ローマ文化の一時埋滅せしと共に、滅び失せぬ。近代に於ける銀行業は近代文明が其曙光を放つに及びイタリーにおこれり。イタリーに於ける銀行の濫觴は兩替商にして、前述せるが如く十二世紀の頃、チェノアの兩替商は既に預り金、貸付、帳簿上の振替、送金、爲替等を營みたり。而して他の諸市に於いても兩替商を營むものを生せしが貨幣制度不備なりし結果、兩替商は案外にも進歩せり。(ユダヤ人は、兩替商として活動せり)かくして、兩替商より發達し來れる銀行は、一方預金をなすと共に、資金を王侯貴族等に貸與し、又自ら放資せり。ベネチアの政府は是れが監督官を設け、千五百八十七年には國立銀行を設立するに至れり。かくて十六世紀末より十七世紀の始めへかけて國立銀行は、イタリー、ドイツの諸市に設立せられき。アムステルダム、ロッテルダムの銀行は當時著名のものなりき。

イギリスの銀行業は、列強中比較的遅れて、第十七世紀中、未だ幼稚の域を脱する事能はず然れ共、十七世紀末、英蘭銀行の設立せらるゝや、各國共に此銀行に類するものを設立するに至れり。先きに述べしが如く、エリザベス女王の朝、幣制改革ありしも、夫れ以前に於いて、輕量の貨幣盛んに行はれ、其結果重量の貨幣即良貨を藏し、惡貨を出して莫大の利益を得るも

國立銀行
設立の健
議

の、又預り金をなして利子を拂ひ、この預り金を利用するものあるに至れり。次第に其の勢力を擴張して政府に貸金をなすに至りしに、カロ、二世の如きは、千六百七十二年に國庫を鎖して負債を返還せず、恐怖心を民間に與へたり。此に於いてか、大陸諸市の如く一大銀行を設立せんとの議起れり。千六百八十八年フランスと戰ふや、財政大いに窮乏を告げ、八分利付の公債を募集して、僅かに百二十萬磅の公債を得たるのみ。此時に際しスコットランド人ウキリアム・ペーターソンはモンタキユ伯に國立銀行設立の件を建議せり。其要は、

「此銀行は株式組織にして、英蘭銀行と云ふ。政府は是れに特權を與へて無税とし、代ふるに八分の利を以て政府に三十萬法以内の額を必要に應じて貸しつくる約束をなさん」

と、この計畫は採用せられて、千六百九十四年七月廿七日に設立せられたり。これ英蘭銀行なり。政府は又英蘭銀行に兌換券發行の特權を與へ、其事業をば爲替手形、貴金屬の流込、抵當物品等の取扱に限りぬ。この特許の期間は始め千七百五年八月一日迄なりしが、漸次延期せられて千七百年となり、資本金を二百二十萬千七百七十一磅とし、同額の「バンクノート」を發行する事となせり。

英蘭銀行
に兌換券
發行の特
權を與ふ

銀行紙幣の起原はイタリイにあり、ヴェニスは第十五世紀の頃、ジェノアは十六世紀に於い

銀行紙幣
の起原

て既に之を有せり。ロンドンの私立銀行亦預金に對して手形を發行し、其持參人には引換に錢貨を交付したり。是れを「Gold smith Note」と云ひ銀行紙幣の一種たり。英蘭銀行も、初二磅以下の紙幣を發行し、十八世紀の中葉後五磅十磅の二種を出せり。

爾後英蘭銀行の勢力は、イギリス全土の商工業を支配し、重要な金融機關となりぬ。又大陸に於いても兌換券發行の銀行はフランス、デンマルク等に設立せられしも、概ね紙幣發行の方法を誤りたるが如し。特にフランスに於いては、ジョンラウが設立せる銀行は投機の性質を有し、一時盛況を呈せしも其方法宜しからざりしたため瓦解して、大恐慌を來し財界に悪影響を與へたり。

大陸に於
ける銀行
制度

この頃に至り、社會に大富豪の出現をみるに至れり。南獨逸の大富豪フツガー家の如きは其一例たり。フツガー家の祖はもと一箇の貧しき田舎織物師なりしが、ヤコブ(一四五九—一五二六)の時に至り金融業者、政治家として成功し金融界に於いて西及び南ヨーロッパを風靡せり。(資會四千萬弗)一五二七年に於けるフツガー家の財産は

二七〇、〇〇〇(フロリン)	鐵山	一五〇、〇〇〇	其他の不動産
三八〇、〇〇〇	商 品	五〇、〇〇〇	現 金
一、六五〇、〇〇〇	貸 附	四三〇、〇〇〇	同業者の私勘定
七〇、〇〇〇	諸當座勘定	三、〇〇〇、〇〇〇	合 計

(一フロリンは現在の八弗)

さしも榮えフツガー家も一五六三年に至り、貸借の關係常調を失し、やがて家族間に爭議を生じ、つひに莫大の貸金を回収し能はずして倒産するに至れり。

第二期 産業革命より世界大戰前に至る

「千四百九十二年の新大陸發見より、千七百六十九年の蒸氣機械發明に至る迄の第一期の歴史は終りて、更らに近世史第二期の歴史に入らんとす。第二期とは、千七百六十九年蒸氣機械發明以後現今に至る迄の時期を云ふ。通例史家は、この時期を、

蒸氣時代 (The Age of Steam)

電氣時代 (The Age of Electricity)

と分つ。是れ分類の宜しきを得たるものなれ共、本書は此區分に隨はずして、蒸氣機械發明後を第二期として、説明せんとす。この時期は、年數より云へば百四十有餘年に過ぎざれ共商業上の進歩は、絶大にして、前古其比なき所なり。されば商業家の最も意をつくす可き時期なりとす。

産業革命
より現代
に至る

蒸氣時代
と電氣時代

第一章 機械の發明及び交通の發達

近世史上、最も注意すべきは機械の發明なりとす。歐洲大陸に於いては、十八世紀に至りて産業發達の兆向著しく、特にイギリスに於いて然りとす。この世紀にイギリスに於いては、

- (1) 商業革命 (Commercial revolution)
- (2) 農業革命 (Agricultural revolution)
- (3) 工業革命 (Industrial revolution)

行はれて、商業、農業、工業著しく進歩し、文明發達上多大の貢獻を與へたり。此現象はたゞにイギリスのみならず、大陸諸國に及べり。これらの革命の中、所謂工業革命なるものは、社會上最も大なる影響を與へたるものなるが、其直接の動機は、蒸氣の發見にあり。元來器物の中に密閉したる蒸氣が非常なる力を有する事は、古人の既に知れる所にして、埃及、ギリシヤの僧徒等は是を假りて荒誕奇怪の談を粧ひぬ。例へば前百二十年にへロはエイオリブルと云へる蒸氣力應用の玩具を作りて世人の驚嘆をかへり。

「エイオリブルは水を盛りたる小軸を中央に直立し、軸上に空球ありて球より横管四方に出

イギリス
に於ける
商業革命
農業革命
工業革命

工業革命
の原動力
は蒸氣力
の發見に
あり

エイオリ
ブル

で、管端直角に屈折せり。故に軸中の水沸騰すれば蒸氣は横管の口より噴出して球をして軸上に旋回せしむ」

蒸氣力應用の進歩

こは一種の哲學上の玩具に過ぎざれ共、當時既に蒸氣の應用せられしを知る。後千五百四十二年に、グラスゴドカレイは蒸氣力を用ゐて、每一時三里の速力を以て、二百噸の船を運轉せり。千六百十五年に佛人ソロモンデカウクスは、氣力を用ゐて水を噴上せしむるの小試験をなし、其後、是れが研究に従事する人々ありしも未だ、是れを實地に、工業に應用する事能はざりき。これに成功せしは、スコットランドの人、ジェームスワットなり。ワットは苦心慘憺の結果、千七百六十九年に蒸氣力を器械に應用する事を始めたり。然れ共、蒸氣機關として實地に行はるゝに至りしは、十九世紀の事とす。此に於いてか各種の工業は面目を一新して、こゝに近世工業を組成するに至れり。

ジェームスワットの功勞

「ジェームスワット(一七三八一—一八一六)は幼より實驗的理學を好み、殊に機械に意を注ぎ、數理的機械製造を職とせしが、千七百五十六年、グラスゴド大學の機械製造工となり、常職の餘暇理化學語學を研究せり。千七百六十四年、大學よりニウコメンの製作せる蒸氣機械の修覆を命ぜられ、是れを修理せし間に大缺點のあるを看破し、苦心の結果、千七百六十九年に、蒸氣

機關の特許を得しが、未だ實用に供せられず。始めは唯鑛山の揚水に應用せられしのみなり

紡績業に機械を應用す

此蒸氣機關は、始め鑛業に應用せられしが、千七百八十五年以來、紡績織布に用ゐらるゝに至れり。就中、綿の紡績業に使用せらるゝ事多くして、是れが爲め綿花貿易の隆盛を來し、羊毛は綿花の壓倒する所となれり。又化學の進歩と共に、染色漂白術も改良せられたり。かく蒸氣機關の發明以來、天然物の中、鐵と石炭の需要を増加するに至れり。石炭は、蒸氣機關運轉に關して必要缺く可らざるものにして、石炭の中に含まれたる力は實に偉大なり。嘗て英國の一經濟學者は「英國に於いて一年間に産出する石炭と同様の燃料を得んと欲せば、英國の總面積を二倍半大にしたる程の森林を要す」と云へり。通例機械力の單位として用ゐらるゝ一馬力は、三頭内外の馬力に相當するものにして、十人乃至二十四人力に匹敵するものなり。千八百四十年に於ける世界が使用せる蒸氣力は百五十萬馬力なりしが、十九世紀終りに、この五十倍に増加したり。十九世紀の末、獨逸に於いて生産業運送業に従事せるものゝ數は千萬人内外なるが、其蒸氣力を人數に換算すれば、二億五千萬人力に相當せしと云ふ。これ蒸氣力の偉大なる事を證明するものなれ共、又其原動力の根本たる石炭の必要を語るものなり。しかも現代に

鐵と石炭の必要

石炭の偉大なる力

機械力の偉大なる點

於いては、石炭は蒸氣機關にのみ必要なものに非ずして、あらゆる工業に必要ななり。

鐵も又近世工業上必要缺く可らざるものにして、「鐵と石炭は近世工業の二要素なり」とは適言なり。歐洲に於いては十九世紀以前、鐵は傾る拂底せしが、機械工業の盛大なるにつれて其産額を増加したり。鐵と石炭の必要此くの如し。これ、鐵と石炭の産額が豊富なる國が榮え貧弱なる國が衰ふる所以なり。

然れ共、蒸氣機關の發達は、始めは徐々として速かならず。是れが急激なる進歩は千八百五十年後の事とす。

又、蒸氣力を交通機關の上に應用したるは、十九世紀の事とす。是れを汽船に應用したるはアメリカ人、フルトン（一七六五—一八一五）なり。彼れは、蒸氣力を船に應用して蒸氣船を造り、千八百七年にハドソン河上にて試運轉を修了して成功せり。これ以後漸次航海用に供せられ、千八百十九年にサバナ號は、廿九日の航海の後、大西洋を横斷せり。然れ共、こは汽船と帆船とを兼ねたるものにして、順風の時には、帆を掲揚して外輪を取除き得るやうせしものなり。純粹の汽船にて大西洋を航海したるは、千八百三十三年カナダのローヤルウイリアム號なれ共、途中石炭積込の爲めビクトリーに寄港せり。米國より英國に直航したるは、千八百三十八年のグレイ

蒸氣船

鐵と石炭
は近世文
明の二要素蒸氣船に
て大西洋
を横斷す

トウエスタン號なり。この航海は、當時の人の意外としたる所にして、千八百四十年に、郵船會社キューナードの第一航海船が、ボストンに到着したる時は、其船長は廿四時間内に千八百七十三通の招待状を受けたりと云ふ。これ當時の人情を語つて餘りなきものなり。かく汽船は始め近海航路にのみ使用せられしが、漸次改良せられ、千八百七十五年以來、船體、機械の改良、大いに進み、あまねく海洋を航するに至れり。汽船進歩の要點は、

蒸氣船進
歩の概況

(1) 初期の汽船は凡て兩船側の車輪に依つて推進せられたり。千八百四十五年に初航海せしグレートブリテン號以來、船體は鐵、而して螺旋推進器を使用するに至れり。千八百八十九年のニューヨーク號以來、双螺旋推進器を使用するに至れり。其他あらゆる點に於いて改良進歩を見たり。

(2) 速力の増加と船體の増大は著しき傾向なりとす。大船は小船に比して、(A)船舶の運送力は、其容積の立方尺に隨て増減すれ共、船體に對する水の抵抗力は、其平方尺の増加に隨つて増加するに過ぎざるを以て、大船が其積載貨物の一噸に對して消費する石炭の量は、小船に比して少なき事、(B)大汽罐は小汽罐に比して石炭を節約し得る事、の利益あり、是れに加へて千八百七十五年來、鋼鐵價格の低落は、益々この傾向を強めたり。千八

帆船の勢力

百四十一年に於ける英國汽船の總噸數は、十八萬八千噸に過ぎざりしが、二十世紀に入るや一隻の汽船にして二三萬噸を有するものあり。千八百四十一年に於ける英國汽船の有せる總馬力は五千馬力なりしに今や一隻にて三萬馬力を有するものあり。

かく現今は汽船萬能の時代なれ共、猶帆船も相當の勢力を有せり。然れ共、第十九世紀に於いては、常に帆船の勢力大にして、千八百七十年には帆船の總噸數は猶、汽船總噸數の四、五倍に達せりと云ふ。即帆船が數と噸數に於いて、汽船に壓せらるゝに至りしは千八百七十年以後の事なりとす。而して蒸氣船の發達が商業上に與へたる結果は、

(1) 航路區域の擴張、

(2) 航海日數の短縮と其確定 十九世紀の始め帆船の改良と共に、航海日數漸く減せしも猶ロンドンよりカルカッタ迄四ヶ月を要せり。十九世紀半には汽船を利用して、九十日を以て航行し得るに至りしが、今や其三分の一に減せり。又大西洋航路に於いても、モレタニア號の如きは、四日十時四十一分を以て大西洋を横斷するに至れり。かくして、タイムの上の距離を短縮するに至れり、

(3) 運賃の下落 運賃下落の原因は、船體構造の進歩より來れり。千八百六十年頃の汽船

蒸氣船の發達が商業上結果へし

汽船發達の概況

は「三千噸の汽船は機關のため二千二百噸を占領せられ、貨物を積載し得る部分は八百噸にすぎず」と云ふ有様なりき。運賃下落は是等の改良より來れり。千八百七十年頃より年々下落の傾向あり。今日、ランカシャの紡績業者が原料をアメリカより取寄る運賃は、六十年前に比すれば、實に六十分一に過ぎずと、等にありとす。

猶、汽船發達の概況は左表に就きて見る可し。

年 度	汽 船	帆 船	年 度	汽 船	帆 船
一八〇〇	百萬噸	四、〇	一八六〇	一、七	百萬噸
一八二〇	〇、〇二	五、八	一八七〇	三、〇	四、八
一八三〇	〇、一	七、一	一八八〇	五、八	一二、九
一八四〇	〇、三	九、〇	一八九〇	九、〇	一四、四
一八五〇	〇、八	一一、四	一八九九	一三、〇	一二、六
					一一、〇

又陸上交通の状況を見るに、千八百十年頃に於いては、各國內に於ける運輸交通は、運河と河川の他は道路に依頼せざる可らざりき。十八世紀に於ける道路は一般に粗悪にして、フランス

道路の改良

の道路の如きは單に地上を踏固めたるものに過ぎずして、何等人工の加へられしものに非ざりき。十八世紀より將さに十九世紀に移らんとする頃より、歐洲西部の道路は著しく改良せられたり。思ふに此頃道路を新開し、又は修繕のために投資したるものは、其道路の爲めに通行税を取得る事となりしが爲めならん。かくて千八百年より千八百五十年迄の間に道路は著しく改良せられたり。此結果、貨物の運送賃は半額に減じ、同時に速力も増加せり。以後現今に至る迄是れが進歩は驚く程なり。

運河時代

然れ共、交通運輸上、陸行よりは水行を便なりとするは、古來同じき原則なり。依つて自然の恩恵に浴せざる地方は、往々人力を以て運河を開鑿して、この缺を補はん。これが爲め千七百五十年より千八百五十迄約一世紀の間、運河時代を現出せり。イギリスに於いては、千八百三十八年頃、ダラム以南に於いては、如何なる山間の地と雖も、水運の便を距ること十五哩以上に達せざりしと云ふ。然るに鐵道の發達以來、其價值比較的減じたるを以て、千八百五十年後延長の度合を減じたるは止むを得ざる所なり。蒸氣力を陸上交通具に應用して、交通上の一大革命をなし、道路の發達と共に、近世文明に大貢獻をなしたる蒸氣鐵道は十九世紀に至つておこり。元來蒸氣力を陸上交通機關に應用する事は、千八百二年以來イギリスにて暫

蒸氣鐵道
おこる

ジョージ・スチブソンの功

リバプールとマンチェスター間の鐵道

鐵道熱の勃興

鐵道の發達

鐵道の改良

々試験せられしも常に失敗に終れり、終ひにジョージ・スチブソンは千八百十二年に汽車製造に成功し、千八百十四年、是を實地に試みて成功せり。千八百二十五年にスタクトンとダートリントン間に列車を運轉せり。當時リバプールとマンチェスターの間には(二十哩)三箇の運河ありたれ共、非常に貨物の澁滞を來し、海岸より工場へ原料を送るに一ヶ月を要せり。千八百三十年、此兩市間の鐵道を敷設し、一時間廿九哩の速力にて往復せり。これ實に鐵道の試験時代にして、これ以後英米兩國に鐵道熱勃興し、大陸に傳はるに至る。フランスは千八百五十年、ドイツは千八百六十年頃より俄かに哩數の延長を見るに至れり。而して未開地の開發の目的を以て敷設せらるゝもの多し。ロシアの西部利亞鐵道、イギリス、フランスのアフリカ鐵道、各國の支那に敷設せる鐵道、イギリスのインド鐵道の如き然り。全世界に於ける鐵道延長の總計は千八百三十年に三百三十二キロメートルなりしが、千九百五年には八十九萬キロメートルとなれり。

鐵道は、千八百三十年代より、幾多の改良を施し、現今の如き完全なるものとなれり。改良の主點は、

(1) 汽罐車の改良 鐵道に關する改良中最も注目すべきは汽罐車及び列車の改良なり。汽

罐車進歩の概況は、

	重量	牽引力
初代の汽罐車	五六噸	四〇噸
改良せしもの	二五	一、二〇〇
二十世紀最初の汽罐車	五〇	二、四〇〇

(2) レールの改良 鐵軌は磨滅損耗し易きのみならず重量にたえず、千八百六十年後、これにかふるに、鋼軌を用ゐるに至りてより、保存力と輸送力とを増加せり。しかも鋼鐵の採用は、巨大なる汽罐車を運轉しうるのみならず、貨車の重量を減するに至れり。二十噸を運送せんが爲めに十二噸の貨車、三十噸を輸送せんが爲めに、十四噸の貨車にて可なるに至れり。この結果、大いに列車の重量を減じ、隨つて其製造費を減じ、軌道の損耗を少ふするに至れり。

かくして、鐵道は、現在一國の經濟上、商業上、必要缺く可らざるの要素となれり。

鋼鐵の効用 蒸汽船並びに蒸汽鐵道が今日の進歩をなせる一因は、鋼鐵の効用にきせざる可らず。しかも多くの鋼鐵を製して、莫大なる需要に應ずるに至りしは、千八百五十五年

鋼鐵の効用

電氣力の應用

フランクリンの功勞

電信機發明

海底電線の敷設

電話機の發明

に英人ベツセマー氏が特許を得たるベツセマー式と、千八百七十年頃ジーメンズ・マーチン氏の發明せる無蓋爐製鋼法の發明以來の事なりとす。讀史者は、ベツセマー氏及びジーメンズ・マーチン氏の努力に感謝せざるを得ざるなり

又電氣力の應用は特に注意を要する所とす。元來琥珀等を磨擦する時は、羽毛其他輕きものを吸引する性質のある事は前六百年頃、サールズ、既に是れを知れり。然れ共、これが根本に遡つて研究する人なかりしが、十六世紀頃よりして研究者出で、千七百五十二年にフランクリンは雷雨中紙鳶を放ちて雲中の電氣をレイデン甕中に導き、器械を以て發作したるものと同じなる事を發見せり。爾後幾多の學者の研究の結果、是れを電信機に應用せしは、アメリカ人モールズ(一七九一—一八七二)なり。モールズは幼より畫を好みしが、嘗て英國に遊び歸途、船中にて電信の談話をきき、感奮して研究し、千八百三十七年に是を發明し、七年の後之を實地に使用せり。又七年をへて英佛間の海底電線敷設となり、更らに七年をへて海底電線は大西洋を横斷せり。世紀末には世界に於ける陸上電線の延長は二百萬キロに及び、海底電線又四十二萬キロに及ぶ。電話機は、ドイツの理學者フイリポライスの考案に基きて(一八六四)グラハム・ベル、これを千八百七十六年に發明せり。又是れと同時に、スコットランド人ダビッドソン、イギリスのヘンリー・

無線電信の發明

飛行機、飛行船

ピンクス、アメリカのモーゼス等の研究に依つて實用に供せらるゝ電車は、千八百七十九年ベルリン工藝博覽會の時、實地に用ゐられ、これ以後盛んに使用せらるゝに至れり。又伊太利人マルコニは無線電信を發明せり。此無線電信は、世界列強が争ふて研究する所にして、是れを實地應用して、幾多の便利を得つゝあり。文明の進歩は停止する所を知らず。古人が夢想せざりし、飛行機飛空船も研究せらるゝ所となれり。十五世紀の頃、ダーヴィンが飛空の原理を説いて以來、是れが研究は遅々として振はず、千八百九年、英人カレイの失敗以來、これが研究は等閑に附せられしが、十九世紀の末葉より研究愈々進み、實際に空中を飛行するに至り、今や軍用時代を過ぎて實用時代に入りたり。要するに、交通機關のこの異常なる進歩は、我が最近世の商業を生めるものなる事を忘る可らず。吾人は猶、世界の經濟上に一大變動を與へたる(一)スウエズの運河、(二)パナマ運河に就いて一言せざる可らず。さてもスエズの地峽を開鑿せんどの計畫は遠き古代より人々の腦中に浮びたる事にして、基督降誕以前既に舟楫の便を有したりしが、中世紀に至つて全く廢滅に歸したり。されど歐洲と東洋との貿易再び旺盛を極むるや、スエズ運河は必らず再開せらる可き運命を有したるなり。十八世紀の末葉より十九世紀へかけて、スエズ運河再開の計畫を腦中に描き出したる人は枚舉に暇あらざる可し。而して實

スウエズ運河

レセツプ氏の功

主なる株主スウエズ運河とイギリス

スウエズ運河の開通が商業上にとり與へたる結果

際に於いて是れに成功し、其頭上に月桂冠を戴きたるものは、フランス人レセツプなり。彼れは、百の反對者を排して千八百五十四年に免許を得、千八百五十八年に會社を創立し、翌五十九年四月廿五日よりポートセツトより工事を始め、千八百六十九年十一月十七日に完成せり。この會社は始めより政治上の關係なく各國民の資本よりなれり。通行税も各國一様とせられたり。然れ共主なる株主は埃及とフランスなり。總資本額千九百萬磅に及べり。千八百七十五年、埃及王は三百萬株をフランス資本家に賣らんとす、イギリス人は是をき、四百萬磅にて是を買收して終ひに大株主となりぬ。スウエズ運河の開通が、交通上、商業上に與へたる結果は、

- (1) 喜望峰迂回は、時日を要する事多く、當時の汽船は石炭の窮乏を告ぐるを以て、此航路には帆船を用ゐたり。今や此必要減せしを以て、帆船の二百萬噸を不用にさせしめたり。
- (2) 距離短縮の結果は、航海日數の短縮となり、ロンドンよりカルカッタ迄三十日以内に達し得るより、歐洲市場に於ける東洋物産の價格を下落せしめたり。
- (3) 此結果、從來の如く東洋物産を歐洲に貯蓄するの必要なく、歐洲諸國は勿論、合衆國の如きも、是が供給をイギリスに仰ぐに至れり。
- (4) ヴアスコ、ダガマのアフリカ廻航以來、一度び衰へし地中海は再び世界の公道となれり。

り。

パナマ運河の開通

要するに、スエズ運河の開通は世界文化の上に一大影響を與へたと共に、東洋、西洋の關係をして密接ならしめたり。是れと共に前世紀後半以來の問題にして、世界の視聽を集注せしめしパナマ運河は千九百十四年八月十五日開通し、世界各國の船舶の爲めに開放せらるゝ事となれり。この結果、歐洲諸港より米洲西岸に至る航路、東西岸に分れたる中米諸港間の距離は著しく短縮せられたり。特に吾人に取りて最も興味ある問題は、東洋諸港とニューヨークとの距離は、スエズ運河を通過するよりも近くなりし事とす。この變化が通商貿易の上に及ぼす可き影響は今後の研究問題なりとす。スエズ運河及びパナマ運河の開通と、シベリア鐵道の全通は、近世交通上に一大革命を與へたるものと云ふ可し。

近世交通上の一大革命

交通機關の發達と共に、通信方法の進歩も、商業史上の一問題とす。史を按ずるにベルシヤ王ダリウス、ローマの帝政政府、東ローマ帝國、アラビヤのカリフ帝國及カロリング朝の諸王が通信制度を施設せしとは云へ、單に政治上、軍事上の目的に供せしに過ぎず、八百七七年に、カール大帝は、イタリー、西部フランス、ドイツ帝國中の諸要地に、定期に往復して通信の便をはからんと計畫せしも、こは唯一時的の事に過ぎざりき。通信事業の進歩は全く十字軍以後

フランスの郵便事業

タキシス家の郵便事業

タキシスの人物

にあり、ハンザ同盟の通信制度の如きは見る可きものありき。西歐諸國の國家の中央集權なるや郵便事業は國家の事業の一部となりしも、未だ不完全なる事を免れず。郵便制度の整頓につき先鞭をつけしはフランスなりとす。千四百六十四年に、ルイ十一世は國中に驛傳通信の制を設けて、始めは専ら國務の爲めに是れを使用せしが、後には人民の使用にも供して、人望を得たり。然れ共、郵便制度が世界的の性質と大經營の形式を取るに至りしは十六世紀に於ける獨逸のタキシス家の努力に依れり。タキシス家はルドルフ帝の許可を得て、郵便事業の改革に従事し、郵便總督の職を世襲して、千八百六十七年迄永續せり。同年に、三百萬ターレルを以てブルシヤ政府に、其權利を買収せられたり。

二 タキシスはマイランドの人なりしが、仔細有てドイツに移住せり。彼れは宿驛集配の制を定め、オランダ、ドイツの首府と、フランス、スペインの首府との間に直接に書信を往復する方法を案出して是れを實行せり。彼れの子孫は、十九世紀迄も郵便事業に努力せしが、ブランデンブルグ、ザクセン其他の大諸侯は、この制度に服さざりしを以て、タキシス家の困難は尋常ならざりき

二 かくして、他の諸國もドイツ諸州にならつて、道路の改修、郵便馬車の使用等一意此事業の

郵便制度の改良

完成に従事せり。然れ共、郵便制度に根本的の改善を與へて、世人の要求に満足を與ふるに至りしは、十九世紀中葉よりの事とす。これ以前の郵便制度は極めて幼稚にして、料金頗る高かりき。例へば千八百二十七年頃イギリスにては書狀一通につき、

- 十五哩以内 四片
- 八十哩以内 八片
- 三百哩以内 十二片
- 六百哩以内 十五片

なりき。人口の増加、商業の繁昌を加ふるに随つて此制度は破れざるを得ず、これ千八百四十年にイギリスに、改革運動のおこれる所以なり。ローランド・ヒルは幾多の反對説を破りて、英國內に於いて、半オンスを超へざる書狀は總べて一片として、郵便切手を發行せり。これ郵便制度上一新紀元をなすものにして、國內統一制の始めなり。フランスは千八百四十九年、オーストリアは千八百六十一年に、この制度を採用し、漸次各國に行はるゝに至れり。又郵便葉書は、千八百六十五年ステファンの創意にかゝり、千八百六十九年始めてオーストリアに採用せられ、翌年北ドイツ同盟に採用らるゝや、漸次各國に行はるゝに至りぬ。此後、時代の

千八百二十七年にイギリスの郵便料金

郵便切手發賣

郵便葉書

郵便聯合の始め

萬國郵便聯合制度
萬國電信管理局
萬國郵便聯合事務局

郵便局の任務

郵便貯金

進歩に伴ひ、更らに此制度を擴張して、經濟上密接の關係を有する國家の境界を撤するの必要を甚しく感じ、千八百五十年に、プロシヤ、オーストリア兩國の郵便聯合成立し、次いでドイツの諸邦これに加はるに至れり。此傾向は益々必要を感せられ、千八百七十四年のベルン列國會議以來、萬國郵便聯合制度おこれり。千九百四年に於ける加盟國家の領土は、一億千三百萬平方米突、此領土内の人口は十二億萬に達せり。郵便萬國制度の機關たる、萬國電信管理局、(一八六八) 萬國郵便聯合事務局(一八七八) はすべてベルンにあり、此制度と共に、通信上に大なる影響を與へたるは電信制度なり。電線を架空して通信の用に供せしはドイツを以て始めとす。(一三八) この制度は電話と共に、最近の商的活動をして、敏活ならしめたり。

郵便制度の進歩と共に、郵便局の事務は益々繁雜を極むるに至れり。郵便局は貨幣送達の事務をも取扱ふを以て、一種の國家的、世界的中央銀行の性質を有するに至れり。郵便貯金の發案者は、イギリスのウイレルム・シーケスにして(一八五九) グラッドストーン此議を容れて、郵便貯金の法を制定し、千八百六十一年に開始し、漸次世界各國に用ゐらるゝに至れり。かくして、郵便制度の進歩は、郵便物發送高の増加となつて現れたり。

英國に於ける發行高の増加	
年	人口一人につき
一八三九	三通
一八四〇	四
年	人口一人につき
一八七二	二八
一八八二	三五

又千九百年に於いて、人口一人につきアメリカは百通、イギリスは八十五通、ドイツは八十一通、フランスは五十五通、イタリーは十七通、日本は十三通なりとす。要するに今や郵便制度は、日常の必要物となり、始めは一部國民の用たりしものが萬民の便利となり、地方的の性質は一變して、世界的のものとなり、以て現代社會の活動の源泉をなしつつあり。

日本に於ける乗物の創始

- 乗用馬車——明治二年四月始めて東京市にあらはる。
- 人力車——明治二年和泉要助發明、明治三年三月營業開始。
- 鐵道——明治五年新橋横濱間開通。
- 自轉車——明治十五年輸入さる。
- 電車——明治二十八年一月京都七條二條間開通。
- 自動車——明治三十年頃輸入。

郵便制度
世界的と
なる

第二章 商工業經營法の進歩

文明の進歩

十八世紀の中葉より十九世紀へかけて學理の進歩頗る速かにして、社會の事物を一新せしめたり。十九世紀に入りて近世式交通機關の完備するや、商業の範圍擴大し、其取引は敏活となり、商品の販路は大いに擴張せられ、大生産を必要とするに至れり。又製造工業、農業の進歩は、商品の種類を増加し、商業隆盛の一因をなせり。試みに思へ、吾人は今日文字を記するに鋼ペン、フハウテンペン、若くはタイプライターの何れかを使用するを得べしと雖も、十八世紀末葉に於いては、斯の如きものを製造する工場は未だ世界に存在せざりき。試みに一箇の町に就いて云はんか、ライプチヒに於いて、千七百五十一年に百十八種の異なる産業存在せしが、千八百九十年には五百五十七種となれり。即ち百卅九年間に四百三十九種の新産業を現出したり。産業發達の大勢此くの如し。これに加へて機械工業の勃興は、手工業、家内工業の如き小組織にては、到底多數の労働者及び資本を使用して新式の機械を使用する能はざらしめたり。此に於いてか多數の労働者を使用し、巨額の資本を運用する大會社おこるに至れり。これ全く十九世紀に於ける商工組織の特徴なり。

産業發達の
實例

大會社制
度の現出

イギリスの商業一
家の所なり

家内工業
の衰退

十九世紀
初期に於
ける概況

イギリスが十九世紀に於いて世界一の商工業國となりし所以は、人口の増加、自由貿易制度の採用、製造原料品の饒多なる事(各地に殖民地を有するがゆえに)、資本の豊かなる事、何れも其原因なるべけれ共一面より見れば、近世文明の二要素とも云はるゝ鐵と石炭を無盡藏に有するが故なり。これ即ちイギリスが比較的早く工業の進歩を見し所以なり。十八世紀の末葉、イギリスに於いて種々の紡績機械、織物機械發明せらるゝや、漸次工場制組織が是らの事業に應用せられ家内工業に依つて紡績織物に従事せしものは漸く其職を失ふに至れり。蒸汽罐の應用と、機械の進歩は益々家内工業に壓迫を加へたり。十八世紀の頃に於いては、鐵の價頗る高くして、あらゆる機械に鐵を應用する事は、頗る困難を極めたり。千八百二十三年にジョセフ・ナスミスはカロン製鐵所を訪ひ、其實見する所を記して曰く、

「機械の多くは木製にして、其作用は概して良好なれども、其取扱ひ甚だ困難を感ずるものゝ如し」

と。當時英國一の製鐵所猶然り、他はしる可きのみ。然るに十九世紀以後製鐵の供給豊かとなりし結果、あらゆる機械に是れを應用するに至れり。特に鋼鐵の製法進歩して以來、機械は益々精巧となりぬ。この結果は、工場制組織は、あらゆる工業に及び十九世紀中葉に至つては、

工場制萬
能の時代

フランス
革命の賜

イギリス
の製品は
實用的
美術的

工業の進
歩遅々た
るドイツ

家内工業は殆んど跡を絶ち、全く工場制萬能の時代となりぬ。イギリスに次いでこの工場制を採用せるはフランスなり。フランスの工業は、ルイ十四世の時コルベールの保護政策に依つて一時隆盛に向ひしも、猶家内工業の制度なりき。手工業者の同業組合の勢力大にして、工業の發達を害する事多かりき。フランスの工業の弊習を打破したるは、フランス革命なりとす。同業組合の制度廢せられて營業自由の主義が認められたるは全く革命の結果なり。元來フランスに於いては、工業の組合制度の根據堅く、尋常の手段を以て打破する能はざりき。革命前に於けるフランスの工業は微々たるものにして、イギリスの工業に及ばざる事大なり。然るに、ドイツにては彼我優劣あり、イギリスの製品は實用的、フランスのは美術的なり。フランス工業は、ベルリン勅令以來活氣を呈し、ナポレオンの極端なる獎勵によりて、無數の工場各地に設立せられ、漸次家内工業を壓し、十九世紀中葉に至つて、殆んど工場制組織となれり。

然るに、ドイツにては、家内工業盛んにして、是れを打破する事最も遅れたり。こは畢竟ドイツが數多の聯邦に分れ、各特別の關稅法を有して、互ひに競争せし故、工業組織を變更する餘裕なかりし故なる可し。然れ共、五十年代に於ける關稅及び營業自由の公認は工業組織の變

更に便宜を與へ、つひに工場法組織となれり。

かくして、歐羅巴、亞米利加の文明國は紡績、織布、醸造、製鋼、製紙等の製造は専ら工場制の工業となり、漸次製靴、指物、鍛冶、製本等廣くこの組織が應用せらるゝに至れり。是を要するに、美術品の如きものは二段として、其他の工業は、悉く工場制の工業となれり。隨つて其影響する所頗る大なり。

(1) 工場に於いて機械を使用し、分業に依つて大規模の生産をなす結果、生産費を節約して、價額を低廉ならしむ。この結果、手工業の産物を驅逐するに至る。

(2) 或る工業を一地方に集中して、特種の工業地を形成する傾向あり。

この工場制の工業も、共同の資本を以て、大々的に經營するの必要あり。又工業に限らず、商業に従事するにもこの必要あり、これが爲めに會社組織の發達を見るに至れり。會社の組織は十九世紀に至つて始めて起りしものに非ずして、十三世紀の頃、イタリーには既に合資會社、合名會社に類する組織ありき。この組織は十五世紀來西ヨーロッパ諸國にて行はれたり。又株式會社の起原は、かの東印度會社にあれど、株式の起原はイタリーにあり、十八世紀に於いてオランダ、イギリス、フランス、ドイツの特權ある世界貿易會社は漸次株式會社の形式を

工場制組織の效果

中世の會社制度

取り、同時に組合銀行、兌換券發行銀行、ベネチア及イギリスの銀行、保險會社等も株式會社として起りしが、イギリスの南海會社、ローマの西方會社、カポ、五世の東洋會社相踵いで破産するや株式會社の流行一時衰退せり。されど、之は一時的の現象なりとす。概觀するに、會社組織が一般に行はるゝに至りしは十九世紀以來の事とす。

近世の會社制度

近世の新會社は、千八百八年の商法の主意に基き、民法の規定により國家の認可を得て發生せり。其後、個人自由説起りて、特許規定はオーストリアを除く諸國に廢止せられ、創立者及重役の責任制度起りぬ。ドイツが千八百八十四年に發布せる立法は其模範なり。千八百三十年以來、鐵道、汽船其他の進歩により會社制度盛んとなりしが就中、株式會社の制度最も盛んなり。千八百七十年より七三年へかけて株式會社の設立は其頂點に達したるが、千八百七十年の恐慌時代及び其以後の不景氣に依つて、一時多數の會社消滅せしが、千八百七十九年以來再び隆盛を極め、千八百八十三年より八十八年迄再び衰退し、又挽回して世界大戰前に至れり。あらゆる工業、商業皆會社組織となりしは、近世商業の一特質なりとす。會社制度の流行は各方面に及び、小賣商業の如きも株式組織にかゝる大店舗の新制度をひくに至れり。

然るに、最近商業上の競争は益々激甚を極め、この競争に勝利を得んには大資本を必要とす

資本合併の必要

會社組織萬能時代

るに至れり。此に於いてか事業を合併して、他と競争を企つるものあるに至れり。しかも合併の大規模に行はるゝや國內に於ける同一の事業を悉く合して競争を杜絶し以て市場を獨占せんと試みる事あり。

元來、狹隘なる地力的經濟の上に樹立せられたる封建制度の世の中に於いては、一般の文物と共に經濟も頗る停滞不變の状態にして常に平安無事なりき。手工業の時代に於ては、今日の如く無限に利益を増加せんとすの氣風なく、又個人自由なかりしかば競争はおこらざりき。然るに最近世に及んで各國に於いて商工業の上に自由が認めらるゝや、自由競争主義は經濟上にも確立せり。依つて資本的企業は無限に膨張せんとして、激烈なる競争をなすに至れり。しかも市場の擴大は、需要供給の觀測をして不正確ならしめ、加ふるに技術は日に月に進むが故に、人々は最も新なる技術を應用し且最も巧みに商機を利用せざる可らず。其結果、今日の企業には投機的の分子を含む事多し。かく波瀾大なる自由競争の世に處するは、頗る困難の事なり。此に於いてか此困難を防止して競争を杜絶し、利益を專斷せんとする運動のおこるは寧ろ當然の事と事ふ可し。これ事業合併のおこる所以なり。

北米合衆國に於いては千八百八十年頃よりトラストの組織流行して、世上の一大問題を惹起

經濟上の
自由競争
主義

事業合併
の起る所
以

トラスト

スタンダ
ード石油
會社

カーテル

ライン地
方の鋼鐵
のカーテ

せり。千八百八十二年に成立せるスタンダード石油會社は其魁をなす。この同種企業の合併より生じたる單一の大企業は、よく競争を防止し得るの實行をあげたるを以て、千九百一年にはロックフェラー、カーネギー等の關係せる合衆國製鋼會社おこれり。十二億弗の資本を有し、其勢頗る益んなりき。この他、砂糖、醸造、火酒等のトラストおこり、終ひに此傾向を益々強めつゝあり。其他大陸諸國に於いては、市場獨占の目的を達せんが爲めに、カーテルと稱する一種の團體を生ぜり。この團體組織にも種々あれ共、要するに單一企業體をなすトラストに比すれば、其結合薄弱にして、獨立せる多數の企業者の間に、種々の點に就き競争防止を定むる契約關係なり。トラストが加入者を全く束縛し、外部に立つ競争者を壓倒し、更らに進んで國內及び世界の市場を獨占せんとする攻撃的態度を持するに反し、カーテルは防禦的なり。千九百四年におこれるドイツ國ライン地方の鋼鐵業のカーテルは、三十六個の有力なる製鋼所の團體にして、同國產出高の九割五分を占むと云ふ。この組織に依れば、會員たる製鋼所の製品は悉く一個の共同の販賣所の手に引さうくるにありき。此のカーテル並びにトラストは、近世經濟界の產物なり。

我國もこの影響をうけて、事業合併の風おこれり。トラストとしては帝國製麻株式會社、東

日本に於

けるトラ
スト及び
カーテル

商工業會
議所
産業會議
所

商業會議
所の起原

京製鋼株式會社、大日本麥酒株式會社あり、カーテルとしては、紡績業に就き、大日本紡績聯合會の合同規約に依り生産の一部類に制限を行ひ、製糖業については、大日本精糖會社と横濱及び神戸の兩精糖會社との間に生産の制限及び共同販賣の合同規約あり、世界の大勢此くの如し。こゝに猶、記すべきは、國家に對して商工業者の利益を代表せる商工業會議所の事なりとす。現今商工業會議所は半官半私の性質を有し、其役員は互撰にかゝるも一種の行政權を有す。産業會議所は、ドイツ諸邦、フランスにあり。又商工業會議所は、オーストリア、ハンガリア（一八四八以來）、ドイツ諸邦、イギリス、イタリア、オランダ、スイス、ポルトガル、ブルガリアにあり、又獨立せる商業會議所は、プロシヤ、フランス、トルコ、北米合衆國等にあり特にプロシヤには、商工業會議所の外に農業會議所あり。

然らば商業會議所の起原は如何に、コルベール時代マルセイユに於ける大商人組合に發するものと云ふ可し^(一六六)。然れ共、嚴密なる意味に於いて、商業會議所の組織は、十九世紀後半にありと云はざる可らず。これが最初の設立は、千八百七十年に於けるコンスタンチノブルのオーストリア、ハンガリア商業會議所なりと云ふ可し。これ以後、各國に設立せらるゝに至れり。

第三章 労働問題

労働問題
は大工業
組織の産
物

労働問題は大工業組織の産物なり。工業の幼稚なりし所謂、手工業、家内工業の時代に於いては、雇主と雇人の關係は頗る親密にして、其間には家族的感情の流れあり。當時は年期奉公の制度にして、少年時代より主人の家に住み込みて其業務を見習ひ、其指導を仰ぎ、一定の年限をへて獨立する有様にて、主人と雇人の間にはゆかしき主従關係ありき。かゝる時代に労働問題の起る理なし。

然るに機械の發達と共に、工業は益々進歩して、其組織大規模となるや一工場にて數百人數千人の職工を用ゐるに至れり。この結果、雇主と雇人の間には家族的感情失せて、雇主は自己の利益のみを圖りて、職工には低廉なる賃錢のみより與へず、職工は一朝事ありて、病ひに犯さるれば山野路頭に迷はざるを得ず。法律上より云へば、労働者も自由の人なれ共、生活問題には打勝つ能はず。此不利益なる境遇に甘んじて、雇主に服従せざる可らず。此に於いてか労働者は自ら團體を組織して企業者に當るに至る。これ職工組合なり。イギリスは近世式工業組織の最も早く備りし國なるが故に、労働者の同盟は十八世紀の末葉よりおこれり。この同盟は

職工組合
の必要

イギリスに於ける労働者組合

組織あるものに非ずして、一箇人としては無勢力なる労働者が多数同盟して、雇主に敵對せんが爲めおこるものなり。彼等は同盟罷工をなすか又は企業者に危害を加へたり。これらの運動は、不景氣となりて、生活上の困難を感じるや常に爆發せり。

この暴動的の性質を帯べる組合は生じてはやみ、やみては生ずる事をくりかへせしの結果、種々の經驗を積み、組合の態度は漸次慎重となり、一方に資金を積みて萬一に備ふると共に、他方に於いては勉めて罷工をさけて、雇主と平和なる交渉をなすと云ふ平和的性質のものとなり。特に千八百五十年頃より職工中に有力なる指導者輩出し、機械工、紡績工、造船工等の同業組合を率ゐて、全國の同業者を合して強大なる同盟となし、今迄の如く秘密結社のものに非ずして公然たる組合となせり。かくして漸次國會の信用を得て、千八百七十年以來は法律上至當なる團體と認せられ、企業者の側にも労働組合を正當なりと認むるに至れり。しかも千八百六十年代よりして工業家の同業組合と職工の同業組合との妥協生ぜり。この結果兩組合より代表者をあげて、賃銀、労働時間、職工の待遇等につきて協議を告ぐる一種の機關を設くるに至れり。雇主と雇はれ人の組合との調和は一大進歩と云ふ可し。さすがイギリスは工業國丈けありて、現今普通の労働者は皆同業組合に加入し、同業組合は更らに相聯合して、全

進歩せる労働者組合

職工組合の發達

労働黨の組織

國労働者の團結を固め、労働黨の代議士を選抜して議會に參列せしむるに至れり。かくの如く一勢力となりて始めて労働者は有福なる資本家と對抗して、不利益なる服従に甘んぜざるを得るなり。かくの如く職工組合は、初めは雇主の壓制に堪えかねて暴發し、一種の同盟罷工をなせしが、暴は反つて成功する所以にあらざるを看破して、慎重なる態度を取り、終ひに社會上重要な團體となれり。

イギリスの職工組合の善美

又イギリスの職工組合の資金は始めは、主として同盟罷工を行ふ場合に、罷工者自身の生活を支へて雇主に對して頑強なる抵抗をなさんが爲めなりき。然るに今や、この資金は雇主に對する戰闘準備の金に非ずして、反つて彼等の病氣、負傷、失職に對する保險準備金となれり。されば職工らは是等の組合に加入して萬一、病氣、負傷の支障に依つて勞役に服する事能はざる場合には扶助金を得るが故に、將來を安じて業務に従事し得るに至れり。この結果、職工輩に有勝の「放埒生活」を防ぐを得たり。元來職工らが「酒をあふり、放埒的の舉動をなすは全く生活上餘裕あるに非ずして、自暴自棄の結果なり。この組合に加入せば、保險に加入したると同様の利益を得るが故に、彼等をして自暴自棄に陥らしむる事少なし。この職工組合は漸次各國に行はるゝに至れり。

同盟罷工の時代

各國政府の労働者保護事業

完美せるドイツの労働者救済事業

イギリスの職工損害賠償法

職工組合の制度完全して雇主との意志相通じられ共、猶同盟罷工はやまず、千八百八十年來は總べての國に同盟罷工行はれて絶ゆる事なし。第十九世紀の最後の三分の一は、同盟罷工の時代なり。この争ひは多く資本家と労働者との協調に終り全然一方の勝利に終るは稀れなり。ドイツにては、職工保護の爲め法定の保險會社をおこさしめ、労働者たるものは本人の意志にかゝはらず是れに加入せしめる定めなり。この制度はドイツ帝國及び或る程度迄オーストリア、ハンガリアに行はるゝのみなり。其行はるゝ以前には保險自由及び救済貯蓄法行はれたり。他のヨーロッパ諸國及び北アメリカ合衆國は今尙此状態にあり。ドイツに於いては千八百八十三年病氣保險をおこし、翌年負傷保險をおこし、其後老廢者年金保險をおこせり。かくしてドイツの労働者救済の大事業は完成せり。保險加入の義務を有する労働者の數は千二百萬乃至千五百萬に達せりと云はる。(現在にては世界各國ともに、労働保險を重要なる社會政策として之を重んぜり)

イギリスには労働者保護の保險制度はなけれ共、
職工損害賠償法 (Workmans Compensation Act)
を制定して同様の結果を收むる事とせり。

猶、記す可きは列國が行ひつゝある貧民救済事業なり。此の事業は第十六世紀以前までは、

貧民救済事業

工場法の制定

工場法の精神

寺院及び小團體の手にありしが、宗教改革及び近代資本主義の勃興以來國家及び公共團體の事業となれり。國家はこの事業を町村の負擔たらしめ、衛生状態の改良に意を用ゐ、保險、貯蓄救済事業を補はんが爲めに、貧民救助の法を設けたり。世界大戰直前において救助を要するもの數は、千二百萬人に達し、是れに要する費用は國民收入の百分の三乃至四に達せり。イギリスに於いては三千萬磅、ドイツに於いては一億馬克なりと云ふ。

近代大工業組織に於ける職工の境遇は先きに記せしが如くあはれむ可き状態なり。これを保護するの手段として、保險の制度、其他を以てしては猶足れりと云ふ可からず、國家は更らに進んで法律を以て労働者を保護せざる可らず。この法律は即ち工場法なり。

現今各國に行はるゝ此種の法律の要點は、

- (1) 婦人小兒の労働制限
- (2) 各種労働者の労働時間の限度
- (3) 工場の衛生
- (4) 危険の防止
- (5) 賃銀代用物品支拂の禁止

イギリスが先づ労働者保護を以て

(6) 工場検査

等にあり、労働者保護に關してもイギリスは史上、列國に先んじたり。思ふにイギリスは個人主義、及び工場工業の祖國にして、放任主義を濫用したる結果、諸種の弊害續出したるを以て法律を以て之を制するの必要生じたり。イギリスに於ける工業者は、多く幼年者を雇入れて暗黒なる工場内にて長時間の労働をなさしめし結果、著しく其健康を害したり。就中工業地と云はるゝ北部地方に於ける婦女幼童の悲惨なる状態は識者の憂ふる所となれり。此くの如きは國家將來よりみて由々敷一大事なれば、此弊害を除去せんが爲めに、工場法なるものを生ずるに至れり。工場法は千八百二年に制定せられしを以て創始となす。この規定の要點は、職工の年齢は九歳以上、労働時間は十二時間以内、夜業を廢し、工場内部の空氣の流通をよくすべしと云ふにあり。ついで千八百四十七年に至り、有名なる十時間法案を發布して、未成年者及び婦人の労働時間を一日十時間と制限せり。この後、千八百七十八年に至りて、イギリスの工場法はほぼ完成せり。この法はドイツ、フランスを始め文明諸國に行はるゝに至れり。

イギリスの工場法の完成

各國の労働者保護に關す法律の中、オーストラリア、及びニウージーランドの法律は最も進歩せるものにして、家庭内職者、及び商店の雇人等もこの法律の保護をうくるなり。すべて是等の運動は、十九世紀、近代大工業組織大資本主義の結果なりとす。

の運動は、十九世紀、近代大工業組織大資本主義の結果なりとす。

参考 (1) 第十九世紀の中頃、貧富の懸隔甚しくなるや社會主義運動起り、「一大革命により富者の財産を沒收せよ」と主張するに至れり。イギリスを始め多くの國家は、社會的立法及社會政策の方法により之れが緩和をはかりしも、ひとりロシアは永く大貴族の專制政治が行はれたため、過激なる社會主義が勢力をうるこゝとなり、一九一七年大戦争中に一大革命を惹起せり。

(2) イギリス、ドイツ、アメリカ等の労働組合は、組合員の疾病、負傷、失業につき相互保険を行へり。然るにこれらの保険は労働者中程度の低きものに及ぼし難きを以て、國家自ら保険を經營して之をすべての労働者に強制するの必要ありとし、ドイツにては一八八三年に始めて疾病保険を起し、ついで傷害保険、老癈保険を起せり。イギリスは一八九七年に労働者賠償法、一九〇八年老年扶助法、一九一一年疾病失業保険法を設けたり。これに刺戟されて文明國家は、労働保険に對して努力するに至れり。

第四章 貨幣銀行、度量衡

近世式の交通機關たる蒸汽船、蒸汽鐵道發明せられて以來、地球上の距離(タイム)を短縮し、商的活動の範圍を擴大せし事は、前章既に是れを述べたり。交通機關の驚く可き進歩は割據的の形勢を打破して世界的交通の時代とならしめたり。此時に際し貨幣度量衡銀行の制に變動を生ぜざるの理あらんや。

世界的交通時代

金銀産出
高の一大
増加

十九世紀中葉に至りて、金銀の産出高に一大變動を與へたる一事件あり。カリフォルニヤ、オーストラリアの金鑛發見は、金産額をして著しく増加せしめたり。

カリフォル
ニヤ金
鑛發見

(一) カリフォルニヤ金鑛發見

ドレーキ
の豫言

此地は千五百三十七年にコルデスの發見せし所なり。此地に金鑛の存在せる事は、世界週航者サー・サンフランシスコ・ドレーキが千五百七十九年に豫言せし所なり。然れ共、植民人の移住するものなく寂漠を極めたり、千七百六十九年に至りメキシコより宣教師軍隊を派遣して以來、植民は成立せり。此地はメキシコ獨立迄はスペインに屬し(獨立は千八百三十六年)メキシコ獨立後千八百四十八年に合衆國へ合併せられたり。千八百四十七年、大尉ソルター及マーシャル兩氏の旅行に依つて、一大金鑛發見せられたり。ドレーキの豫言は二百五十年をへて始めて實現せられたり。金鑛發見の報一度び傳播するや各國に移住病おこり、續々としてカリフォルニヤに向へり。千八百四十八年の終りに採金に従事せる者約六千人なりしに、翌年には七萬七千人に達すると云ふ古今未曾有の現象を呈したり。されば州の首府桑港の如きは千五百四十五年に僅かに人口百五十なりしに、數年ならずして五萬の大都會となれり。各國の國旗港頭に翻ると云ふ有様なりき。

植民人の
群來

金鑛發見
が商工業
に與へし
結果

發見當初數年間の平均金産額は約千萬磅以上に上りて、移住民の狂熱絶點に達せり。然れ共狂熱のさむるや、金採鑛以外の事業に従事するものを生じ、土地の肥沃と鑛産の豊富は相俟つて州の富源をなせり。この金鑛發見の商工業に與へたる影響は、

- (1) 極西地方の移住を促し、新大陸の發達を速かにし、且つ其需要の程度を増進して、農工物産の販路を擴張せり。
- (2) 金鑛發見は移住の動機となりて、新大陸他部に於ける來航者の員數を増加せしめたり。
- (3) 貨幣の數量を増加して物價の標準を高め、以て商工業の發展に資せり。
- (4) 米國人民の富の程度を高めたり。
- (5) 大陸横斷鐵道の完成を促す。
- (6) 旅客の數、増加の結果、運輸に従事する諸會社に莫大の利益を與へたり。

濠州の金
鑛發見

(二) 濠州の金鑛發見

濠州に於ける第一の植民地は、ニウ・サウス・エールズにして、千七百八十八年、始めて囚徒の流刑場とし、シドニーを創建せり。千七百九十九年、羊を輸入して牧養せしめたり。羊毛は金鑛發見前に於ける主要輸出品となりぬ。金鑛發見は千八百五十一年にして、其名譽を双

金産額は 四六〇億マルク
 銀産額は 五四〇億マルク

となる。是れもとより概數なれ共、吾人は其夥しきに驚かざるを得ず

此に於いてか銀貨本位又は金銀兩本位制にては、不便損失を免れず。イギリスは卒先して千八百十六年に金貨單本位制を採用せり、是れに反して、フランス、オーストリアの如きは是れに賛成せず、オーストリアは銀貨本位制(一八四八)を固執し、フランスは従來の兩本位制を維持せんと努力し、種々の政策を試み、結句ライン同盟を結びて一時の小康を得しも、金銀比價變動の傾向あるより千八百七十三年に銀貨の自由鑄造を制限する事とせり。然れ共、當時の流通高は金四分銀六分位の割合なりしかば、其回收に少からざる困難を感じたり。

十九世紀最初の三十年間に於いては概して兩本位制尙勢力を有したり。面して、カリフォルニア、濠州の黄金産出は、金貨鑄造を増加せしめしも、銀本位制を破るの力なく、千八百五十七年のウィーン貨幣會議の如きは、寧ろ銀貨單本位制を確定せり。

ドイツは、フランスと戦ひて勝ち、更らにオーストリアを破りて、ドイツ帝國を組織して以來、金貨本位を採用せり。これ嚴密なる意味に於いて金貨本位の新紀元を劃するものなり。こ

銀貨本位
 制の弊害
 イギリス
 の金貨單
 本位制

ウィーン
 貨幣會議
 の結果
 金貨本位
 制の新紀
 元

歐洲列國
 の金貨本
 位制採用

アメリカ
 合衆國の
 貨幣制度

の後、スカンデナヴィヤ貨幣同盟(一八九五) ロマニア(一八九〇) オーストリア——ハンガリア(一八九二) 日本(一八九七) ロシア(一八九九)等相踵ぎて金貨本位制に移れり。しかも純金貨制を有するは僅かに、イギリス、オーストラリア、スカンデナヴィヤ、ロマニア、フィンランド諸の國に過ぎざりき。

新大陸に於けるアメリカは、獨立前はイスパニアの銀貨を一般に使用し、他國の貨幣は是れを標準として價を定めたり。千七百九十二年、自國にて金銀貨幣を鑄造せり。然れ共、銀貨下落の爲、金貨は減少を來せり。特にカリフォルニア、オーストラリアの金鑛發見以來此傾向甚しく且つ銀貨は補助貨も本位貨も品質同じき故、補助貨も往々輸出せられて不便少からざりし故、千八百五十三年に至り、其純量を減じて自由鑄造を廢して其法貨たる資格に制限を與へたり。其後又一弗以上の銀貨鑄造を廢し、流通高を制限せしかば、南北戰爭の時に發行したる不換紙幣を整理する時に、金貨本位の實を表したり。この反動として千八百七十八年に無制限法貨となし、其自由鑄造を廢して、當時下落しつゝありし銀貨の騰貴を圖りしも、其目的を達する事能はず、兩本位制を維持する能はずして、千八百七十九年以來、事實上金貨本位の國となれり。世界の大勢此くの如し。我國が千八百九十七年に金貨本位制を取りしは此結果のみ。

銀貨本位を墨守せる國

又印度は、有數の銀貨國なれ共、千八百九十三年來、銀は唯流通するのみにて金を價格の標準となすに至れり。唯メキシコと支那は、未だ銀貨本位制を墨守す。

是を要するに、十九世紀中半より末期に至る間に、各國殆んど、金貨本位制を採用するに至り、國際貿易上の利益甚大なり。

二十九世紀に於ける主なる貨幣同盟

- (1) 獨逸同盟 獨逸聯邦とオーストリア帝國との貨幣同盟にして千八百五十七年一月の成立にかゝるものなり。
- (2) ラチン同盟 千八百六十五年十二月に佛白瑞伊の間に成立す。千八百六十八年にギリシヤも是れに加入せり。
- (3) スカンヂナビヤ同盟 千八百七十五年に成立せり。

銀價暴落表

銀價の暴落表 (金との比)					
年	代	金	銀	年	代
一八六〇	一	一五・五	一八九三	一	三〇・
一八七四	一	一六・〇	一九〇二	一	三九・一五

硬貨の代用物使用

銀行業、金融市場の組織が長足の進歩をなしたるは、この期の事に屬す。硬貨は十九世紀に於いても法律によりて規定せられたる交易の媒介並びに價格の標準等たる事は、舊時に異ならずとも、地方及び地方間、又は各國間の流通に於いては種々の代用物によりて、其流通を制限せらるゝに至れり。代用物とは何んぞや。銀行券、紙幣、手形、國庫證券、小切手、有價證券、利札、倉庫證券、租稅拂戻證券等是なり。是等各種の硬貨代用物の使用は、取引所と聯絡せる銀行によりて行はるゝものなり。十九世紀に於ける銀行の用はかくの如く大なり。

英蘭銀行の性質の銀行法

イギリスの中央銀行たる英蘭銀行は、株式會社にして、千六百九十四年の創設にかゝる十八世紀の末葉より十九世紀へかけて、イギリスには數多の私立銀行發生して、兌換券發行を重なる業務としたるが、自然濫發に陥り、金融上に恐慌を惹起せり。此に於いてか千八百二十八年千八百四十四年の二回に著名なる銀行法を發して、普通銀行の兌換券發行を禁止し、英蘭銀行の發行高にも制限を加へたり。この時イギリスに兌換券發行銀行二百七十九行ありしと云ふ。英蘭銀行の兌換券發行規則は佛蘭西銀行及他の銀行と趣きを異にし、金額千四百萬磅までは公債等を擔保として發行するを得るなり。而して他の銀行に於いて兌換券の發行を停止する時は千八百四十四年の條令に依つて、停止額の三分の二を英蘭銀行にて發行する事を得るなり。若

し是れ以上に發行せんとする時は金貨若くは金塊の準備を要し、其額の中五分の一は銀塊を準備する事を許されぬ。

普通銀行の發達

千八百三十年代より有力なる株式組織の銀行おこり、預金、割引、貸付等を營むもの増加せしかば、所謂普通銀行の業務は大いに發展し、英蘭銀行は完全に中央銀行となるを得たり。現在小切手の使用はイギリスを第一とすと云はるゝが、こは、普通銀行の發達に伴ひたるものなり。此他、現今の大なる兌換券發行銀行中十九世紀以前に設立せられしものは、スウェーデン國立銀行(一六五六創立)、イングランド銀行、スコットランド銀行(一六九五)等にして、十九世紀に入りて後設立せられしものは、フランス銀行(一八〇〇)、ネーデルランド銀行(一八一四)オーストリア國立銀行(一八一六創立)、一八七八以後オーストリア、ホンガリア銀行と云ふ)、ノルウェー銀行(一八一六)、デンマルク國立銀行(一八一六)、ベルギー國立銀行(一八五〇)、ロシア帝國銀行(一八六〇)、ドイツ帝國銀行(一八七五)、イタリア銀行(一八九三)等なり。是等の兌換券發行銀行の多くは私設にして國立に非ず。然れ共、其總裁たるの人は大抵、政府によりて任命せられ、殆んど中央政府の銀行たるの觀あり。而して、是等の銀行を取締る可き規則は時勢に應じて暫々改正せられたり。

各國の兌換券發行銀行

信託會社

特種銀行の發達

千八百五十年以後にフランス、ドイツ、オーストリア等に發達せる株式組織の大銀行は、イギリスの普通銀行と趣きを異にし、預金、割引貸付の外に株券社債券の賣買をも重要な業務とし、或る會社の設立に際しては自ら其株式を引受け、會社成立後望みに依つては其事務を監督する事もあり。又イギリス、北米合衆國には信託會社と云ふものゝ發生するありて、類似の業務を營む。しかも各國に種々の特種の銀行起り以て金融界に一大便益を與ふるに至りたり。而して内外商業の進歩は爲替の利用を盛んに行ひ、大銀行は世界の各地に支店を設うけて貿易上に一大便益を與ふるに至れり。蒸汽の發明は地球の距離を接近せしめしが如く、爲替の活用は資本の距離を接近せしめたり。

爲替法の發明は資本上の距離を短縮す世界の金融市場

イギリスは世界に於ける商業國なれば、爲替の利用に於いてもロンドン世界的の清算所如き觀あり。かく各國の間に資金流通頻繁となりし結果、貿易上の關係はすゝんで金融上の關係となれり。歐米文明國の金融市場は相互ひに資本の融通をなし、金融共通の時代となれり。されば、イギリス、フランス、ドイツの如く國內に資本の餘裕あるものは、自國內の事業のみにては充分に利用し能はざるが故に、其餘分を足らざる所に放資するに至れり。されば各國共に公債を募集せんと欲せば、是らの金融市場に至つて募集す。我國の如きも公債を彼の地に賣

資本を國外におろす

り出して、彼の國の資本利用の端緒を開きたり。
要するに、十九世紀より今世紀へかけては、單に地上の距離を短縮したるのみならず、資本上の距離をも短縮したるものと云ふ可し。

度量衡制
の統一
メートル
法

度量衡制度の完成も又此時代の賜なり。十九世紀の初めに至る迄二三の國を除きては度量衡制度地方によりて異なりしが、漸次一國內にて統一せられ、近時は世界經濟的風潮に伴ふて國際的統一の方向に向ふに至れり。革命時代にフランスが制定せるメートル法は、漸次世界各国の用ふる所となれり。

第五章 商業政策、植民政策 附、北米合衆國の獨立

植民地の
發達

交通機關の發達は移住を盛んならしめ、隨つて植民地の發達を助けたり。植民地の眞の意味に於ける發達は交通機關發達の後にあり。

植民地の
獨立運動

近世、植民政策宜しきを得ざりし爲め、十八世紀より十九世紀へかけて、植民地の獨立して獨立國となりたるもの多し。アメリカ合衆國、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン等は是れなり。

イギリス

イギリスは、航海條令發布以來、總べてイギリス植民地は、他國人と直接に貿易をなす事を

植民政
策の
失敗

北アメリ
カ植民地
の獨立運
動

禁んせり。されば植民人は、貨物の輸出入、共に本國の手を経ざるを得ざりしかば、利益の多くは、本國人の手に吸引せられたり。是れアメリカ植民人が當初より不平とする所なりき。然るに英本國は、オートリア王位繼承戰爭、七年戰爭に關與して莫大の財を費せしを以て、是を補はんが爲めに、アメリカの植民地に租税を課せんと試みしに、植民人の反對する所となりぬ。依つて政府は、千七百六十五年に印紙條令を發して新聞雜誌に課税せり。植民人の不平高まらんとするや、政府は翌年是を廢して更らに茶、鉛、硝子等の輸入品に少許の印紙を粘用せしめしに、植民人の不平は極點に達せり。政府は又「植民地に派遣せる軍隊官吏等の費用は植民人の負擔たる可し」と發表せしに、植民人は其不當を鳴らし、是を廢止せん事を國王に嘆願せり。然るに本國政府は、益々專壓の舉動に出で、軍隊力を以て是を威壓せんと企てぬ。本國と植民地の感情は益々遠ざかり、終ひに千七百七十年に兵士と植民人の間に衝突を起こせり。是をボストン殺戮と云ふ。此後英政府は、他の課税をば除きしも茶税のみは猶是を行へり。植民人の感情は益々激して、千七百七十三年、本國より茶を積載せる船舶が、ボストン港に入津するや其船に突入して茶三百四十函を海中に投せり。これをボストンの茶黨狼籍と云ふ。本國政府は命を傳へて、軍艦を派遣し、ボストン港を閉鎖せり。植民人は千七百七十四年にファイラデルフ

イアに第一回の植民人會議を開き、

- (1) 本國政府が寛大なる處分をなして、植民人の不平を解く迄は本國と貿易せざる可し。
- (2) 植民地の政治は總べて各州の議會に任じ、議會は其州の施政に關して最上の權力たる可し。

(3) 本國の國王及國會に對して寛大の處分を嘆願すべし。

ど。ベンヂヤミン・フランクリンをしてフランスに赴いて遊説せしめ、其他密使を派遣せり。然るに植民人に對する同情は夥しく、フランスの貴族ラファエツト、ドイツの勇將ストイベン、ポーランドのコシウスコ等相次いで大陸に赴きて、植民軍を救けたり。かくて千七百七十五年ファイラデルフィアに第二回の植民人會議を開き、愈々開戦に決し、ジョージ・ワシントンを總督に任せり。翌年七月四日、トーマス・ジェファアソンが起稿せし獨立宣言書を發表せり。千七百七十七年に十三州の同盟を結びて、北米合衆國と命名せり。一方植民人は、母國と戰つて苦戰惡闘を續けたり。千七百八十年にロシア、デンマルク、スウェーデンは武装中立同盟をおこして、植民軍に好意を表せり。ヨークタウンの一戦に植民軍凱歌を奏するやこの同盟に加入するもの續々として起れり。ブルシャ、オーストリア、ポルトガル、スペイン、フランス皆然

フランクリンの活

列國の同情

ワシントン

武装中立同盟

北アメリカ合衆國の獨立

り、大勢此くの如し。英政府も到底植民地征服の望なきを悟り、千七百八十三年バリーに於いて媾和條約を結び、遂ひに合衆國の獨立を承認し、且つミシシッピ河以東の英領土を合衆國に與えたり。かくして合衆國は獨立せり。かくアメリカに於ける植民地を失へる事は、イギリスに取つて一大損失なれ共、こよなき刺戟となれり。この教訓により、イギリスは或る種の植民地に自治を許すに至れり。

然れ共、歐羅巴に於いて、植民事業に成功したる國は何處ぞと問ふ時は、イギリスと答へざる可らず。イギリスが北米合衆國を獨立せしめしは、明かに失敗なりしとは云へ、猶今日の如く廣大なる植民地を有す。豈成功なりと云はずして可ならんや(植民地の全面積はヨーロッパ大陸の全面積の三倍に等し)其植民地の主要なるものは、

(アジア) インドの大部分、セイロン島、バルマ、海峡植民地、ボルネオの一部、香港、アデン、威海衛(租借地)

(オセアニア) オーストラリア、タスマニア、ニュージーランド、フィジー、バブア島一部

(ヨーロッパ) ジブラルタル、マルタ

第三編 近世史

植民地經營に成功せるイギリス主要なる植民地



(アメリカ) カナダ、ニウファウンドランド、バハマ島、小アンチル諸島の一部、ジャマイカ島、イギリス領ホンデユラス、イギリス領ギヤナ

カナダ

等とす。就中重要なものは(一)カナダ、(二)オーストラリア、(三)南アフリカ、(四)印度とす。

佛人の植民思想

カナダは元、フランス領なりしが、千七百六十三年に戦争の結果フランスより割讓せし所なり。これフランスに取りては一大損失ならんも佛王ルイ十五世は、是を殆んど價値なき荒土と認めしが如く、此地の失はるゝや、王は「是れ唯雪の數エーカーに過ぎず」と云へり。佛王がかく輕々視せるカナダは、イギリス人の手に移りてより一大發展を遂ぐるに至れり。千七百六

オーストラリア

十三年に僅かに六萬五千人なりし人口は、千八百十四年には四十三萬人、千八百四十四年には百十九萬九千人、千八百五十一年は百四十八萬人、千八百六十年には二百五十萬五千七百二人となり、今やイギリス領土中重要な農業國となれり。オーストラリアは今日イギリスの重要な植民地なるが、其植民は比較的近世の事にかゝれり。この大陸の發見は印度航路發見後久しからずしておこりしも、植民としては見る可きものなかりき。イギリスが此地へ植民人を送る動機は、クツクのオーストラリア航海の後の事とす。植民の始めは、千七百八十八年に囚徒の流刑地としてシドニーを建設せし時にあり。千七百九十九年に羊を輸入して將來の産業發達

シドニー府建設

金鐵發見後の發展

南アフリカ植民地

トランスヴァール併呑

インド

の基を開けり。然れ共、十九世紀始めに至つても猶、空々漠々たる無人の砂漠地多かりき。千八百五十一年金鐵發見せらるゝや、俄かに移民増加し羊毛業も盛大となれり。この結果、濠州の産業一大進歩を遂げ、千八百五十二年にはシドニー大學、同五十四年にはメルボルン大學の設立を見るに至れり。かくして、オーストラリアは今日の盛大を見るに至れり。又イギリスが南部アリフカに植民地を作り得ると否とは、其商業上に一大影響を與ふるものなり。即南アフリカの植民地は、印度及び濠州と相待つて、印度洋を恰かもイギリスの内海の如くせり。見よ印度洋はイギリスの勢力範圍なる事を。元來、南アフリカには千六百五十二年以來、和蘭人の喜望峯植民地ありしが、ナポレオン戦争の際、イギリスに收められたり。然るに和蘭の移民はイギリスの配下に屬す事を心よしとせず、北にのがれて、別にトランスバール、オレンヂの二共和国を建てたり。是等の國人は、和蘭人とフランス人の少數がアフリカ南端に土人と雜居して生せるボーア人種にして、頗る勇敢なり。然るに千八百八十六年トランスバールに大金鐵發見せられたり。此に於いてか利にささきイギリスの企業家は頻繁に出入し、終ひに是れと戦ひ苦戰惡闘の末是を得て、更らに大なる植民地となしぬ。インドは十七世紀の頃ムガル帝國の治下にありしが、英佛の兩國が各々東印度會社をたて居留地を設うけて、政權に對して激烈なる

印度貿易の發達
シンガポール

イギリスの内政に干渉す

争びをなせり。イギリスは幸ひにもクライブ・ヘスチングスの敏活なる行動宜しきを得て、フランス人より商權を奪取して、千八百八十四年迄、インドは、英國政府監督のもとに、東印度會社の統治する所となれり。同年以後英國政府の統治を受く。イギリスの印度貿易額は十九世紀に至りて著しく増大せり。千八百十九年にシンガポールを英領とするや支那貿易に従事する船舶の集合點となり、バダビヤの勢力を壓するに至れり。しかも其シンガポールの貿易は純然たる自由政策を取り、輸出輸入共に税を免れ、商業は歳々増進し、ついに東洋貿易を獨占せるやの感あり。エヂプトは、東ローマ帝國の領地なりしを以て、其帝國の衰亡後は、トルコの屬地となりき。レセツプが十年の努力の結果スエズ運河開通するや、エヂプトは俄然商業上重要な地となりぬ。イギリスは、スエズ會社の株券を買収して實權を得、エヂプトの内政に干渉するに至れり。

是を要するに、イギリスの植民政策は、昔時に於いては、「本國の利益になれば、植民地はドウでもよし」との主義にして、唯植民地を抑制する事を以て足れりとせり。クロムウエルの航海條令の如きは、此事實を語つて餘りなし。北米合衆國の獨立は、イギリスの此主義の失敗を語るものなり。此に於いてかイギリスは、政策を一變して、勉めて干渉をさけ、可成的に自由

植民人に自由を認む

フランスの植民政策は失敗なり

心細きフランスの植民地

を許したるを以て、植民地に活潑なる事業おこりて、本國の資本、本國の製品に對する需要を惹起し、植民地と本國と相並んで偉大なる發展を遂げたり。諺に曰く「水清ければ魚住まず」と、總べてものは極端なる干渉、壓迫をきらふ。イギリスが、北アメリカ植民地を失つて、直ちに此弊を看破し、植民政策を一變せる勇に感せざるを得ざるなり。

フランスは、イギリスと共に西葡和に續いて植民事業に従事したる國なれ共、國民の性、植民を好まず、加ふるに其政策宜しからざりしかば、印度に北米に、イギリスと競ふて失敗せり。千八百八十年以後印度支那を略し、又アフリカの北岸よりサワラの砂漠を横ざりて、ギニア灣に達する廣大なる地方を併せしかど、アルジェリアに農業を起したる他、事業は未だ其緒につきたるものなし。加ふるに、フランスの人口は年々減少の傾向あり。將來の事知る可きのみ。然れ共其政策は、徒らに植民地に干渉せず、彼等をして、自申の民たらしめたり。是れに反して、ドイツ帝國は、其國家的統一遅れたるが故に、植民事業に従事せし事も列強中最も遅れたり。ブルシャが、オーストリア、並びにフランスに勝利を得て、ドイツ帝國の盟主となりしより以來の事とす。されば世界に於ける重要な地點は、既に列國の處有にかゝるてふ有様にて、國民の努力を要する事大なりき。千八百八十年代より、彼等は南洋にアフリカに領土

成功に近
きドイツ
の植民地

を獲得せり、其成績未だあからずとは云へ、國民の熱誠は、必らずや成功の時あるべしと思はしめたり。(大戦後海外植民地の獨逸は全部を失へり)

近世、列國が競ふて領土獲得に志したる結果、寸尺の地と雖も是を餘さず、アフリカは從來北部地中海の沿岸は古代より歐羅巴人の知る所なりしも、サワラ砂漠以南は永く未知の域に屬して、バスコダガマがアフリカを廻航せし迄、其形狀する知れざりき。しかも其内地には廣漠たる無人の原野多かりし故、各國は競ふて遠征軍を贈りて、領土獲得に志し、終ひに世界大戰前におけるが如く、英佛獨等の諸國の分割する所となりぬ。

アフリカ
分割
保護貿易
主義の衰
退

國際貿易に對する各國の政策は、重商主義、保護政策なりしも、交通の進歩につれて、嚴格なる保護政策は實行すべからざるに至る。既に千七百八十年代に於いてイギリス、アメリカ、フランスの間に通商條約を結びて、互ひに關稅を低減し、この傾向は、アダム・スミスの自由貿易主義と共に漸く勢力を得んとせり。然るに、千七百八十九年以來フランス革命起りて歐洲の天地を震動せしめしを以て前の條約は無効となり、國際貿易は非常なる危險に陥りたり。歐洲各國ナポレオンの席卷する所となりしが、イギリスのみは強固の海軍力を有して、フランスに下らず、しかもナポレオンのイギリス攻撃は、間接には千七百九十八年八月一日にニール河口、アプキール灣に破れ、直接の攻撃は、千八百〇五年十月廿五日トラファール沖に破れたり。當時英佛二國は世界最大の商業國にして、フランスも猶數多の植民地を有せり。唯二國の異なる點は、イギリスは専ら海上權を得るに熱心し、フランスは陸上に於いて權力を得んと努力せし點にあり。海上國イギリスの貿易は過半はロンドンにて行はれ、同港に出入する船舶は年一萬三四千艘に及び、其三分の二は英佛海峽を通過したるを以て、フランスは是れに對しても一大妨害を企てんとしたるも失敗にきせり。

此に於いてかナポレオンは、イギリスを屈服せしむる最後の手段は其商工業を破壊するにありと考へ、千八百〇六年に、史上著名なるベルリン勅令を發したり。この勅令は、大陸諸國とイギリスとの貿易を禁じたるものなり。勅令の發布せらるゝや、即日には是を實行し、税關の捕奪せし英商品焼捨の報告は日々に官報に上るてふ有様なりき。しかも此勅令は、千八百九年迄に、トルコ、シ、リー、ポルトガルを除く他の國に及びたるを以て大陸制度とも云ふ。イギリスはナポレオンが已れを苦しめんとして、とれるベルリン勅令に對抗せんが爲めに、佛國と其同盟國の船舶を海上より一掃し去り、中立國をして已れを助けしむるの政策をたてたり。千八百七年の布告に於いて、歐洲大陸と貿易せんとする中立國の船舶は往返必らず英國に立寄り、

大ナポレ
オンとい
ギリス

ベルリン
勅令

ベルリン
勅令に對
するイギ
リスの態
度

一度び英國の土地に其積荷を上陸したる後、更らに積入るゝを要し、且つ是が爲めに、關稅を拂ふ可き旨を定めたり。この結果二強國の間に位せる中立國の地位は極めて困難にして、向背に感はざるを得ざりき。

ベルリン
勅令は事
實上失敗
なり

大陸制度の結果如何？ 大陸諸國の大部分は物質上の利害イギリスと相一致せるを以て、一度イギリスとの通商を杜絶せらるゝや、植民地物産の價格は非常に暴騰して、三倍乃至十倍に至れり。勢ひ此くの如くなれば、密輸入頻々に行はれ流石のナポレオンをしてイギリスの毛布を購買し特許狀を與へて或種の商品の密輸入に従事するを許すに至らしめたり。勿論、この勅令はイギリス貿易にも一大損傷を與へしが、其損傷は豫想外にして、ナポレオン自ら是れに苦しむに至れり。要するに、ナポレオンの此勅令は、「敵の首をしめんとして反つて我首をしめし」ものなり。フランス革命並びに引續けるナポレオンの戦争は、商業上妨害となる可き舊制度を打破せり。即、當時に至る迄社會の一隅に残存せる封建時代の遺制を悉く一掃するを得たり。一例を述べんか、市場の制度の破壊は其の一なり。市場はドイツ諸洲に於いて、其弊を極めたり。ドイツには舟楫の便ある幾多の大河ありて、運輸交通の便宜を提供したるに關らず、是がため充分に是を用ふる能はざりき。千八百年迄ライン河に、卅二箇の市場ありて、通行の

ナポレ
オンの出
現は舊制
度を破壊
せり

船舶は一々停船を命せられ、幾何かの料金を支拂ひたり。これ大いに商業の發達を妨害せしがこの結果打破せられたり。

イギリス
先づ自由
貿易主義
に向ふ

貿易政策の改革運動もこの後に起これり。英佛は其のさきがけをなせり。イギリスは千八百二十年代よりして、種々の禁止を解き、多くの輸入税を引き下げ、又は廢止せり。こはイギリスが各國に先んじて、産業革命をなし、工業充分に發達し、保護を要する事少く唯低廉なる原料のみを必要とせるが故、唯農業のみは保護なくしては成立する能はざりしが故に、穀物の輸入税を高めたり。然れども人口増殖の結果國內の穀物産出のみにては到底全國民の需要に應ずる能はざるに至るや必然の結果として、この輸入税は千八百四十六年に廢止せられたり。由來、イギリスの保護は主として農業を目的とし、是れに次ぐに商工を以てするてふ有様なりし故、穀物輸入税の廢止に就きては大争鬭は免れざりき。そは農業者に取ては、此の廢止は一大打撃にして、商工業者に取つては、この税の存在は一大致命傷なればなり、その廢止については、コブデンを首領とするマンチエスター同盟(非穀物條令同盟)の運動宜しきを得たり。自由貿易主義は、アダム・スミスらに依つて唱へられ、リチャルド・コブデンに至りて成功せりと云ふも過言にはあらず。かくてイギリスは保護貿易政策を全然見棄るに至り、自由貿易政策の

イギリス

の自由貿易主義

國となれり。この政策の實施は一躍イギリスをして商工業の新進路を開き其市場をして、益々世界的ならしめたり。この運動は大陸にも傳はり、英佛の新條約を始めとして、プロシヤ、オーストリアも皆條約に依つて關稅引下げを行ひたり。史家は千八百六十年より千八百八十年迄を自由貿易時代と云ふ。十六箇の歐洲各國中、其關稅を増加したるものは、僅かに二箇國に過ぎざる有様なりき。然るに歐米諸國は自由貿易の利澤を蒙る事廿年にして、再び保守的の反動の襲ふ所となりき。千八百八十年頃より歐洲の諸國は一般に其關稅率を高め、年を経るに隨つて其傾向を増加せり。其理由如何。

自由貿易主義の時代

自由貿易主義に變ずる來た

- 1、千八百七十年以來大いに國家的觀念を増加すると共に、國際的競争心を激成したるが爲め各國民何れも政府に向つて外國の競争に對して保護を求めしこと。
- 2、イギリス以外の諸國に於いては新に工業を起したる際にて保護を用ゐるを得策とせしこと。

輸入稅率の増加

かく保守的の反動は來りたれ共、しかも自由貿易時代に得たる變化は世界大戰迄存續せり。十九世紀末に於ける、重要製造品の輸入稅率を指示するに、
ロシア十三割、アメリカ七割二分、フランス三割、ドイツ二割五分、ベルギー一割三分、ニ

ユージーランド九分

等とす。稅率は高けれ共、運送賃金低落の結果は、是れが爲め貿易上に妨害を來すこと意外に大ならざりき。

ドイツ及び北米の常衆なる發達

十九世紀を通じて保護主義の下に發展したる大商業國あり、新勃興のドイツ、アメリカ是れなり。ドイツは十九世紀に至りても猶、國內に多數の獨立せる諸侯ありて互ひに關稅の障壁を設うけ居たり。この現象は、經濟狀態の進歩すると共に、不便極まりなかりしかば、關稅同盟の發生を見るに至れり。この運動の先驅をなせるは、プロシヤにして、千八百十六年より翌年に亘れる凶歲に際し、穀物輸出の禁制を撤廢して、各部共通の貿易政策をたてんと議案を議會に提出せしも不幸否決せられたり。其他箇人としては、フリードリッヒリスト、オベニウスの如き、共通政策の必要を唱導したれ共、功を奏せず、然れ共プロシヤは、單獨に自國の經濟を整理し、民業を奨勵し、個別に隣邦と條約を締結して、漸次共通政策を定めんと欲したり。

關稅同盟

保護主義のドイツ關稅同盟

これ千八百三十四年に關稅同盟を見るに至りたる階段とす。この傾向は益々増大し、ドイツ帝國創立の時には、全國の關稅同盟を形成するを得たり。この同盟は始め、自由貿易主義に傾きしも千八百七十三年後の不景氣の時代に於いて、工業農業共に保護を要求し、且又政府にも新

財源を要する事情ありしにより保護主義となれり。

北米合衆國の保護政策

北米合衆國は、始め緩和なる保護政策を取りしが、南北戦争以來益々此傾向を増大せり。南北戦争の時、財政上の必要よりして、政府は盛んに輸入税を増加したりしが、工業家は戦後にも、この關稅を變更せざらん事を主唱して、議會にて勝利を博して以來、全然保護主義となり。北米合衆國に於いても、貿易政策に就いては、暫々爭議せられしも常に保護貿易派優勢にして、千八百九十年以來特に保護を重うせり。合衆國は從來農産物の輸出國として、歐羅巴の各市場を壓倒せしが、其工業も保護主義のもとに、古今未曾有の發達をなし、現今イギリスと肩を並べ、ドイツを壓倒しつゝあり。此に於いてかイギリスは新にドイツ、アメリカと云ふ二大敵を得たり。この二國が強大なる工業國となるや、最早イギリスの製品を輸入するの必要なきのみならず、進んで外國に販路を擴張せんとするに至れり。剩へ各政府は極力、自國商權の發達を助くる政策を取りしを以て、貿易上の競争はやがて、軍事上、政治上の競争となれり。これイギリスに取りて一大打撃なり。特に他國の商品が、自國の植民地に迄進入せんとするを見て、是れを防衛せざる可らずとなし、新に特殊の關稅を設うけて、本國と植民地との間のみ自由貿易を行はんとの説を唱ふるに至れり。これ世八の所謂帝國主義の關稅政策と唱ふるものなり。かくしてイギリスは漸次ドイツ、アメリカの爲めに其商權を蠶食せられつゝあり。世界大戦争に際して、英國がフランスを助けしは、ドイツの脅威より免れんが爲めなりき。

第六章 恐慌

恐慌の意義

恐慌とは、商況不穩の狀を顯はし、信用地に墜ち、市場反目し、人々互ひに相危ぶみ、貸付割引の需要、預け金の請求非常に増加し、人心恟々たるの事情を云ふ。これ近世經濟界の組織複雑なるより起こりし新現象にして、經濟史上特に注意すべきものとす。昔時交通の便開けざりし時には、人々は唯一地方の生産にのみ依頼せし故、農業上の不作ある毎に、食用品の不足を來たして、所謂饑饉の現象を起せり。近世交通機關の發達の結果は、饑饉の害を生ずる事は減少せしも、恐慌と云ふ新現象を生ぜり。世上の進運豈奇ならずや。

饑饉の現象

十九世紀以來、歐米各國は、經濟上非常の進歩をなしたれ共、この進歩の行程をけみするに決して平坦無事なるものに非ず。幾多の波瀾曲折をへて、以て今日に至りしなり。總べて好景氣の時には物價騰貴し、利潤多く事業頻々としておこり、信用擴張せられ、企業者 勞働者も一般に其生活に餘裕を生じ、活氣を呈す。然れ共極度の擴張は商業上の投機となり、株式相場

恐慌の起る原因

の暴騰となり、會社の濫設となり、結局經濟界に一大波瀾を生ず。大會社大企業家の失敗は其害を及ぼす範圍頗る大にして、小にしては國內、大にしては海外迄反響す。この反動として、物價の暴落、金融の杜絶起り、一般に恐怖不安の念を生じ、大銀行大會社の破産となる。これ吾人の所謂恐慌なり。恐慌後は先きの過渡の擴張に對して、過渡の縮少行はる。而して數年又は十數年をへざれば舊に復さず。

イギリス、フランスの二國は、經濟上の進歩に於いて、他國に先んせしを以て、十八世紀の頃より景氣循環の現象を呈し、約十年毎に恐慌を起すを見る。大革命時代には戰爭の發展に隨つて屢々經濟上の動搖を來し、千八百十年著名なる恐慌を惹起せり。こは貿易の行爲、其軌道を失し、貨物需要の間に變調を來たし、急に新市場の開くるありて、一般の投機心を惹起せしに、中央銀行が其處置を誤り、地方銀行が勃興して之を煽動したるに起因す。千八百十五年後イギリスの工業は一時好景氣を呈せしも、大陸に於ける販路豫想の如くならずして、商品は市場に堆積し、工場は休息し其結果、職工は衣食に窮するに至れり。千八百二十三年に一時快復せしも、千八百廿五年に終ひに、稀有の大恐慌を惹起せり。この恐慌は、南米に對する事業熱の然らしめし所にして、實に慘憺たるものなりき。廿五年十一月二十九日に、ブリモスの大銀

景氣循環
の現象
千八百十
年の恐慌

千八百二
十五年の
大恐慌

千八百三
十年代の
恐慌

千八百四
十七年の
恐慌

事業勃興
の時代

千八百五
十七年の
巴里恐慌

行破産し、ついでヨークシアの大會社倒産し、人心恟々、つひに大恐慌を呈するに至りしが英蘭銀行の處置宜しきにならば、十二月二十四日に平穩なる状態に復せり。ついで千八百三十年代にイギリス内に多數の株式會社起り、且つアメリカ合衆國に對する貿易及資本の輸出盛んなりし結果、三十七年、三十九年に至りて、イギリス及び合衆國に大恐慌を來たし、爾來市況不振にして、マンチエスターの木綿工業は非常たる悲境に陥りたり。ついで千八百四十七年の恐慌も劇烈なるもの、一つにして、これイギリス事業家の鐵道熱勃興と五穀商の投機の結果とす其餘波は海をこえて大陸諸國に及びたり。

千八百五十年より千八百七十五年に至る間は、新に發見せられしカリフォルニア及びオーストラリアの鑛山より盛んに金を輸入し、又イギリス製の機械及び鐵道が大陸に普及したる時代にして、各國の進歩隆々たる狀況なり。かゝる時代なれば、投機熱の發生は已むを得ず。隨つて恐慌の發生を見しも、皆短時日のもののみなりき。これ此期の特徴なり。この間フランスはナポレオン三世帝位につき、新工業を奨励し、信用制度を起こせり。然れ共、百事勃興の結果は、千八百五十七年の巴里恐慌を惹起せしが、千八百五十八年に英米に起こりしものに比すれば、其及ぼせし損害は少なかりき。この兩者の原因は同一にして、新大陸に金鑛發見の結果投

機熱勃興し、盛んに信用を亂用せしが故なり。

其後北米合衆國に南北戦争起り、其經濟界を紊亂し、其餘波は舊大陸に及べり。イギリスは過渡の好景氣の結果、千八百六十六年の大恐慌を惹起せり。千八百六十六年はイギリスに取て最も不幸なる年にして、疫病の流行、合衆國平和の快復等は經濟社會の秩序を紊亂せり。合衆國に於ける南北戦争の結果、綿花は千八百五十七年より騰貴し、千八百六十四年には頂上に達し人々恐怖の念を抱ける間に俄然、千八百六十六年中頃に至り大下落をなせり。千八百六十六年五月一日(暗黒金曜日)に景況、活動の最高點に達し、其翌日より俄然正反對の景況を呈し、信用全く地に墜ちたり。この恐慌も劇烈なるものゝ一なり。

英蘭銀行の恐慌に對する處置は、千八百四十七年前に於いては、頗る當を失し譏りを千歳に残すものありしが、千八百五十七年の恐慌以來は、能く事を處するの眞理を悟り、巧みに恐慌を制するを得たり。これ全く英蘭銀行百年の經驗の致す所なり。

大陸の中央に於いては、此時財界革新の機運熟せしがドイツは千八百七十一年普佛戦争の結果、帝國統一の業を完成し、フランスより四十億フランの償金を得、勢ひ盛んにして當る可らず、鐵道、銀行、製鐵の新事業を起し、好景氣を見越したる株券、地所及商品の投機は頻りに

イギリスの千八百六十六年の恐慌

暗黒金曜日

恐慌に對する英蘭銀行の所

獨・埃の恐慌

經濟活動の沈滞の時

恐慌の反響は世界的なり

行はれたり。又オーストリアも内政の完成に依り新事業頻りに起り、ウイエンナの株式市場に盛んなる投機行はれたり。この極つひに、千八百七十二年の恐慌となれり。ドイツも又先きの好況の反動として、千八百七十三年に恐慌を惹起せり。この後約廿年間、世界經濟界に一種の變調を生じて、千八百七十九年乃至千八百八十二年、千八百八十七年乃至千八百九十年の間に好景氣を呈せるのみ。此間千八百八十二年にフランスに、千八百九十三年にアメリカに恐慌ありし他、他に劇烈なる動搖なし。千八百七十二年後の時期は商業が長期慢性沈滞に陥りし時にして、經濟界は比較的に平穩なりき。交通機關發達の結果、遠くはアメリカ、近くはロシアの穀物がヨーロッパの市場に侵入して、農業者に致命傷を與へしも此時期とす。然るに千八百九十五年以來、この沈滞の状態は一變して事業再び活氣を呈するに至れり。

十九世紀の末年、即ち千八百九十九年は各國の企業が、活潑に働かしし時にして、この年ロシアに恐慌を惹起し、千九百年のドイツの恐慌に續きて世界の經濟界は一時不振沈滞に陥りしも數年ならずして快復せり。終りに臨み一言注意す可きは、近時信用の組織大に發達し、國際貿易の關係縱横織るが如き狀況なるが故に、一國の恐慌は忽ち他國へ影響を及ぼす事なり。彼の千八百五十七年の恐慌は源を北米合衆國に發し、其餘波は英佛獨及び歐洲の北方を苦しめ、南米

及び絶東のジャバ島に及べり。これ一例に過ぎざれ共、一國恐慌の影響、他國に及ぶは、恰かも石塊を池中に投ずるが如し。要するに恐慌の存在は、經濟社會の活動を示す。總べて平穩無事のものとは凡々にして進歩發達なし。然りと云へ、經濟界に恐慌のあるは、決して喜ぶべき事に非ず。唯是を未然に防ぐ術こそあらまほしけれ。

備考 要するに恐慌の性質に緩急の別あり。又その影響の及ぶ限度に深淺廣狹あるは勿論なれど、第十九世紀に於ける吾人の經驗によるに、好景氣と不景氣とは凡そ十年内外に一循するものゝ如し。

第七章 歐米各國の形勢

先きに記述せし各章に於いて、商業歴史の一般は、是れをつくしたるを以て、本章に於いては世界大戦争に至る迄の歐洲各國の商業發達の狀況を述ぶ可し。但し英佛獨米の諸國に就いては先きに記する所多きを以て、今は多く云はず。

第一節 イギリス

大ナポレオン輩出するや、歐洲大陸は其席卷する所となりしもイギリスは、其餘波を蒙る事少なく、名譽ある對抗を敢えてするを得たり。これ全く大陸との間にイギリス海峡の存せしと

イギリスが大ナポレオンに對抗するに

事は海に賜なり

コペンハーゲン攻撃

十八世紀の外國貿易の特質

海上權を掌握せしがゆるなり。イギリスが大ナポレオンの大陸封鎖令に對して頑強なる抵抗をなす事を得たりしは、海の賜なり。大陸戦争に際し、イギリスは、強大なる海軍力を以て萬丈の氣を吐けり。當時僅少乍ら海軍力を有する國は、デンマルクなるが故に、戦争の落着迄其海軍を監視せんと要求せしに、デンマルクは頑として是れに應ぜざりき。イギリスは、強大なる海軍力を利用して、コペンハーゲンを攻撃して、海上王の實をあげたり。

然れ共、イギリスの疲弊も甚しく、大いに困窮せり。機を見るに敏なるイギリス人は、大陸封鎖令の廢止後陸續と侵入し、イギリス産の工藝品、植民地の物産は大陸の市場に堆積せしが大陸諸國は戦後疲弊未だいえずして、是を購求し得ず、爲めに一恐慌を惹起せり(一八一五年)。これ一時の事にして、イギリスの貿易は是より益々發展に向はんとす。イギリスの或る學者曰く、「第十八世紀の頃に於いては、外國貿易なるものは、多數の國民のために、殆んど痛痒の關係なく唯一の重要品(小麥)を除く他、一切の貿易を杜絶するも、國民の日常生活と、其財産の上に何等の變化をも生ずる事なかりしならん」と。

此言たるや誇張の誇りを免れざれ共、千七百年代に於けるイギリス貿易は單に其富みを増加し、其國を發達せしむる一機關たるに過ぎざりしが、十九世紀に入りてよりは、國民の生存上

十九世紀
貿易の特
徴

必要無く可らざるものとなりし事を語るものなり。十九世紀最初の廿五年間は、外國貿易は、停滯不動の有様なりしが、其後の廿五年間に於いては、俄かに活氣を呈し、非常なる進歩を遂げたり。今左に五十年間に於ける貿易進歩の情態を示せば、

貿易進歩
の表

年 代	輸 入	輸 出	合 計
一八〇一—一五	二八	三三	六一
一八〇六—一〇	三〇	三七	六八
一八一—一五	二九	四五	七四
一八一六—二〇	二〇	四〇	六〇
一八二一—二五	二六	三七	六三
一八二六—三〇	三三	三五	六八
一八三一—三五	三六	四〇	七六
一八三六—四〇	四七	五〇	九七
一八四一—四五	五七	五四	一一一
一八四六—五〇	七二	六〇	一三三

この表に依りて、十九世紀前年に於ける、イギリスの外國貿易の進歩の一般は推知するを得

自由貿易
主義の結
果として
食料品の
輸入が増
加する

可し。イギリスが、他の列強に先ちて自由貿易策を採用するや、彼のビールが豫期せしが如く食料品は、多く是れを外國に依頼するに至りしを見る。千八百五十四年に、イギリスに輸入せられし總額は一億五千二百三十萬磅にして、其重要品は、

穀物二千七百七十萬磅、綿二千十萬磅、木材千萬磅、砂糖九百六十萬磅、

にして、是を千八百年代初めの輸入品目に比較すればパンの原料の輸入額の増加せしに驚かざるを得ず。これイギリスが國內に於いて食物を生産せんとの希望を抛擲して自國の製造品を以て、是を海外より購買する方針となりしが故なり。即ち知るイギリスは、食料品と工業用原料は是を海外に仰ぎ、國內に於いて製造工業に熱中し、製造工業品の輸出を眼目とするに至りしなり。(嘗てイギリスの貿易及び工業の保護たりし禁令と保護關稅とは、イギリスの貿易と工業が世界を壓倒するに至りしに、反つて其發達を阻害する事となれり。)

イギリスは千八百四十九年に至り、航海條令を廢して、唯沿岸の航行を英國船に限ると制限せしが、千八百五十四年、斷然是を廢して、全然門戶開放の主義となれり。

ビールは、トリー黨より出で、國政を處理せし人なるが、彼れは千八百十五年に首相となりて以來銳意國政改革に従事し、四十五年に輸出諸税を全廢し、輸入税撤廢、輕減の課目を増加せり。始め、彼れは工業に對しては、自由貿易の主義を取りしも、穀法廢止の勇なく

イギリス
の門戶開
放主義
人物如何

其廢止はイギリスをして他國產の食料品を仰がしむるに至り、外國と戰端を開きし際、苦痛を感ずるならんと憂へたり。然れ共、終ひに意を決して穀法廢止の議を立て、千八百四十六年に是を通過せしめたり＝

元來イギリスの關稅改革は、千八百四十二年のハスキソンの改革、四十五年のビールの改革をへて、六十年のグラッドストーン再度の改革案に依つて、現時の易貿政策の基礎を樹立せしなり。グラッドストーンは千八百五十三年に財政案を提出せり。其大要は、

- (1) 特別の場合を除く外は、不生産的稅目を革除し、及ぶ限り本國人と外國人との間に存せる諸稅の差等を撤廢すること、
 - (2) 未製品、及半製品に對する輸入稅を撤廢し、製造品の輸入稅は絹の一割五分を存置する外總べて輕減して一割となすこと、
 - (3) 從價稅を廢して、從量稅と爲すこと、
 - (4) 一般公衆の消費に關する食料品の稅率を輕減すること、
 - (5) 國家收入の爲めにする關稅稅目を設定すること、
- にして、凡二百五十の品目に對して、關稅を輕減し又はこれを廢止せり。然れ共クリミア戰爭

グラッド
ストンの
關稅改革

英佛通商
條約

の爲め、一時其進運を妨礙せられしが、千八百六十年愈々完全となれり。然れ共、千八百六十年の關稅改革の導火線となりしは、英佛通商條約にあらすして何んぞや。この通商條約締結の衝に當りし者は、イギリスはリチード、コブデン、フランスはミシェーユ、シユヅリエーなり。
(この條約はコブデン通商條約とも云ふ) この條約に依り、フランスは從來禁止したりし刃物、毛織物、綿布、麻布、絹、車輛の輸入を許して少額の稅を課し、石炭、鐵、青銅、鋼鐵、鐵器、其他の輸入稅を輕減し、イギリスは又フランスより來る絹、青銅、金匠製品、珠玉、手套、造化、流行品の輸入稅を廢し、其他の稅を輕減せり。輕減の度の最大なりしは、佛國產の葡萄酒と火酒にして、葡萄酒は一「ガロン」一弗二仙より十六仙に、火酒は一「ガロン」四弗十五仙より一弗五十七仙に低減せり。この條約は、國際貿易上一時期を劃するものにして、是より後イギリスが各國と締結せし條約は皆範を是れに取りたり。この後に於けるイギリスの商業の進歩は、旭日昇天の勢あり、十九世紀後半に於けるイギリスの外國貿易の進境の大なるを見れば、誰れしも一驚を喫せざるを得ず。

年	代	輸 入	輸 出	合 計	再 輸 出
一八五五	五九	百四六萬磅	百一六萬磅	二六二萬磅	百三萬磅

十九世紀
後半に於
けるイギ
リスの進
歩

一八六〇—一六四	一九三	一三八	三三一	四二
一八六五—一六九	二三七	一八一	四一八	四九
一八七〇—一七四	二九一	二三五	五二六	五五
一八七五—一七九	三二〇	二〇二	五二二	五五
一八八〇—一八四	三四四	二三四	五七八	六四
一八八五—一八九	三一八	二二六	五四四	六一
一八九〇—一九四	三五七	二三四	五九一	六二
一八九五—一九九	三九三	二三八	六三一	六〇
一九〇〇	四六〇	二八三	七四三	六三

然らばイギリスの商業が、かく顯著なる發達を遂げしは何故ぞ。これ經濟史家たると政治家たるを問はず考究すべき、重要な問題なり。

イギリスの商業が顯著なる發達を以てせしむるの機會を有せしこと、

- (1) イギリス人は他國人に率先して、商工業に従事したるを以て、早くより其技能を發達せしむるの機會を有せしこと、
- (2) イギリスは地理上、便利の地に位せるのみならず、近世物質文明の要素とも云ふ可き鐵と石炭とを無盡藏に有せしこと、(世界大戦争前に於いては、工業國として成功するには鐵と石炭が必要なりき。世界大戦争後に至つてこの二者に石油が加へらるゝに至れり)

(3) イギリスの商業政策は往々過失に陥れる事あれ共、是を他國の政策に比すれば、寛大進歩的にして、其商工業の發展に與つて力ありしこと、

イギリスの貿易は世界的な英米貿易關係

の三原因は主要なるものとす。此期に於けるイギリス貿易の對主國は其範圍頗る大にして、全世界に跨ると云ふも過言ならじ。對歐貿易は全體の五分の二を占め、過去四十年間に五割以上の増加を見たり。屬領地との貿易は、全額の四分の一占め、堅實なる進歩をなしつゝあり。就中、英米の貿易關係は最も密接にして、一九〇一年にイギリスが米國より購買せる額は、フランスよりの輸入額の二倍にして、米國に輸出したる額は、其屬領地の總べてに輸出したる額よりも大なりき。かくイギリスは十九世紀に於いて世界商業の霸權を握りしが、其貿易表を見れば、何人も輸入の輸出よりも遙かに超過せるに驚かざるを得ず。元來一國の輸出入なるものは互ひに相平均すべき筈なるに、イギリスに於いては、常に其差甚しく、千九百年前後の輸出入を比較するに、輸入超過は七億乃至九億萬弗に達す。その理由は、

- (1) イギリスは世界の運送業者にして、其汽船は船客貨物を載せて、世界を航走しつゝあり、此の外國航海業なるものは、一箇の輸出業と云ふも差しつかえなく、是れに依つて、イギリスをして、他の諸國に對して債主の地位に立たしめ得たり。

極端なる輸入超過

(2) イギリスは世界に於ける商業金融の中心市場なれば、他國に對する商業關係に於いて多額のコミッションを收得し得るなり。

(3) イギリス人が海外に投資せる資本の利子、海外に於いて從事せる企業の利益等の本國に入る者は莫大の額に達せり。

イギリスは、是れに依つて輸出入の不足額を補ひ、猶且つ綽々たる餘裕を有するなり。此理を知らば何んぞあやしむに足らん。

然れ共廿世紀に至りてより、イギリスの貿易は、漸衰の兆向を呈せり。これ輸出入總額の減退を意味するものにあらず。輸出入總額は増大したれ共、他の列強の商業が一大進歩をとげたるを以て、十九世紀に於けるが如く、貿易獨占の勢力を有する能はざるに至りしを意味するものなり。廿世紀初めより、イギリス政治家、實業家の注意を喚起せる一大問題は、「輸入の増加の疑々たるに關らず、輸出の是れに伴はざる事」なりとす。千八百八十一年より千九百年迄に諸外國の購買力は一割一分の増加を見たれ共、是れに對するイギリスの賣却高(輸出高)は四分を増加したるに過ぎず、又イギリスの屬領地は一割七分の購買力を増加したるに、是れに對するイギリスの輸出額は一分を減じたり。しかも輸出の性質を見るに、イギリスが産業社會の進

イギリスの貿易漸衰の兆向あり

イギリスの貿易不振の根

輸出貿易不振の原因

歩を表示するものなりとて、得意を感じたる織物、鐵、鋼、等の輸出は、其増加抄々しからず衣服、石鹼、家具、陶器原料等の増加は著しと云ふ現象を呈せり。輸出入額が極端に差を生せんが、産業の發達は夢想する能はざるなり。かく輸出貿易不振の原因は、

(1) 重要輸出品の製造上に缺點の存する事、

(2) 商業機關の缺點、

(a) 外國需要者に關する智識の缺乏、

イギリス貿易の大缺點は、需要者の情態に關して往々正確なる智識を有さざる點にあり英國貿易に従事せる一貿易商の言は、この事を頗る適切にあらはせり曰く、

「イギリスの商人は、市場要求に隨つて物品を製造する事を爲さず、只だ見本を送りて其中の意に適するものを撰ばん事を求むるのみなり。若し購買者が其物品の交換を求むる時は、是を拒絶するか、然らざれば非常の割増を求むるを常とせり云々」と、

(b) 外國の商習慣に隨ふを欲せざること、

これイギリスが、獨米の如き新進國と競争して早晚敗を取る可き一因なり。イギリスが他國の習慣を無視して、自國の商習慣を行はんとして得意を奪はれる事は、其例に少な

からず、

(3) 他の諸國が保護關稅を設けてイギリス品の輸入を妨碍すること、

年次	世界大戰前貿易額		總合計
	輸入	輸出	
一九〇八	五九三、九五、四八七	七九、六三、六六七	一、〇四九、六八一、〇八八
一九〇九	六四七、七四、九五七	九一、三四、八一九	一、〇九四、三三〇、一三三
一九一〇	六七八、二五七、〇三四	一〇三、七六一、〇四五	一、二二二、四〇二、八四一
一九一一	六八〇、一五七、五三七	一一一、七五九、一三四	一、二三七、〇五、九九九
一九一二	七四八、八六、五四四	一一一、八三七、九〇五	一、三三四、一六八、四三二

大英國人の覺悟

近來世界の各國が漸次保護政策に傾きつゝある結果、イギリスの輸出品は、多くの國々に於いて、一割乃至三割の關稅を課せられつゝあり。これイギリス貿易に取りて一大打撃なり。にきす。これイギリス國家に取りては、由々敷一大事なり。若しイギリスが將來に於いても過去に於いて有したると同様の輸出を得んと欲せば、國民相一致して、缺點を矯正し、他の大商

工業國と其步趨を同ふせんことを勉めざる可らず。イギリスの有識者は既に此點に留意して、醒覺する所あるに似たり。然れ共、北米合衆國、獨逸帝國、極東に於ける日本の勃興は、イギリスが從來維持せし地位を維持するに當りて、最も困難を感ずる所なり。

第二節 北米合衆國

北米合衆國は世界的富國
十八世紀末の狀況
北米合衆國の商業史なる所以

北米合衆國は、其面積に於いても人口に於いても富の程度に於いても、内地商業、外國貿易の額に於いても世界に於ける最大富國の一なれ共、千七百八十九年の當時に於いては、僅かに世界に於ける小國間に相當の位置を認識せられん事を以て其理想とせり。其人口は、千九百十年に九千九十七萬人に達したれ共、千七百九十年に於いては四百萬に足らずして、歐洲の諸大國と比肩するは、夢想にだにも及ばず、産業幼稚にして、商工業振はず、歐洲の小國にも劣る有様なりき。是れを世界の最富國の一としての現在と對比すれば、何人も其進歩の速かなるに驚かざるを得ず。これ此國の商業史の貴重なる所以なり。

ウエブスター氏は、北米合衆國に於ける商業の發展を、

(1) Period of Industrial and Commercial planting 1607—1763.

(2) The Struggle for Industrial and Commercial Independance 1763—1793.

- (3) Commercial Expansion during the Great Continental War 1793—1815.
- (4) Period of Industrial and Commercial innovation 1815—1866.
- (5) The new nation and its Industrial and Commercial Expansion 1866—1902

と分ちて記述せられ、此區分法は、著者の最も敬服する所なれ共、本書は、他の部分との均衡上、是れに従はず

合衆國は、獨立以來、漸次領域の擴張と移民奨励とを企てたり。夫れと共に内地の開発、交通機關の發達を企圖して、商工業の發達に資せり。

交通機關の發達

(a) 交通の發達は、陸上道路、及運河を第一として、汽船航路、鐵道、郵便電信に及べり。合衆國政府が交通機關の發達に注意するに至りしは、千八百十二年以來の事にして、其れ以前は、道路は陸上に於ける運輸交通の唯一の機關なりしに關らず、自然の儘の道路にして、雪ごけに際しては一面の泥海に變ずるてふ有様なりき。然れ共、政府の施設宜しきを得て、千八百廿四年に至りては、行路の難を減するを得たり。陸上交通の不便を補ふは河流と運河なり。合衆國は盛んに當時是を利用せり。運河開鑿の起原は、千八百六年に財務尙書ガラチンが案を具して國會の賛同を求めて成功したる時にあり。其最初のものは、イ

道路改良

運河事業

運河が商業上に與へたる結果

汽船航路の擴張

リイ運河なりとす。イリー運河は、千八百十七年に工を起し、千八百二十五年に至つて完成し、イリー湖よりハドソン河に舟楫を通ずるを得たり。これに續いて出來たる多くの運河は、商業上に大なる利便を與へたり。曾て陸上交通に依頼せる時は一噸一哩十仙の運賃を要せしが今や一仙に減じ、通行料を合せて、三仙に過ぎざるに至れり。(合衆國は始め、道路改良の爲めに、株式會社の設立を許可せしかば、是等の會社は、其資本に對する報酬として、通行料の徴收を許可せられたり)イリー運河の開通せざる以前に於いては、紐育州西部の平野に生ずる小麥は、如何ともすべき由なく、代價は低落する一方にて、舶來の股引一足を購はんが爲めに、一エーカーの小麥を要したり。然るに此運河の開通と共に、此地方の生産物は、盛んに紐育市に輸送せられ、相當の價を以て賣却せられしかば、此地方の富は非常に増進せり。是等の交通機關に代つて、主要なる交通機關となりしものは、汽船の應用と鐵道なりとす。合衆國に於ける汽船航路の始めは、千八百十八年「オーク・イン・ゼ・オーター號」がイリー湖なるブラック・ロククを發してマクキナツクに至る航路を開始せしに始まる。千八百三十年に至りては、バファロー及デトロイト間に毎日定期の航路を通ずるに至れり。千八百三十八年には、歐米間に汽船の定期航路を開けり。次來、米國の造船業は進歩を遂げ、千八百六十年に於いて、米國商船の噸數は全世界の商船噸數の

鐵道の發達

三分の一に達せり。千九百十二年に於ける商船の噸數は汽船帆船を合して、五百二十五萬噸にして、イギリスの千九百八十七萬噸には及ばざれ共、獨逸を凌ぎ、世界第二に位せり。又鐵道は千八百二十年代にマサチウセツ湖に敷設したるを以て始めとす。然れ共、當時未だ農業國の域を脱する能はざりしを以て、是れを應用する範圍少なりしかば、其進歩は遅々たるものなりき。是れが進歩の顯著となるは千八百五十年代後の事とす。千八百五十年に於ける情況を見るに、アレガニー山以西に鐵道の敷設せらるゝもの多からず。大西洋岸の諸洲が七千哩の鐵道を有するに對し、ミシシッピー河上流の地は僅かに一千哩を有するに過ぎず。アイオア、ミネソタ二州には一哩の鐵道もなかりき。廣漠なる西部地方に數千哩の鐵道の敷設せられたるは、千八百五十年より六十年に至る間にあり。千八百六十九年、大陸貫通鐵道の完成以來、其進歩驚く可く千九百年には、廿萬哩に達せり。

年 代	哩 數	年 代	哩 數
一八四〇	二、八一八	一八六〇	三〇、六二六
一八五〇	九〇二一	一八七〇	五二、九二二

一八八〇	九三、二六二	一九一〇	二四二、一〇七
一八九〇	一六六、七〇三	一九一一	二四六、五七三
一九〇〇	一九四、二六二		

蒸氣鐵道と電氣鐵道の完成

郵便制度の完成

過去時代に於ける隊商

現在に於ける(一九)鐵道總資本金は、百九十九億九千九百九十九萬四千弗に及び、電氣鐵道の線路四萬八千八哩あり。雷に哩數の延長のみならず、各種の點に於いて改良せられ、速力の如きも一時間六七十里を以て普通とせり。軌道も千八百六十年來漸次統一せられて、四呎八吋半となれり。又郵便線路電信線の完成も千八百五十年後にあり。北米合衆國に於いては、十九紀世の初め交通機關の發達せざるの時、隊商旅行の擧あり、隊商の貿易線路はアメリカの大砂漠を横斷せり。千八百廿九年より翌年に至る間、米政府は商沽の一行に護衛兵を附せしも、後には商沽自ら自衛の方法を取れり。其法たるや一隊の人員を百人とし、車輛四十乃至五十を附したり。貿易開始より十五年間、一年の貿易額凡十萬弗に上れり。然れ共此隊商は、鐵路の發達と共に、既に過去のものとなれり。

(b)植民 土地に對しては、合衆國は始めより、未開の土地を國有となすの方針を取り、漸次内地に進めり。千七百九十年來、土地調査局を置きて、土地を丈量し、四十エーカーを

外國貿易額僅かに輸出入を合して、四千萬弗にすぎざりき。然るに、この後、外國貿易は、内國の發展と伴うて、確實に増加せり。千八百二十年代に至りて輸出入合計、一億四千四百萬弗に及べり。

年 度	輸 入	輸 出	合 計
一八二〇	七四 百萬弗	六九 百萬弗	一四三 百萬弗
一八三〇	六二	七一	一三三
一八四〇	九八	一二三	二二一
一八五〇	一七三	一四四	三一七
一八六〇	三五三	三三三	六八六

英米通商條約

貿易の發展するに隨ひ、英、佛、西、其他の國々と通商條約を結べり。

(a) 英米通商條約 千八百十二年のグントの條約は商業上の問題を解決せざりし者多く、之を後日の商議に附する事とせり。千八百十五年に至り兩國商議の結果、英領西インド貿易の一部分を米國の商船に開放する事となりしも、こは一空文に過ぎずして、英國は依然舊法を墨守せり。剩え、イギリスは西インド鎖港を行ひ、米人の出入を禁せしが、千八百三

米佛通商條約

十年、再び西インド諸港を開放せり。又合衆國國會は英米貿易に關する諸種の禁令を解除したり。爾後西インド貿易は、急激に増加せり。

(b) 米佛通商條約 合衆國獨立後、米佛の親密なりし關係は一變し、千七百七十八年の條約は千七百九十八年を以て消滅せしが、ナポレオンの時再び和親を恢復せり。其第六條及第十一條に依り兩國は物品税噸税に關し互惠主義を原則とせり。後數次の改革をへて千八百九十年の條約に至れり。

(c) 米西通商條約、其他の諸國との通商條約

スペインは近時に至る迄も、自國船に依つてのほかは、植民地貿易を許さず。千七百九十五年、千八百十九年千八百三十三年に、條約の締結ありしも、通商に關する條項を規定せざりき。然れ共、米國人は、スペイン領のキューバと盛んに貿易をなしたり。

プロンヤとの條約は其開始以來、満足なる結果を呈し、千七百八十五年の條約は互惠税率及噸税を規定し、以て互惠條約の模範となれり。この後千八百二十八年に新に結びし條約は互惠的商業自由を保障し、兩國の船舶に差等税を課せざる事を約せり。ついで合衆國は瑞典、諾威、墺地利、葡萄牙、和蘭、丁抹、暹羅、支那等とも、この主義に依つて、條約

米西通商條約及其他の諸國との通商條約

互惠條約の模範

を締結せり。唯丁抹との條約は千八百五十六年に合衆國政府より放棄せり。メキシコ、中央アメリカ諸國との貿易のみに増加せしは、千八百二十一年後の事なりとす。

然れ共、合衆國の商工業が勃興して、世界的となるに至りし變化は、全くカリフォルニア金鑛發見後にあり。故に、合衆國の商業史を研究する人は、カリフォルニア金鑛發見を輕視する能はず。嚴密なる意味に於いては、合衆國商工業の發展の著しきは、千八百六十年後と云ふを得可けれ共、余輩は、カリフォルニア金鑛發見前と發見後に於いて、著しき差異を認むるが故に、金鑛發見の合衆國は、世界的活動の準備時代、發見後は、世界的に雄飛するに至る時代なりと敢えて云ふ。此後に於ける商工業の發展は著しき事なるが、先づ工業に就いて述べんが。製造工業中、製綿業、毛織物業、製鐵業の進歩は目覺むる許りなり。製綿業進歩の概況は、

資本額	千八百四十年	千八百六十年
資本額	五一、一〇二、〇〇〇弗	九八、五八五、〇〇〇弗
錘數	二、二八四、〇〇〇個	五、二三六、〇〇〇個
棉花消費額	一二六、〇〇〇、〇〇〇封度	不明
製品價格	四六、三五〇、〇〇〇弗	一一五、六八二、〇〇〇弗

にて知る可し。毛織物業は、

資本額	千八百四十年	千八百六十年
資本額	一五、七六五、〇〇〇弗	四二、八四九、〇〇〇弗
製品額	二〇、六九六、〇〇〇弗	八〇、七三四、〇〇〇弗

製鐵業の進歩は、機械の發達を促し、随つて機械に關する發明を増加せしめたり、千八百四十九年より千八百六十年迄は特許の數は、概ね千を算せしが、千八百六十年には四千八百十九となりぬ。是等米國工業の進歩に關して特筆すべきは、機械工場時代に推移する過渡時代に於いて、英國其他歐洲各國の如く職工の多數をして失職せしむる事なく、圓滿に行はれし事なりとす。千八百六十年より千九百年に至る間に、合衆國の製造工業は既に試験時代を経過して、千九百年に於いては世界最大の工業國と目さるゝに至りたり。この偉大なる工業進歩は、如何なる原因に依りて生まれし歟、これ吾人の知らんと欲する所なり。

(1) 運輸交通機關の完成

(2) 自然の繁殖と移住民の流入とに依り勞力の豊富に供給せらるゝ事

合衆國工業發達の特徵

合衆國の工業が進歩せし所以

工業進歩の概況

互恵主義の通商條約を列國と結ぶ

- (3) 米國工業の前途有望なる爲め、全世界より資本の集り來る事
- (4) 領域内に無数の大市場ある事
- (5) 石炭及鐵産額の増大せしこと。

猶この進歩を數字にて示せば、千八百七十年に全國に使用せられし動力は二百卅萬馬力なりしに千九百年に千卅萬馬力に及び約五倍の増加を見たり。又投資額は十億弗より九十八億弗製造品の價額は十八億弗より百三十億弗に増加せしを以て一般は推知するを得可し。貿易に關しては互恵主義の通商條約は此期に至つて完成を見たり。

(a) 英吉利 千八百五十四年、通商條約の改正に依り、兩國産出及び製品の中、無税輸入を許す可き者を定めたり。是れ互恵主義を條約の上に定めたる始めなり。是より合衆國とカナダとの貿易は、頓に増加せしが、合衆國民は輸入の輸出に超過するは、自國の爲め損失を招く者なりとて、千八百六十六年一時的に是を廢せり。

(b) スペイン カリフォルニヤ金鑛發見前、米西通商條約は、一時報復行爲に依つて阻害せられしが、千八百五十二年、スペインは米國船舶の西領西インド諸港に出入するを許しき。然れ共猶、等差入港税及噸税ありて、事實上鎖港と擇ぶ所なかりき。等差税の廢止は、千

八百八十四年、千八百八十六年、千八百八十七年の諸條約に依つて實施せしも眞の通商條約を見るに至りしは遙か後年の事なりき。

(c) 其他の諸國

一八四九年	グアテマラ
一八五〇	サン・サルバドル
一八五一	コスタリカ及秘露
一八五八	支那(一八四四の條約に改正せしもの)
一八五四	日本
一八五二	和蘭
一八五五	瑞西
一八七一	伊太利
一八五八、一八七五	白耳義
一八五七	丁抹(一八二六の條約の復活)

是等の條約は未だ、一二を除く他、互恵主義を適用するに至らざりしが、千八百五十四年の

南北戦争の結果

イギリスとの通商條約以來、漸くこの主義に據るの風潮を來せり。千八百六十一年來の南北戦争は、米國經濟界に一大障害を與へ、一時財界に變調を與へしも、其結果は反つて國內の團結を固くし、産業發展に貢献したるに似たり。(貿易政策に就いては前章是を述べしを以て、本節に於いては論せず)

カリフォルニア金礦發見後の外國貿易の進歩

カリフォルニア金礦發見、合衆國産業の異常なる進歩と共に、商業も稀有の發達をなし、外國貿易の發達は其著しきものとなす。

年	代	輸 入	輸 出	合 計
一	八	六〇〇	三三三	九三三
一	八	七〇〇	三九二	一、〇九二
一	八	八〇〇	八三五	一、六三五
一	九	九〇〇	八五七	一、七五七
一	九	〇〇〇	一、三九四	一、三九四
		百萬弗	百萬弗	百萬弗
		三五三	三三三	六八六
		四三五	三九二	八二七
		六六七	八三五	一、五〇二
		七八九	八五七	一、六四六
		八四九	一、三九四	二、二四三

合衆國貿易の特徴

特に、注目す可きは、千九百年に於いて
(1) 米國の貿易總額は二十億弗に達せり、

千九百年に於ける重要輸出品

- (2) 輸出超過の著しきこと、
 - (3) 製造品の輸出の劇増したること、
 - (4) 原料品の輸入の劇増したること、
- にあり、千九百年に於ける重要輸出品を見るに、

綿	花	二四、一〇〇	〃
一般食料品		一八、四〇〇	〃
鐵鋼及其製品		一一、一〇〇	〃
鑛	油	七、五〇〇	〃
銅及其製品		五、七〇〇	〃
合	計	九四、〇〇〇	〃
内國產物品の輸出合計		一三九、四〇〇	〃
外國產物品の輸出合計		二、三〇〇	〃
貴金屬の輸出		一〇、四〇〇	〃

又主要輸入物品を千八百六十年と千九百年と對比するに、

品名	一八六〇年		一九〇〇年	
	價格	各物品の百分比例	價格	各物品の百分比例
食料品	七八	二二	二一六	二六
内國工業の原料品	六一	一七	二九九	三六
工業用半製品及製品	三一	九	八〇	九
純製造品	一二三	三五	一三〇	一五
便利品奢侈品	五八	一六	一〇三	一二
合計	三五三	一〇〇	八三〇	一〇〇

是れ余が千九百年を以て米國商業史上の貴重なる一時期となす所以なり。この年を以て米國が、商工業を以て世界的に雄飛する始めとなす所以なり。更らに、吾人は、世界的活動準備時代に於ける米國貿易の方向が如何に變化せしかを語らざる可らず。

輸入

年	歐羅巴
一八〇〇年	五一百萬弗
一八六〇年	五九百萬弗
一九〇〇年	五一百萬弗

輸出

年	北アメリカ	南アメリカ	太平洋諸島	歐羅巴
一八〇〇年	三五	一二	〇・一	五八百萬弗
一八六〇年	二〇	九	〇・九	七七百萬弗
一九〇〇年	一五	一六	二	七四百萬弗

右の表に據り、世界的雄飛時代の門出に於ける米國貿易の方向は、歐羅巴を第一とし、北ア

メリカ、アジア、太平洋諸島、南アメリカ、南アフリカの順なり。これ文明と貿易との間に離る可らざる關係の存する事を事實の上に於いて語るものなり。千九百年に於ける重要な對主國は、(百分比例を示さば)

イギリス	三〇
ドイツ	一二
フランス	六
北米に於ける英領	六
オランダ	四
西印度諸島	四
ブラジル	三
メキシコ	二
ベルギー	二
日本	二

なり。千九百年後米國の商業は、益々世界的の色彩を發揮し、外國貿易額は増大して、

二十世紀に於ける貿易の進歩

	輸 入	輸 出
一 九 〇 〇	八四九、九四一、一八四 <small>弗</small>	一、三九四、四八三、〇八二 <small>弗</small>
一 九 〇 五	一、一一七、五一三、〇七一	一、四九一、七四四、六四一
一 九 一 〇	一、五五六、九四七、四三〇	一、七一〇、〇八三、九九八
一 九 一 一	一、五二七、二三六、一〇五	二、〇一三、五四九、〇二五
一 九 一 二	一、六五三、二六四、九三四	二、一七〇、三一九、八二八

を算するに至れり。今後に於ける新進國アメリカ合衆國の發展は蓋し驚嘆すべきものあらん。吾人は今世紀に於いて、合衆國がイギリスを壓服して、世界商業上に覇權を握る可きを信じて疑はざるなり。歐洲空前の大戦亂は、合衆國をしてドイツと云ふ敵を失はしめ、反つて、覇權を掌握す可きの日を早めたるの感なくんば非らず。

第三節 佛 蘭 西

第十八世紀の終りに至る迄フランスは歐洲列強中最も富裕の國家と見做され、イギリスに二倍する人口を有し、其商業はイギリスに比して、差したる甲乙を見ず、然れ共、其政治經濟の組織は停滯不動にして進歩發達を見ず、當時フランスは國民は富みたれ共、政府の収入は多端

十八世紀末の状況

62

財政改革の必要

なる國事を充足するに足らず、租税につぐに租税を以てし、しかも國債年々増加して、財政の整理を不可能ならしめたり。千七百八十九年（ヘンリー四世）より千七百八十九年迄に政府の債務額は、五十六倍の増加を見たり。千七百七十四年ルイ十六世即位するや、國民は王に財政改革を期待し、王も又自ら其人なりと信じ、チュルゴーを用ゐしも功なくして退けられ、適當なる後任者なく、皆新債を募集して目前の計をなしたる爲め國債は十六億に達せり。政府も最早や是を如何ともする能はず、これ佛政府の破産に非ずして何んぞや。これ革命の導火線なれば、猶主因をあぐれば、

佛國政府の破産の原因

- (1) 主權の薄弱
- (2) 民權自由の思想
- (3) 經濟的不平均
- (4) 財政の困難
- (5) アメリカ革命の實例
- (6) 財政整理の失敗

にあり。千七百八十九年革命の爆發して以來千八百十五年に至る迄、フランスは政治上の變動

革命の效果

と不斷の戦争とを以てして一大打撃を受けたり。然れ共此結果弊害多き舊制度を一掃し去り國民を壓迫の下に救ひ出し、階級制度を打破し、租税の負擔を公平にし、農民に自由を與へ、商工業上の制限を撤去して、自由の範圍を擴大し以て、フランス商工業の發展の基礎を確立したり。此國亂に際し、大ナポレオンは大陸封鎖令を布きてイギリスの經濟を亂さんとして失敗し英佛人の間に忘る可からざる惡感情をのこせしは注意を要す。戦後のフランスの慘狀は目もあてられず、植民地中有利なるものはイギリスに取られ、歐洲各國との貿易も衰退せり。五朱利付公債は額面の五割七分に下落し、列國への賠償額は三億弗に上り、剩へ千八百十六年の凶歉未曾有の度に達し、工業の衰退と相待つて、輸出額減少し、千七百八十七年に一億五百万弗なりし者、千八百十七年には減少して七千九百万弗となれり。フランスの危急、是より甚しきはなし。あゝ、危い哉。

革命後の佛蘭西

國民の勵精と産業の發展

然れ共國民の勵精は、よく諸業の面目を一新して、フランスをして、危急より脱するを得せしめたり。千八百二十四年に軌條車道を設け、千八百三十二年に旅客の爲めに汽車鐵道を開業し、生産地と市場の距離を接近せしめたり。この間、農工業の進歩も著しかりき。ブルボン王家は自由主義の商業政策をなせしも國民の多くは猶舊法を慕ひし故、結局保護主義を眼目とせ

62

ブルボンの
王家の保
護關稅政
策

ナポレオ
ン三世の
産業的施
設

社會主義

り。十九世紀前半に於ける保護關稅政策は、羊毛、綿、麻、鐵、鋼、明礬等の原料品に對して一層の重稅を課し、或る種の稅目に至つては保護稅と云はんより禁止稅と云ふを以て至言とせり。これ當時止むを得ざる結果に出でたるものなり。千八百三十年に七月革命起り、ブルボン家廢せられ、富を以て國中に冠たるフイリツプ王位に即けり。フイリツプを推し、者は銀行家、工業家及び大市の富家なりしが、即位後ラファエツト及ペリエー閣僚の首班となれり。然るに此治世に、資本家と勞働者の間に一大爭鬪を惹起し、サン・シモン、及フーリエ等の徒其間に立ちて盛んに社會主義を鼓吹せり。然るに國王はあらゆる手段を盡して商工業の發展に勉めしかば、千八百三十八年より千八百四十七年迄に、商工業は大なる發展を遂げたり。千八百四十八年に二月革命おこりて、王政顛覆し、再び共和政時代となれり。此間ルイ、ナポレオン輩出して、共和政變じて、フランスは最後の帝政時代となれり。(ルイナポレオンの帝政は一八五二―七〇) 帝は治世中、幾多の産業的施設をなして、フランスの商工業界に、大なる活力を與へたり。

(1) 諸階級に於ける利益の調和と公平なる保護を以て己れの任務としたり。帝はこの方針に向つて努力せり。

(2) 交通機關の發達に努力せり

當時フランスの鐵道は六大會社の掌握する所にして、鐵道運輸業を獨占して勢威を逞くしたり。帝は之れと契約を結びて、新線路の新設及び管理法を定めたり。別に千八百六十五年に鐵道法を發布して、諸處支線の築造計畫を規定せり。千八百四十八年に千三百六十四哩なりしが、千八百六十年には五千四百六十九哩となれり。(一九一二年には地方線を除きて二萬五千三百九十哩) 又汽船航海の發達は鐵道よりも迅速にして、政府は米國航路、アジア航路に對して補助金を附與したり。郵便電信の發達見る可きものあり。

(3) 農業の改良に従事したり

荒野の開拓灌漑を便にせんが爲め、二千萬弗を投じ、共有地を分割して、之を小農に分賣し、山腹の森林を整理せり。(一) 農務會議局の新設、(二) 賞金を以て農業改良方案を募る(三) 模範農場の設置、(四) 普通教育に於いて農業の初歩を教授す。等其精神を見る可きなり。千八百五十二年のクレチット・フォンシー(不動産抵當銀行)の如き又農業改良の一法たり。

(4) 金融機關の發達

貯蓄銀行、共濟會の制を擴張し、又各種の信用機關を創設して、産業の發達に便益を與へたり。

- 一八五二 クレチット・フォンシー（不動産抵當銀行）
- 一八五二 クレチット・モビリエー（動産抵當銀行）
- 一八五四 改正割引銀行
- 一八五九 一般商工業信託會社
- 一八六三 クレチット・リヨンネイ
- 一八六四 商工業獎勵會社

の如き是れなり。是等の機關は大抵、抵當を提供して、政府より資金を借受け五朱の利息を納付せり。

(5) 商工業の獎勵

帝が商工業の發展に力を盡くされし事一々枚舉に遑あらざれ共、一二の例を舉ぐれば、千八百五十六年に機械に對する輸入税を減少して各工業の發達に便益を與へたり。又千八百五十一年ロンドンに開催せられし萬國博覽會の例にならひて、千八百五十五年、及千八百

六十七年にパリに萬國博覽會を開催せしは、商工業獎勵に大なる効果を與へたり。

ルイ・ナポレオンの遺業又大なりと云ふ可し。帝の治世中、工業中最も進歩せしは、織物業にして、綿布、織布、麻布を大なりとす。しかも佛國製品は耐久、光澤、染色の巧妙なるを以て世界に名を知らる。美術的の技術に至つては天下佛蘭西の右に出づるものなく、絹織物、陶器、玻璃、等は萬人の嘆稱する所なり。かくフランスの工業が非常なる好評を博したるにもかゝらず、産額の英獨に及ばざるは何故ぞ。これ屢々戰役のおこりし事、内訌革命の多かりしにもよる可けれ共、製造機械の原動力たる石炭の産出少なきによる。又農業の進歩は頗る著しく、北米合衆國、露西亞と云ふ農業の盛んなる國あるにかゝはらず、穀類、葡萄酒の産出に於いては共にフランスに及ばず、思ふに十九世紀中半に於ける世界の形勢は、イギリスを商工業に於ける覇者とせば、フランスは農業に於ける覇者と云ふを得可し、又忘る可らざるは、カリフォルニア、オーストラリアの金鑛發見が、フランスの商工業の發展を幫助したる事なりとす。千八百四十八年の革命に際し、硬貨は殆んど全く流通以外に驅逐せられ、フランス銀行の豫備金も殆んど支出し盡したるの状態に陥り、紙幣を正貨として、強制流通を爲さしむるの必要を生じたるが故に、濠洲米國よりする金は最も必要の物品となりたり。即金の輸入は一般物價の

美術的工
品の發
達

石炭産出
額の少な
きは缺點

フランス
は農界の
覇者

革命と貨
幣

62

恐慌の慘害

騰貴を來たし、商工業の勃興をして、大ならしめたり。唯利益の分配は各階級平等ならざりし爲め、俸給を以て衣食するものは、非常なる困難に遭遇せしが、商工業の發展せし事は認めざるを得ず。然るに、ルイ・ナポレオンの時代は、華奢と徳義の壞敗せる時代にして、國民一般に堅實なる思想なし、商工業の發達は國民をして、投機熱にふけらしめ、其結果、商界に倒産者を多く出だし、社會の健全なる發達を遮阻せしこと甚だ大なり。千八百五十七年の萬國恐慌千八百六十年の綿恐慌、千八百六十三年より六十四年の恐慌は、フランスをして其渦中に投入せしめたり。然れ共、千八百六十年に於ける英佛通商條約(十年間行はる)は、フランス商業史上に一大時期を劃したるのみならず、歐洲大陸の貿易政策を改更したるものとす。帝の治世中フランスの外國貿易は著しく發展し、千八百五十年より千八百六十年迄に拾數億法より五十億法に増加せしが、千八百六十年の自由貿易條約以來一大進歩をなし、千八百五十九年より千八百六十九年迄に、フランスの貿易は五十四億法より八十億法に増加したり。しかもフランスの保護貿易論者が顧慮したるが如く、フランスの工業と農業とを破壊せざりしのみならず、反つて其發達を助けたり。即ち此十年間に羊毛及生絲の輸入額の二倍の増加を見たる事は(原料品の輸入は)的確にこの事を證するものなり。

フランスの進歩

ベルサイユ條約

かく、フランスの商工業は一大發展を遂げしが、此に又一大障害に遭遇せり。そはプロシヤと戦つて連戦連敗せし一事なりとす。千八百七十年のベルサイユ條約は、

- (1) フランスはアルサス州全部とロトリンゲン州の大部をドイツに割讓す
- (2) フランスは三ヶ年以内に五十億法の軍費賠償金を支拂ふ可し
- (3) ドイツ軍は軍費賠償金の支拂に伴ひて漸次撤退すべし

の如き屈辱的のものなりき。しかもフランスが戦争の創痕より回復する事の速かなりしことは世界各國の驚嘆する所なれ共、間接の損害に至つては、測り知る可らざるものあり、戦敗の結果、再び共和政となりしが共和政府は、輿論に随つて再び保護貿易政策に傾けり。かくて千八百八十一年新關稅の制定となり、各物品に對し一體に稅率を高めたり。其後フランス人は此主義を奉じてやまず、十九世紀過ぎて二十世紀に至りても其貿易は著しき進歩を認めず、千九百十一年に於ける貿易額は一般貿易は輸入三億九千二百三十九萬磅、輸出三億二千四十八萬磅、特別貿易は、輸入三億二千二百六十三磅、輸出二億四千九萬磅なり。

共和政府の保護貿易政策

覇氣なきフランスの商業

フランス人の貿易に對する觀念を見るに、英人に比して大に異なる所あり。イギリスの商業と競争せんとする覇氣なく、ドイツ、北米合衆國の商權の擴張を見ても平然たり、唯其土地比較

的廣大、農産物に豊富にして、自足的なるに甘んずるに似たり。しかもフランス政府は商業を鼓舞奨励せんが爲め種々の方法を講じたれ共、其多くは失敗にきしたり。本國に十六倍大の植民地あれども何等の發展を見ず、さりとてフランス人は、英獨米に對して商工業上の争ひをなさず、唯悠悠々自適、自足的の生活に安んぜり。さればフランスの商業は今世紀に於いては何等の飛躍をなさざる可し。恰かも歴史的由緒ある老舗が、進取的の元氣なく、先祖よりの信用を墜さざらんごつとむるに似たり。

第四節 獨逸

獨逸帝國は廿世紀に於いてこそ北米合衆國と共にイギリスに次ぐ商工業國となりしが、十九世紀の始めには、未だ商工業國と云ふ能はざりき。ドイツが北米合衆國と共に商工業國として偉大なる發展を遂げしは、商業史上最も注意を要する點なりとす。

十九世紀初めに於ける獨逸の國狀

十九世紀の始めに當り、ドイツ帝國に國家統一なく、國內は三百有餘の小地方に分裂し、ナポレオン戦争終結の頃、猶四十箇内外なりき。されば名こそドイツ帝國なれ共、實は無數の國家の集合にして、各々關稅の防禦物を設うけ不便極りなかりき。國中到る所に關稅所ありて、河川道路は人爲的に遮斷せられて商品の運搬を防碍する事頗る大なりき。是等の小地方は各々

關稅制度

商業の發達せざりし理由

農業國として獨逸

小麥輸出の漢堡

幼稚なる工業

國境に關稅をおきしのみならず、其内部にも亦た幾多の關稅所を有したり。プロシヤの内地には六十箇の關稅所ありしと云ふ有様なりき。此關稅制度は當時の商業をして、金錢と時間とを徒費せしめしのみならず、到る所割據的精神を廣めて、商業の發達を妨碍せり。例へば千八百十五年の頃、ドイツ全國に十七種の異なる郵便制度あり、六拾種の異なる爲替に關する法律あり、百餘種の貨幣の通用を見る有様なりき。かゝる有様にして商業の發達する理あらんや。社會制度右の如くなるが、當時のドイツの社會は事實上、殆んど商業なしに、農業に依つて生存し得たるなり。ドイツは、かく農業國なりしが、十八世紀中葉以後農民の慘苦甚しかりしが、アメリカ獨立戦争の反應に依つて、多少緩和せられ、土地所有に關する舊來の束縛を輕減し、農業の發達に資せり。フランス革命に際し、フランスの貴族の亡命せし者、許多の資財を齎して來り、爲めに莫大の資力を得たり。しかも十八世紀の末葉後、各國はドイツの小麥を要する事多く、漢堡は重要なる小麥輸出港となりぬ。然れ共、ナポレオンの大陸封鎖令出づるや一大打撃を受けたり。ナポレオンの滅後農業は稍進歩を見たれ共、商工業は猶幼稚なりき。當時ドイツの工業は、時代後れのギルドの制度と、其製品に對する相當の市場を缺ける爲め、當代に於けるドイツ工場の有様は數世紀前の夫れに比して、異なる所なかりき。

62

十九世紀
初期の商
業

然らば十九世紀初年に於けるドイツの商業は如何なる程度のものなりしか、統計の徴す可きものなけれ共、千八百四十二年のドイツ外國貿易の總額は、千九百年の貿易額の僅か十分の一に達せざりしに見て推察するを得可し。

國內關稅
撤去の運
動

先見の明
あるプロ
シヤ

商工階級の幼稚なる時代に於いては、かゝる不便極まる制度に満足すれ共、聊かにても醒覺し始むる曉には、最早満足し能はざるなり。千八百十五年頃より、商工業制度の改革に従事し始めたり。この運動中最も重要なものは、關稅を撤去せんとする運動なりとす。この運動の中心となりしものは、プロシヤなりとす。プロシヤは北ドイツの代表邦國にして、其邦國としては歴史は比較的新らしけれ共、野心勃勃たるものあり、大陸封鎖令廢止後、英國品が盛んに輸入せられ、且列國は多く保護政策を實施せしにもかゝらず、斷乎として妥協的自由主義の經濟政策を實行せり。千八百十八年全王國の關稅法律を發布して、從來の六十七箇の地方的關稅表に代るに至れり。此關稅表は千八百二十一年に修正せられしが、自由貿易の原理原則を應用せるものなり。終ひには同盟諸州の間には關稅を撤去して自由貿易を行ひ、唯外部に對してのみ關稅を維持せんとする運動も功を奏し、千八百二十八年に至つては、ドイツ全國に三箇の同盟團體を見るに至れり。

三箇の關
稅同盟

(1) 北部にありてプロシヤを盟主とするもの

(2) 南部にありてバヴリヤ、ウルテンベルヒを代表者とするもの

(3) 中央部より海岸に至る諸州を含むもの

關稅同盟
成立の利
益
工業の進
歩
農業の進
歩

千八百二十三年に至りて、益々同盟の歩をすゝめ、同年の關稅條約は千八百三十四年一月一日より八年間の効力を有するものにして、ドイツの全土地人口の三分の二を網羅するに至れり。此同盟は千八百四十一年更らに十二年間の延期を見るに至れり。千八百四十年代の初めに至る迄、關稅同盟は自由主義的プロシヤの關稅法の原則を用ひしが、この時以後勃興せるドイツ工業界の勢力は農業界を壓して、保護關稅主義を要求するに至れり。この關稅同盟の成立は、ドイツに對して大なる利益を與へ、市場の擴大せられし結果は意外なる好結果を與へたり。特に外國製造品の輸入額著しく減じ、原料品と半製品と植民地産物の輸入を増加せり。これ製造業の一大進歩を意味するものなり。商工業の進歩の他に農業の進歩は注目す可き事とす。特に甜菜糖、煙草、麥酒、森林、産物、穀類の増收は注意す可き事なりとす。

(1) 甜菜糖 ドイツに於いて始めて砂糖の煮製を興し、は、千五百七十三年の古にありて、アグスブルヒに創設せし製糖所を始めとす。然れ共、こは甘蔗糖にして甜菜糖に非ず、甜

62

菜糖製造の起原は化學者マルググラフの功に期す可し。是を改良せしはアカールドなり。共に十八世紀の人とす。其製造の進歩したるは、十八世紀中、半後にあり、十九世紀中半に至つて、其産額著しく増加し、消費高も増大せり。千八百四十一年より四十五年に至る間の消費高は、一人一年に就き平均五封度餘なりしが、千八百五十六年より六十年に至る間には八封度となり、普佛戦争の際には十三封度となれり。

(2) 煙草 煙草の栽培はドイツ農業の主位を占めたり、其産出高は十九世紀の中葉頃迄増加し、其以後は栽培區域並びに産額減少せり。しかも其産額は學術の進歩栽培法の改良と共に進歩し、千八百六十九年に一エーカーにつき十「ハンドレットエート」に過ぎざりしが千八百七十九年には十八「ハンドレットエート」に増加したり。

(3) 麥酒 麥酒の醸造はドイツ人の大いに誇示する所にして、ドイツ人の麥酒飲用性は、ゲルマニ人の遺風なり、葡萄酒の産も稍々大なれども、佛蘭西には及ばず。

(4) 森林 南部及西部の諸州は森林最も多く、數百年來、ライン、エルベ其他の河流に筏の上下する者、其幾何なるを知らず、關稅同盟に加入せる諸國の面積中、その半は、森林を以て蔽はれ、其面積は四萬九千方哩に及べり。現に林業はドイツ主要の産業にして、政

府は學術上の方法に従つて之を監督し、其面積三千四百五十六萬九千八百「エーカー」あり。(5) 穀類 穀類はドイツ貿易の基礎たるの感あり、イギリスが穀法を廢止して以來、其輸出額着々と増加せり。試みに千九百十二年に於ける重要農産物をあげん。

		作 付 面 積	收 獲 高
小	麥	四、八一四、〇二七	四、三六〇、六二四
稷	麥	一五、六七〇、三九〇	一一、五九八、二八九
大	麥	三、九七三、九八〇	三、四八一、九七四
燕	麥	一〇、九六六、三三五	八、五二〇、一八三
馬	鈴 薯	八、三五三、六七五	五〇、二〇九、四六六

然れ共、十九世紀の中葉迄、商工業の進歩は、確實なりしかど、遅々たるを免れざりき。

千八百四十年代一度保護主義に傾きし貿易策の反動としておこれる、自由貿易運動は政治問題として、全ドイツ民族の一大案件なりき。しかも此運動は千八百四十八年より六十六年にかけて行はれ、普墺の何れが覇權を握る可きかとの問題に關係を有したり。當時ドイツに於ける二大勢力はプロシヤとオーストリアにして、二邦何れも其利害を異にせり。オーストリアが關

保護貿易主義
自由貿易主義

6
2

保護貿易主義のオーストリアと自由貿易主義のプロシヤ

プロシヤの獨逸帝國なる盟主とドイツ帝國の建設者として隆々たる工業發展

國家統一の利益に與へし國民の利益

税同盟に加はらざりしは、以前より極端なる保護政策を採用せるを以て、同盟加入の結果、本來の主義を棄て、自由貿易主義に降服するを欲せざりしにあり、しかもプロシヤは到底諸般の事情上オーストリアと兩立すべからざるを看破して、益々其税率を低減してオーストリアの是れに加入するを妨げ、彼れをしてドイツ民族以外に孤立せしめんと勤めたり。終ひに、プロシヤはオーストリアと戦ひて是を破り(一八六六)續いて、フランスを破り、千八百七十一年ベルサイユの名譽條約を結び、同年を以て、自らドイツ帝國の盟主となりて是を統一し、オーストリアをして、全く孤立せしめたり。これドイツ商工業史上一時を劃す可きものにして、是れ以後商工業は隆々として、榮ふるに至れり。

帝國建設の經濟上に及ぼせる影響は如何に？ 先述せし如く、千八百七十七年迄は、國民の精力は、各州の關係、州内に於ける制度の改革等政治上の問題のために消費せられ、未だ産業方面に飛躍する能はざりき。これ商工業發達の遅々たりし所以なり。千八百七十二年に於いては國民の八分の五は、農業漁業等に従事し、商工業に従事するものは、僅かに一部分に過ぎざりき。然るに千八百七十一年、普佛戰爭大勝の勢に乗じて、國家統一をなすやドイツは、

(1) 直接の利益として、多額の償金と、豊饒なるアルサス、ローレン二州を得たり。

(2) 間接の利益として、國民は政治上の不安より脱するを得て、新進の氣を以て、平和的事業をなすを得るに至れり。

の結果を得て、商工業の一大發展を見るに至れり。

獨逸帝國建設の頃に於いては、自由貿易主義全盛を極め、千八百七十七年には輸入品中の九割五分迄は無税にて自由に輸入せられたり。これ自由貿易主義の頂點に達したる時にして、早晩恐る可き反動の襲ふ所とならんとす。當時、自由貿易主義に依つて、大なる苦痛を與へられし者は農民なるが故に、農民は率先して、關稅の保護を絶叫するに至れり。工業家の希望又保護主義にありしかば、大政治家ビスマルクは、千八百七十九年斷然、關稅上に一大變更を施すに至れり。これ以後、保護主義を原則とするに至れり。しかも千八百八十五年、千八百八十七年の兩度に其税率を高めたるに關らず、千九百二年に至り、政府を強要して更に其税率を高めたり。例へば米國より輸入せらるゝ小麦は、以前には税率一ブツシエル廿三仙なりしが、卅五仙となりぬ。若し、特殊條約を有せざる國より輸入する時は四十八仙を拂はざる可らざるに至れり。ドイツに於ける保護貿易主義者の理論とする所は、

(1) 農業を保護する事は、田舎の住民を保護する事となるを以て、政治上軍事上最も必要

自由貿易の絶頂

ビスマルクの貿易政策

保護貿易主義者の理論

なり。

(2) 保護主義は過渡の時代に處する一時の機宜なるが故に、其必要の去るに迫りて、直ちに撤廢する事を得可し。

(3) ドイツの進歩は餘りに急激に失する故、幾分か是を控制するの必要あり。

にありて、道理至極なれ共、極端なる保護主義が、反つて商工業の發達を害する事大なるは疑ふ可くもあらず。

工場労働者の増加

國民教育の效果

製造工業の進歩は、ドイツの商業の進歩と、兩輪の關係あり、國家統一後手工業は漸次減少して大規模の工場的産業起これり。千八百八十二年以來、工場労働者の増加は人口増加の四倍に達せりと云はるゝドイツ工業の進歩は、石炭と鐵とを豊富に有する點に期せずんばある可らず。ドイツは石炭の産額は、英國に次いで歐洲第二位なり。鐵も千八百六十六年には世界總産額の廿七分の一なりしが、十九世紀の末年には其六分の一を占めて、米國に次いで、世界第二位に位せり。而かもドイツ工業の勃興の大原因は其國民の性格にある事は忘る可らず。ドイツの労働階級は概して堅實にして、勤儉の徳に富み加ふるに、一般に常識發達せり。大戰前歐洲諸國中、技手及技師の教育に於いてドイツの右に出づる者なし。全國到る處に工業學校あり、

國民の大部分は工業教育を受け、學理は勿論製造工業に關する特殊の智識と技術とを有せり。しかも吾人はドイツ人について學ぶ可き二點あり。

吾人が獨逸國民よき諸點

(1) 適用の才に富める事にして、他の國々に於いて發明せられたる新方法又は機械にてもいとふ事なく使用する事。

(2) 國民一致して、新機械、新方法の發見發明につとむるは勿論、外國の機械にても、よきものあらば輸入する事を厭はざること。

なり。ドイツ製造工業が進歩して、世界の各市場にあふるゝ所以又偶然にあらず。

千八百七十年後の進歩

次に、千八百七十年より千九百年迄の商業の進歩を見るに、この時代に於ける人口の増加は、四千百萬より五千六百萬となりしにあれど、外國貿易額は二倍の増加をなせしに依つて、如何に急激なりしかを察するを得可し、千八百七十一年には農業に従事するもの、數は百人中六十人なりしが、千九百年には卅五人に減じたり。千八百四十年代には人口十萬以上の都會僅かに十二なりしも、千九百年には廿八を算するに至れり。伯林の如きは、其發達の速かなる事シカゴに優れり。千八百九十年より千九百年に至る商工業の進歩は、著しきものなるが、この時期に、

62

來得る限り其國語に通ずるものを送りて説明應答の任に當らしむ。若し止むを得ずして、印刷物を以て事をすまさんとする時には、説明の詳悉を極むるは勿論、平易明快の文章を用ゐ、其體裁を優美にして、人をして楽しんで是を保存せしむ。各國各々其國語に依つて是をしたむ。

又、商工業家は、商品陳列場、共進會、博覽會を盛んに利用して、自國商品の廣告をなす各地に博覽會の開催せらるゝや政府と人民は相一致して、是れに參同せり。しかもドイツ出品部は常に最も成功せるものとして、歡迎せられつゝあり。

(4) 政府が商工業を保護する事 政府はあらゆる手段をつくして、商工業を保護獎勵しつゝあり、近年領事の他に商務官なるものを世界の要地に派遣して、其任務をつくさしめつゝあり。猶政府は、國力發展の必要上、植民地を得る事に汲々として、全力を注げり。これやがて市場の擴大を意味するものなり。又金融機關の發達も海外貿易の發展に與つて力ある事は忘る可らず。

(5) 交通機關の完備せる事 ドイツは舟楫の便を有する多くの大河を有し、且つ是を補ふに幾多の大運河を以したれば、國內に於ける舟楫の便は頗る完備せり。鐵道も頗る進歩して千九百十年には三萬八千七百四十七哩に達し、内二千九百十七哩の私設を除きて他は國有なり。其建造費八億七千五百九十一萬七千二百五十磅に達せり。海運業も急激なる進歩を遂げ、特に遠洋航海は驚く可き進歩を爲しつゝあり。今日世界に於ける最大なる汽船會社の二箇、即ハンブルヒ・アメリカ線及北ドイツロイド會社は、ドイツの國籍に屬するものなり。

にありと考へざるを得ず、世界大戰前、ドイツ品が他國品に比して優る所なきに關らず外國市場に於いて優勝者たるの理は、以上の説明にて自ら分明なりと云ひつべし。フランスの或るビール會社のビールはバーデンバーデンの博覽會にて最高の賞牌を得たるにかゝはらず、巴里の酒舗料理店にして、ドイツ産のビールを備へざるなしてふ有様なり。イギリス植民地へもドイツ産ビールは多く輸入せらるれど、其原因は、英佛のビールがドイツ産に比して劣れるに非ず、これ英佛の醸造家が舊習を墨守せるに反し、ドイツ人は一意専心、需要者の要求を便利とを斟酌するがために外ならず、これ僅かに一例に過ぎざれ共、かくして、英佛の商品は市場よりドイツ商品の爲め驅逐せられつゝあるなり。此歴史的傾向より論ずれば、イギリスは將來ドイツに商工業の覇權を奪取せらるゝの恐れあり。

英國人は
獨逸を最
も恐る

第五節 奧地利匈牙利

オーストリアの地位

異種族を含む

國民の智識幼稚なり

第十七世紀に於けるオーストリアの商業

ドイツの國家統一以前に於いては、プロシヤとオーストリアとはドイツ國內における二大勢力なりしが、オーストリアは、プロシヤに比し、不利益なる國狀なりき。プロシヤは獨逸の中心に起り、漸く發展して四隣の地を蠶食するも猶、獨逸種の國家なれ共、オーストリアは是れに反し、ドイツの南端に起り、四隣の地を蠶食するに隨ひ、自然と異種族を支配するに至りしかば、國家的統一なかりき。主なる異種族はボヘミヤ人、スラブ族、匈牙利人等にして、是等の異種族は歐維巴に來れる日、比較的淺く、文明に接觸するの機會少く、且内部の紛争に忙殺せられしかば、ドイツ人に比すれば、産業上の智識幼稚なりき。否オーストリア在住のドイツ人すらも、他のドイツ人に比すれば、産業上の智識幼稚なりき。第十六世紀の頃、他の獨逸人に對し産業上に於いては從屬的關係を有しき。即ち北部のドイツ人は、其製品をオーストリアに輸入したるのみならず、オーストリアの商業上の權利を握れり。

オーストリアの商業は、十七世紀に至つても十六世紀と異なる所なし。十七世紀中の一經濟學者の言に依れば「オーストリア全國に於いて生産したる製造品の價格はオランダの一都市レーデンの産出額にも及ばざりき。千七百年頃の商工界又然り、其輸出する所は羊毛、麻、リ

政府の商業獎勵

外國貿易大會社に與ふ

商工業の進歩の遅々たりし所

保護主義の關稅法

ネン、皮革、銅、等の原料品にして、其大部分は他國に於いて加工せられて、復び輸入せられたり。十八世紀以來、政府は關稅と内國に於ける諸種の政策を以て其製造工業を獎勵せしが、はか／＼しき効果を得ざりき。十九世紀に至りても政府は、一意保護獎勵に努力せしが、著大の進歩を見ざりしは、政府の所爲往々一方に於いて與ふると共に、一方に於いて是を奪取するが如きものありたるが故なり。外國貿易の大部分は五大會社の獨占する所にして、其中の二箇は、トルコ及び小アジア地方の貿易に限られたれ共、他の三箇は其貿易品に依つて制限せられ地方的の制限を受けざりしが如き然り。

- 十九世紀の前半に於いて、商工業の進歩は頗る遅々たりしが、其原因は、
- (1) 極端なる専制君主政體にして、國家の精力は多く王室と外交の爲めに費されしこと、
 - (2) 禁止的關稅が他の諸國に比して一層過酷なりしこと、
 - (3) 國民一般に保守的にして、ギルド時代に存在せし幾多の制限束縛を、維持し來れること、

にあり。當時オーストリア政府は千七百八十四年及千七百八十七年のヨセフインの禁止制策に基き、千八百十年—十二年の關稅法は保護主義の極度に達せるものなり。しかも此主義は生産

者に満足を與へしかば勢力の衰へざりしことは、千八百三十五年、千八百三十八年の關稅率の示す所の如し。然るに千八百四十年代の自由主義的運動によりて一大致命傷を受くるに至れり。千八百四十八年の革命以來、漸次立憲的政治運動効を奏し、專制政體倒れて代議政體おこるや、産業上の障害悉く破壊せられて、オーストリアは新生命を得るに至れり。

(1) 政府の保護貿易主義は、從來極端に流れしが、千八百四十八年以來漸く穩和なる傾向となり、又特別條約を締結したるが爲め貿易上に便利を増進したり。

(2) 政府は千八百二十六年以後、内地商業に自由を與へしが、千八百五十年に至つては全國に同様の自由を與へたり。

(3) 千八百五十年に至つても猶工業上に種々の制限を存したり、何人も政府の免許狀なくして機械工業に従事する事を得ず。例へば、パンヤは菓子屋を兼ねるを得ずてふ制限存せしも千八百六十年に至つて、制限の大部分を撤去する事を得たり。

其他社會上に一大改革を與へ、著しき商業の發達を見るに至れり。然れ共、オーストリアは其位置上よりして絶えずヨーロッパ大陸の戰爭の渦中に捲込まれしかば、其財政は常に窮乏を極めたり。千八百十一年及び千八百十六年の國家的破産以來常に窮乏を告げしが、千八百四十

財政紊亂

國債に
なめる政
府商業産業
の發達

八年以來銀行紙幣及政府紙幣は硬貨に對する交換力を失ひ、其結果硬貨は其姿を没し、三十年間の銀貨溢價を見たり。政府は紙幣の信用を回復し、合せて財界の整理をなさんと企てしも、千八百六十六年、プロシヤに敗北するや悉く水泡に期したり。随つて、政府の國債は莫大にして、クリム戰役に際して、六億グルデンの五分利附記名公債を發行せり。千八百五十五年以後國有鐵道及び國有地の賣却によりて國費を支辨するの苦境に達せり。政府は嘗て三億七千七百萬グルデンを要せし鐵道を僅かに、一億五千三百萬グルデンを以て多くは外國の私設會社に賣却せり。千八百五十四年六十年、六十四年の抽籤公債の發行も又其窮乏を語つて餘りあり。これに據るもオーストリアが財政上如何に窮乏せしやを想像するに難からず。これ今日獨、オーストリアが多額の國債を有する所以なり。然れ共、商業上の發達は著しく、外國貿易は廿年間に二倍に達し、オーストリア特にボヘミヤの地方は大いに鑛業の發達を來たし、他の産業も著しき進歩を遂げたり。ハンガリーにては大いに農業の發達を來たし、随つて著しく農産物の輸出を増加したり。

千八百七十年に至り、貿易上保守的の反動を生じ、保護貿易主義に立戻りたれ共、商業の發達は甚しく妨碍せられざるが如し。唯ハンガリア人に獨立心勃興し、やゝもすれば其發達を害せ

んとするは憂ふ可き現象なり。最近に於けるオーストリア、ホンガリアの外國貿易は、

	輸 入	輸 出 (但し金銀地 金を除く)
一九〇七	一〇四、二五〇 <small>千磅</small>	一〇二、三八〇 <small>千磅</small>
一九〇八	九九、九一六	九三、九六六
一九〇九	一一六、五一四	九六、六二〇
一九一〇	一一八、八六八	一〇〇、七七五
一九一一	一三二、九八八	一〇〇、一七九
一九一二	一四五、三〇〇	一一〇、九一二

猶農業立
國と云ふ
べし

の如し。オーストリアの商業は進歩したれ共、是を列強と比する時は猶未だしと云はざるを得ず、其大きに於いては、歐洲列國中第三位にあれど、其商業に於いては和蘭、白耳義に劣ることも優らず、四千九百萬の人口中、六割は農業に依つて、生活を營む有様なれば、世界的の見地より見る時は猶農業立國たる事を免る能はざるなり。

現今、其貿易は、大部分ドイツとの間に行はるれ共、將來はバルカン半島諸國との貿易を發展せしむるの望なきに非ず。然れ共、其地理上の關係に據り、政府が如何に莫大の保護を與ふ

商業國と
して將來
望なし

ることも海運業は到底發達するの望なきに似たり。これ同國が商業國として、將來望少なきを語るものなり。況んや今次の世界的大動亂後の國運に至つては、云ふに忍びざるものあり。

第六節 露 西 亞

商業史上
ロシアの
地位は低
し

ロシアは世界の大国にして、地球面積の約六分の一を掩有し歐亞の兩性質を兼有すれ共、其貿易額に至つては、和蘭、白耳義に及ばず。元來、斯の如き大国は、小國が外國貿易に依頼せざる可らざる所を國內にて濟ますを得るを以て、外國貿易は比較的重要ならざれ共、ロシア商業の微々として振はざるは明かなり。隨がつて商業史上ロシアの地位は低けれ共、將來生産地として、大なる光明あるを以て、猶研究の必要大なり。

近世文明
に立遅れ
たり

ロシアは西歐諸國が相競ふて文明の進歩に努力せし數世紀の間。アジアの酋長等と干戈折衝し、以て文明上に於いて數歩おくれたり。千七百年頃に至つて、始めて西歐諸國の仲間入をなすを得しも、其文明は遠く西歐諸國に及ばず、彼得大王は、西歐文化を輸入して、進歩的運動を試み、爾來今日に至る迄、他の歐洲諸國に追求せんとして努力奮闘しつゝあれ共、未だ俄かに同等の地位に達する能はざるなり。

彼得大帝に依つて企てられし進歩的運動は、時に依つて消長なき能はざれ共、連續して十九

ロシアの
進歩的運
動

6
2

十八世紀
後期に於
ける商業
の進歩

世紀に及び。商業を觀察點とすれば、千八百年に至る迄の進歩は急速にして、千七百五十年の貿易額に比すれば九倍の増加を見たり。しかも猶千八百二年の全貿易額は僅かに五千萬弗に過ぎず。貿易は麻苧、木材、穀物、獸脂、皮革類、羽毛等の如き原料品を輸出し、製造品を西歐諸國に求めたり。

交通の便
なきにひ
と

當時ロシアは交通の不便なる事言語に絶し、道路の不完全なるは、殆んど是無きに等しく、陸上に於いて貨物を輸送せんと欲せば、冬期積雪地を掩ふの時權を用ふるより他なかりき。但し、ロシアは舟楫の便ある河流多く、是れに加ふるに運河を以てしたれば、水運の便は比較的に大なりき。運輸交通の便に左右せられ、外國貿易は殆んど海上に限られしが如き有様なり。アーチエンジェル(ドヴイ)港は聖彼保堡の開くる前に繁盛せしが後、聖彼保堡に奪はれたり。領土の擴張に隨ひ千七百九十三年黒海岸にオデッサを得たり。

貿易港の
變遷

十九世紀
前半に於
ける商業
の進歩の遅
々たりし
所以

十九世紀前半に於けるロシアの商工業の進歩は、堅實なりし事勿論なれど、頗る徐々たるを免れざりき。其理由としては幾多の條項をあげ得れ共、其一半は慥かに、千八百二十二年保護貿易を採用したるにあり。當に其稅率の増加したるのみならず、時計、織物、陶磁器、玻璃器等の輸入は絶対に禁止せられたり。然るに、ロシアはクリミヤ戰役の結果、非常なる利益を得

ロシア産
業界の一
維新

て、深く自國の現状の幼稚不完全なるを看破して、銳意改革に従事するに至れり。これロシア産業界の一維新なり。

溫和なる
保護貿易
政策

西ヨーロッパの文明制度と共に、自由貿易主義もロシアに侵入せり。千八百五十六年より七十六年に至るロシアの貿易政策は溫和なる保護政策なりき。改革運動は諸方面にあらはれしが先づ千八百六十一年に農奴の廢止となり、國民の多數は自由民となれり。又鐵道の敷設は、商業發展上最も重要なる出來事なり。クリミヤ戰爭の頃僅かに六百哩なりしが其後十年にして二千哩となり、更らに十年にして一萬哩となり、千九百七年には、ヨーロッパ、アジア兩ロシアを合して、四萬六千廿五哩となれり。始め鐵道は軍事上の目的の爲め敷設せられしが、漸次産業開發の目的となれり。特にシベリア線の全通は世界の誇りとす所なり。

鐵道の發
達

商業の急
激なる進
歩

改革の結果、商業は忽ちにして發達し、千八百六十年より七十年に至る間に二倍の増加をなし、其急激なる事は歐洲諸國の驚嘆する所なりき。黒土地方の發達は小麥の輸出を大ならしめ、黑海貿易をしてバルチック貿易に優らしめたり。商業上溫和なる保護政策をとりしも西歐諸國に比すれば、高率なる事を免る能はざりき。然れ共、ロシアは猶純然たる農業國にして、工業と稱す可きは僅かに農奴が衣服若くは器具を製作するのみにて、機械と動力とを使用する工場

純然たる
農業國

税率増加

は未だ存在せざりき。元來、ロシア人は其性機械工藝に適したるものに非りしかば、政府が大規模の工業を發達せしめんとこの努力も功を奏さざりき。されば政府は、一時緩和にせる貿易政策を變じて、千八百七十年頃より歴然たる保護政策を採用し、年と共に其税率を高めたり。試みに千八百六十八年と千八百九十一年の改正關稅を比較するに、

綿製品と玻璃器	二倍
軌條と機關車	四倍
硫酸	三倍
鑄鐵	十倍

の増加を見たり。しかも二十世紀に至つては益々加重を見るに至れり。此保護政策は、ロシア當局者の見たるが如く多大の效果ありて、國內の製造工業は漸次發達して、外國製品の輸入は減少したれ共、ロシア人は、このチャンスを利用す可く無能なりき。近代工業に適せざるロシア人は、資金の缺乏、技術上の智識の缺乏の爲め、これを利用する能はず。其資本の多くは外國人の手にきし、隨つて利益は外國人の手に握らるゝに至れり。元來保護政策必らずしも排斥す可きに非ず、場合に依りては必要なる者なれ共、ロシアに取りては、適切ならざりき。猶、

無能なる
ロシア人

極端なる保護關稅の惡影響を擧ぐれば、

極端なる
保護貿易
政策の惡
影響

(一) 農業の發達を害す

ロシアの農民は一般に無智文盲なれ共、適當なる指導者を得て、近世的の耕作、收穫機械を使用せば、今日以上の進歩を見る事難からざれ共、關稅の爲め、機械の代價甚だ高く、一般に是を使用するを得ず。此結果農業の發達を害する事甚だ大なり。ロシア政府が、

(1) 農民の教育

(2) 此種の關稅を撤廢するか、又は輕減

せば、農業の進歩は、今日以上に於て、眞に恐る可きものあり。

(二) 鐵道の發達を害す

ロシアは、今日四萬六千哩の鐵路(ヨーロッパのみにて三萬五千哩)を有すれども土地の面積と人口の比例より云へば、文明國中の最下位に位す。その理由は保護關稅の爲め鐵の如きは他國に比して約二倍の價格なるによる。

二 西歐諸國に於いては鐵路の通ずる數世紀以前より平坦なる道路四方に通せしが、ロシアはアメリカの如く此階段を通過せずして鐵道時代に入れり

ロシアの當局並びに有識者は此弊害を既に看破しつゝあり、將來この反動時代は必らず來る可し。

ロシアは千八百六十年代商業國民中七位を占めしが、七十年代には五位に上り、いさゝか氣焰を吐きしが、十九世紀終りには白耳義、和蘭にも及ばず第八位に降れり。これロシア政府が東方發展換言せば東洋貿易に専心にして、西ヨーロッパの貿易を制限したる傾向あるが爲めなり。ロシア政府と雖も文盲に非ず、自國の製造工業を發達せしめて、獨立したるものとせんとすの理想は終始念頭をさらす、この見地よりせば、西歐諸國はロシアの先進國にして、ロシア工業の恐る可き大敵なり。是等の諸國に對しては、原料品を輸出して、製造品を輸入せざる可らざるなり。然るに東洋諸國に對せばロシア猶一日の長あり、此地方より廉價なる原料品を購入して製造品を輸出するの利便あり、これロシアの商工業を發達せしむる唯一の策なれば、ロシア人が此方面に努力を注げる偶然に非ず、然るに十九世紀の終り頃より、列強皆此方面に注目するに至りしかば、ロシアは、外交政策と武力とを併用して、此方面の市場を獨占せんとせりかゝるが故にロシアの亞細亞貿易は漸次増加し、其貿易額は、十九世紀末に於いて總額の十分の一なりしが、進歩の跡は歴然たり。シベリア線開通後、益々有望となれり。然れ共、極東に

到底商業に非ず

亞細亞貿易の發展

於ける商業を獨占せんとすの運動及び不凍港を得んとすの運動は、日本と戰つて敗北の結果、水の泡となりぬ。他日第二の日露役をおこすに非んば、ロシアの野心は永久に埋滅せられん。ロシア帝多年の希望たる地中海、印度洋に出でんとすの運動は、ロシアが如何に侵略的國家たりしにせよ、成功を見るの日蓋しなからん。世界大戰爭前に於けるロシアの商業は、

	輸	出	輸	入
一九〇五		一、〇七七、三〇〇		六三五、一〇〇
一九〇七		一、〇五三、〇〇〇		八四七、四〇〇
一九〇九		一、四二七、七〇〇		九〇六、三〇〇
一九一〇		一、四四九、一〇〇		一、〇八四、四〇〇

にして、進歩顯著なれ共、是れを他國に比較するに、

	輸	入	輸	出
イギリス		一三、〇五六、一三〇、〇〇〇		一一、五九一、〇八〇、〇〇〇
ドイツ		五、〇六〇、二八〇、〇〇〇		四、三七〇、二二〇、〇〇〇
アメリカ		三、七八七、七八〇、〇〇〇		四、九二二、二八〇、〇〇〇

フ ラ ン ス	三、一八〇、三四〇、〇〇〇	二、六五四、五四〇、〇〇〇
オ ラ ン ダ	二、七七七、五〇〇、〇〇〇	二、二七六、六六〇、〇〇〇
ベ ル ギ ー	一、七五二、八三〇、〇〇〇	一、四九五、二〇〇、〇〇〇
ロ シ ア	一、〇九一、九七〇、〇〇〇	一、五〇六、三一〇、〇〇〇
オ ー ス ト リ ア	一、四五三、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇九、一二〇、〇〇〇

ロシアは未だ商工業立國に非るを知る。更らに、我日本を見るに、同年に於ける、

輸入 六一八、九四三、〇〇〇 輸出 五二六、九八〇、〇〇〇

にして、伊太利瑞西にも及ばざるを見る。ロシアは猶農業立國にして、其農業國たるの所以は其最近の條約に依りても明かなれ共、其國民の約九割は農業に依つて生活するを見れば、多言を要せず。千八百九十年、千八百九十八年の凶作は明に是を證明せり。巨額の外國債を有するロシアは巨額の穀物を輸出して、其利子を支拂はざる可らず。且つ農民は穀物を輸出するに非んば租税すら納むる事能はざるなり。依つて政府は千八百九十年來、アメリカ穀物貿易の組織を學び、耕地並びに森林共に増加せり。ロシアは、穀物の輸出に依つて工業品の輸入及び外債の利子を支拂ひつゝあり。而して其販賣業の大半は大ロシアの商人に、半はユダヤ人にあり。ユ

ロシアは永久に農業國家なり

農業獎勵

ロシア商業上に於けるユダヤ人の活動

ダヤ人のロシア商業上に於ける地位は甚だ大なり。しかも世界大戰前に於けるロシア農業法は猶、非科學的の謗りを免れず、將來農業法の改良に伴ひ、其産額は夥しき數に達せん。要するにロシアは農業國たると共に、將來に於いても猶然らん。ロシアが世界的の商工業國となるの日は到底今日より豫測す可からず。

第七節 和 蘭

第十九世紀の終りに於いては、世界貿易の大半は、英獨米佛の四大國に依つて行はれたり。

和蘭は最盛たる小國なれ共、商業上に於いては、この四大國に續けり。オランダは嘗て、世界の商業界に雄飛せし輝々たる歴史ある國なれ共、十八世紀の末イギリスとの戦ひに於いて最後の大打撃を受けたり。次いで佛蘭西の大革命の渦中に投せられ、懸がて其征服にあひ、重税に苦しみ、一時其植民地すら悉く是を失ひたり。千八百十五年戦争の終局と共に、セイロン、喜望峯、ギアナの一部を英國の領有に供せし他、回復するを得たれ共、其貿易上の地位は挽回するの違なく剩へ、ラチン民族の舊教國ベルギーと不自然なる政治的結合を餘義なくせしめられたり。しかも兩國は民族宗教に於いて、相違せるのみならず經濟的の利害も相反せり。

(1) オランダは農業牧畜、貿易、漁業航海業を専門とする國家にして自由貿易を好めり。

十八世紀末の和蘭

オランダとベルギーの國情相違

衰へたる
オランダ
の航海業

失敗せる
保護貿易
主義

税率の輕
減

貿易事業
の勃興

仲介的貿
易

天帝に
くまれし
和蘭

和蘭獨特
の工業

1 フランダ

(2) 工業國たるベルギーは先進のイギリスと競争せんが爲めに、保護貿易を好めり。勢ひ此くの如くなれば兩國は分離するを以て得策とせり。終ひに革命及び戦争(一八三〇)によりて兩國は分離せり。この不自然なる結合はオランダの商業に對して大なる妨害を與へたり。合同政府が採用せる保護的關稅は特に然りとなす。かつて、世界の航海者と目されしオランダが、千八百二十四年より廿五年に亘りて建造せし大船僅かに七隻なるに、イギリスは八百隻を超へたり。アムステルダム、ロッテルダムの繁榮は去つて、ロンドン、漢堡にうつれり。識者をしてぞる懐舊の涙を禁せざらしむ。

オランダは白耳義と分離して以來猶、保護主義を固執し、世界貿易の潮流以外に孤立せり。この保護主義は、東インド植民地に於いては利益を得たれ共、大體に於いて其貿易を阻害するを免れざりき。然れ共再び自由貿易主義の風潮を來たし、千八百五十年以後大いに其税率を輕減したるを以て漸次其貿易額を増加せり。是れと同時に、大陸諸國に縦横に鐵道の敷設せられたるが故に中央歐羅巴に輸入せらる可き貨物は多く和蘭陀を經過することとなり、又兩隣に於ける英佛兩國の發達も亦利益に與る事を得るに至れり。かくして一時衰亡せる和蘭の貿易は十九世紀後半に至つて再び生氣を呈するに至り、世界大戰前世界貿易上第五位を占むるに至れり。

しかも和蘭貿易に於いて他に見る可らざる特徴は輸入の物品と輸出の物品と殆んど同種類に屬する事なれ共、この仲介的の性質は地理上歴史上の關係による事なりとす。

元來和蘭の土地たるや、面積約二千七百里、我日本帝國の十六分の一に過ぎず。しかも其土地たるや、大河口に生じたる一箇の沖積土に過ぎず。されば何等の礦物を含有せず、近世工業の要素たる鐵と石炭とを有さず、これと和蘭が工業を以て到底他國と競争する能はざる所以にして、オランダが豊饒ならざる土地に絶大の努力を用ゐて、國民の多くが農業に従事する所以なり。

然れ共、和蘭にも多少の工業、製造業の見る可きものはあり、ダイヤモンドの彫琢、チョコレート、人造バタの製造に於いては世界に其名を知らるれ共、近世的の工業の見る可きものなきを以て、工業國とは、云ふをえず。和蘭は、今日猶純然たる商業國なりとす。將來も仲介商業を以てすむならん。

第八節 白 耳 義

ベルギーは最爾たる一小邦に過ぎざれ共、古來工業地として其名高し、特にフランダースの地方の如きは、中古以來歐洲に於ける最も盛大なる製造工業地として知られたり。革命戦争以

幸運なる
白耳義

千八百三
十年後に
於ける工
業の進歩

保護貿易
主義

來フランスの領有となりても何等の損害を蒙らざりしのみならず、中古時代より存在せる幾多の弊害を打破し、且つ製造品をフランスに輸入するの便利を得たり。千八百十四年フランスより分離してオランダと國家的結合をなすや、反つて工業品の販路を大いに縮小したり。然れ共これ束の間の事にして、やがて、オランダの資本、商業、植民地の援助に據つて繁昌し、デント、ブラッセル、シャルロイ、リエージュの如き、製鐵及織物の産地として非常なる發達を見るに至れり。千八百三十年、オランダとの分離は多少の打撃となりしも、ベルギー將來の爲め一大幸福となれり。時恰かも蒸汽力の製造業、並びに鐵道の勃興する時なりしかば、ベルギーは其天産物たる鐵と石炭とを利用して、駁々として進歩の途に上れり。

當時ベルギー工業の大敵はイギリスなりしが故に、政府は是れと戦はんが爲めに、オランダ合同時代以上に、保護主義に傾けり。十九世紀に至る迄の間、農業、工業、航海業一般に保護の下に立てり。ベルギーの地たるや面積僅かに、千九百方里、永く保護政策に依つて利益を受けんには、面積の小なるをうらみとす。

千八百五十年以來再び自由貿易主義の勃興を來し、爾來引續きて此主義なり。この自由貿易政策の採用は、

自由貿易
主義裁用
の效果

外國貿易
の異常な
る進歩

動搖せざ
る自由貿
易主義

植民政
策

(1) 工業上に於ける技術の進歩、

(2) 運輸交通機關の發達、

と相俟つて、商工業をして益々發達せしめたり。千八百四十年より五十年迄に、其貿易額は八千萬弗より一億六千萬弗に増加し、夫れにつゞける十年間に三億六千萬弗となり、更に二十年間に拾億弗となり千八百九十九年には十四億となり。世界大戰前には世界第六の貿易國となれり。

ベルギーの自由貿易策は、千八百七十年代の末以來保護貿易策の論、ヨーロッパにかまびすしき時に當つても動搖せず、唯農産物のみは、聊か趣を異にし、千八百八十七年家畜及獸肉の輸入税を設けたり。然れ共、これ農業の保護のためにして、大體に於いて、自由貿易たる事勿論なりとす。

ベルギー王レオポルド二世が、千八百八十六年コンゴ國の主權者となりて以來、植民政策を度外視するを得ず、コンゴ國に資金を貸與し、國王の凡ての權利の主張を繼承せり。この兩國共に中立國なり、世界大戰後ベルギーの商工業回復は頗る困難を感じる所なりとす。(ベルギーを以て、ベルギーも其植民政策を度外視する能はざるに至れり)

第九節 瑞 西

奮闘努力の國民

歴史ある工業

十九世紀初半の商業

一 國內の統

スイスは面積約二千七百里の小國にして、我國の十六分の一に過ぎざれ共、商工業に於いては堂々たる大國を凌駕するものあり、國土の狭小なるが上に其大部分は山岳を以て蔽はれ農産物の見るに足るものなきは勿論、特に列擧するに足る鑛産物なし。されば今日の盛を呈する所以全く國民の技能と努力とにありと云はざる可らず。

スイスの工業は年數を經且老熟せり、其多くの工業は中世紀以來のものなり。毛布及び麻布工業の如き然り。絹布工業は中世紀(第十五世紀)、ノイエンプルヒの時計製造業は十七世紀に、デンフの時計製造業は十六世紀に、木綿紡績、機織業はナポレオン時代に起れり。機械工業、化學工業は其後に起れり。然れ共十九世紀初半に於いては、

- (1) 四隣の諸國保護政策を採用せること、
- (2) 國內不統一にして幾多の地方に分裂し、各地方毎に通行税を徴收したること、

により商工業の發達は少なからず妨礙せられたり。千八百四十八年に、聯邦的共和國となり、内部の統一を圖り、關稅制定、通商條約締結、經濟に關する立法等は同盟政府の權能に屬する事となれり。かくして、自由貿易主義を採用して、關稅を輕減し、貿易の發展に努めしかば商工業は著しく進歩せり。千八百七十年代の末以來列國の形勢にかんがみて、幾度も關稅の改正

自由貿易主義

スイスは工業國なり

小規模の工業

鐵道の發達

日本とスイスの貿易比較

を行ひ、千八百八十五年、家畜、食料品及工産物の輸入税は著しく増加せしが、大體に於いて其方針は自由貿易主義なり。

スイスは純然たる工業國にして、千八百七十年以來農民の數は漸次減少しつゝあり、其工業の主なるものは絹織物、綿織物、時計等にして是を外國に輸出し、其代價を以て食物及原料品を購買するを以て經濟上の方針とせり。しかも是等の工業は未だ大機械を使用するに至らず多くは小規模の機械を以て、家内に於いて從事せられつゝあり。然れ共、

- (1) 技術優秀
- (2) 勤勉努力

に依つて輸出額は頗る夥しきを見る。國內山岳多きにかゝはらず、鐵道は千八百四十八年以來大いに發達して、三千四百十四哩を有し、アルプ山系の如きをも鐵道處々に横ぎるに至れり。サンゴタルド(長サ四里)、シンプロトン(凡五里)のトンネルは、世界最長のものなり。此國の山水を賞せんが爲、旅客の來りて費す金額年々一億圓に達すと云はる。世界大戰前に於ける、スイスと我國との貿易額を比較するに及び、

日	本	輸	入	輸	出
			六二八、九四三、〇〇〇圓		五二六、九八〇、〇〇〇圓

瑞 西

七八五、四九〇、〇〇〇

五四三、〇三〇、〇〇〇

其商業の盛大を思はざるを得ず。

第十節 伊 太 利

中世に於いて世界商業の中心地として名聲輝々たりし伊太利も、近世に至りては更らに振はず、十九世紀前半は實に其の沈淪の甚しき時なりき。これ政治上、社會上に幾多の弊風の存せしが故なり。千八百七十八年一英國學者は、

「千八百四十八年前にイタリーは、ビードモント地方を除く外全く滅亡し去れりと云ふも過言にあらず、奥地利、ローマ法王、ブルボン家交る／＼是に君臨して暴威を振ひ、イタリーの一部なるタスカニーの王侯すら專制壓抑を試みたる事あり、實にイタリーの情態は獅子の手に攫れたる兔の如き憐む可きものなり」と。

云へり。政治上の統一なきが故に、國內の交通は遮断せられ、生命財産の安固は保し難く、航海造船業なく、製造工業なく、外國貿易なく、商業は全く地におちたり。當時半島は七箇の獨立地方に分たれ、此中六地方には禁止税に等しき苛重なる保護税ありて、國境は勿論其内部に

衰へたる
の商業
の伊太利

英國學者
の伊太利

商業の衰
退せる理

通行税、
關稅の弊

關稅同盟
の不成立

伊太利の
國家的統

國家統一
後商業の
進歩著大
なり

於いてすらも通行税關稅を有したり。ミランの製造家が絹をフロレンスに輸送するに百五十哩の間に八箇の税關あり、ボロンニヤよりルツカに至る百廿五哩の間に七箇の税關ありき。かくの如き情態にては、イタリー商業の沈淪せる宜べなりと云ふ可し。

イタリー諸邦は、ドイツの關稅同盟の形勢を見て感憤惜く能はず、千八百四十七年に同一の運動に取かゝりしが、オーストリアの妨碍に依つて其目的を達せざりき。これオーストリアに取りては、イタリーの各部分をして孤立せしむるが策の得たるものにして、其統一は甚だ恐る可きものたりしが故なり。この妨碍の爲めイタリーは、ドイツの如く、國家統一前に商業同盟を結ぶ能はざりき。然るに、イタリーの統一は、カブールの助力に依り千八百五十九年に完成せり。千八百六十一年、ビクトル・エマヌエルは全土を統一して君臨せり。かくて千五百年間争闘に遑なかりしイタリーは統一せられ、大國として歐洲の列強と伍するに至れり。

國家統一後、幾多の内國商業の障壁は撤去され、自由寛大なる關稅法となれり。かつて、シ、リーにては絹物一シエントナーに對して、二千五百弗を徴收せしが統一後は僅かに十弗となれり。これ極端なる例なれ共、關稅輕減の一般を知るに足らん。

此後商業は著しく進歩して、貿易額は激増せり。千八百五十九年と六十年とを比較するに、

商業の進歩

其貿易輸入額は二倍の増加を見たり。千八百六十三年に外國貿易の總額は三億弗に達し、更に千八百七十年代に至つて五割の増加を見たり。然るに千八百八十年以後に至つては、増加の見るものなく、往々退歩の傾向を呈するに至れり。千九百年に、五億七千百萬弗にして、千八百六十三年以來、二倍の増加を見る能はず。然らばイタリー商業が千八百八十年迄駭々乎として發達し、其後、其進歩の杜絶せる所以は如何、これ大いに研究を要す可き點なりとす。

千八百八十年の杜絶せし所以

(1) 千八百六十年頃のイタリーは、純然たる一箇の農業國にして、人口の過半は農民なりき。イタリー獨特の絹織物業の如きも全く滅亡したるに非れ共、租税と關稅制度の爲め發達する事を得ざりき。一度び貿易の自由の與へらるゝや、人民は争うて外國の廉價なる製品を買ひ是が代價として、其農産物を輸出せり。これ貿易額の増大せし一因なり。

(2) 國家統一後鐵道の敷設夥しく千八百六十年に八百哩なりしもの、千八百八十年に五千哩に増加したり。(一九一二年に一萬八百哩)この結果商品の輸送に大なる便利を得たり。特に外國貿易は非常なる發展を遂げたり。

(3) 關稅の増加したることは。

其一因たり。國家統一後イタリーは、政費夥しく増加したるが故に政府は是を補ふ手段を講せ

政府の財政難

保護稅

ざる可らず。増稅に増稅をしても、元來が、貧窶の國民なれば、其必要をみたすに足らず、止なく内外の公債募集は勿論、多少の收入を得るの道あれば、其手段を擇ばず、かくして關稅の増加は免れず、千八百七十八年の一般改正となり、大いに保護的の精神を發揮せり。政府當局は是れを以て猶ほ足れりとせず、千八百八十七年再び稅率を増加したり。是に於いてかイタリーの商業は、苛重なる收入稅と法外なる保護稅との二重の軛の下に苦しまざる可らざるに至れり。この法外なる關稅の惡結果は忽ちに現はれフランスとの間に關稅戰爭の破裂を見るに至れり。(一八八八)イタリアは、直ちにフランスに屈服せしが(一八九〇)フランスは尙ほ餘威を振ひイタリアの有價證券を悉く手放したりしかば、其價格忽ちに下落し、千八百九十三年に、大なる財政上信用上の恐慌を惹起せり。千八百九十九年兩國は、互ひに最低關稅率を許して、完全に妥協せり。

フランスとの關稅戰爭

生産組織薄弱なり

更らにイタリーの生産組織を見るに、國民の大部分は農業に従事し、工業に従事する者の割合は甚だ少なし、しかもイタリーの統計を見て驚く可きは定業なき者の多き事にして、千八百七十一年に千百萬の遊び人ありき。又同年に所得稅を納めし者の數は僅かに六十三萬人に過ぎず、國民の六分の五は收入四十磅以下なりき。是れに加ふるに、教育程度甚だ低く、千八百六

教育上の缺點

農村の悲境

十一年に中部伊太利に於いて無學の徒男千人中六百四十一人、女九百五十人なりき。政府當局も大いに此點を顧慮せしが、一朝にして改らず、イタリーの農業自身も甚だ幼稚にして、人力に依つてのみ爲され、資本と腦力の提供せらるゝ事甚だ少なし。随つて收穫甚だ多からざるに租税高き故、農民の貧困にせまるは、毫もあやしむに足らず、その貧困の實例は、概して歐洲諸國に於いて人一年の砂糖の消費高は廿磅乃至五十磅なるに、イタリーに於いては、僅かに六磅に過ぎざるに見て明かなり。政府が取れる保護政策は、一般農民の利益とならずして、地主のみの利益となるてふ現象を呈せり。

製造工業不振の原因

製造業は、頗る不振の情態にあり、千八百八十年代のイタリーの製造工業は、千八百六十年代に比して、異なる所なかりき。

- (1) 資本の缺乏
- (2) 重要原料品の缺乏(生糸、麻の他云ふに足る者なし)
- (3) 工業の原動力たる石炭を、高價を拂つて輸入せざる可らざりき。
- (4) 技術上の智識の缺乏

の缺點ありしが故に、其振はざるや道理なり。然れ共千八百九十年來、振はざりし工業が長足

最近に於ける工業の進歩

の進歩を見るに至りしは、全く關税に依つて、製造品の代價を騰貴せしめ人爲的に此方面の發達を促進したる結果に他ならず。

政治費膨脹

元來イタリーは、國家統一の結果一躍して、歐洲列國の仲間人をせしが故に、其政治家は、強國たるの體面を完ふせんには、他の強國の具ふるあらゆる事物を具へざる可らずと思考してあらゆる努力を敢えてしたり。如何なる費用を用ゐても自國の工業を發達せしめんと腐心したるは其一例なり。政府は猶、彼等の國民的虛榮心を満足せんが爲めに、

財政を困難にし理由

- (1) 航海業と造船業の奨勵 政府が莫大の費用を投せる結果、幾多の船舶を有するに至りしが、國家の爲め貢獻する所割合に少なかりき。
- (2) 植民熱の勃興 千八百八十年代列強の間に植民熱の勃興するや、イタリーも其渦中に投じ、内政の整はざるをも考へず、紅海の彼岸、アフリカ大陸に一箇の大植民地を建設せんとして、幾千萬の寶と幾千の生靈とを空しく地に塗らしめ、しかも千八百九十六年アドワの一敗に依りて、壯圖悉く破壊せられたり。

是等の政策は強ちに、謬見に非るも、イタリーの財政をして、益々國難に陥らしめ、其商工業の發達を妨碍するに至りしは惜しむ可し。

千八百九十
年以後に
於ける國
運の進歩

然れ共千八百九十年代に至り、イタリーは諸方面に於いて、進歩著るしき者あり。農夫は、漸く覺醒して、耕作の方法を改良し、機械の使用を學び、種々の組合を設けて、協力の利益を實現するに至れり。工業も亦た、漸く盛大となり、新工業勃興し大いに國富を爲せり。關稅も漸次低減し、特にフランスと和解したる結果、十九世紀の末よりして、貿易額も漸次増大し、千八百九十七年より千九百一年に至る四年間に於ける平均年額五億六千弗に達せり。世界大戰前には年平均六億弗餘となれり。

是を我國と比較するに、イタリーの面積は一萬八千方里、我國の四割に過ぎざれ共貿易額は

日本と伊
太利の比
較

	輸 入	輸 出
イ タ リ ー	一、四四一、六四〇、〇〇〇	九五八、四六〇、〇〇〇
日 本	六一八、九四三、〇〇〇	五二六、九八〇、〇〇〇

にして、我國は到底イタリーに及ばず、これ世界大戰直前の狀況なり。

二 主要なる商工業地

(1)ゼノア 政治上サルヂニアに隸屬したれ共、フランスと最も親密なる通商を有し、伊國

ゼノア

統一以來其富著しく増大せり。橄欖油、米、亞麻、金屬、鑛物、素麵、棉布等を輸出し到處好評を博せり。北米南北戦争に際し、棉の缺乏を利して、ゼノアは其得意を擴張せり。千八百六十二年に於ける棉の輸出高千六百萬磅以上に増加せり。現に人口二十七萬を有して、中古の盛況に復歸せり。

ヴェニス

(2)ヴェニス 千八百六十六年イタリーに合併せられたり。これ一新時期を劃す可きものにして、其貿易額は年々増加せり。其貿易はオーストリア、イギリス、オランダの間に主として行はる。現に人口十六萬人、昔時の面影なし。

レグホー

(3)レグホーン 元レヴァント諸國との貿易の要衝に當りて繁盛を極めしが、諸國、此地を経由せずして、直接にレヴァントと通商するや其繁盛を失へり。然れ共、伊國の國家統一前、國內關稅に苦しむの時、

(a) 地位の利便なる事、

(b) 關稅港稅の低き事、

(c) 檢疫の法寛なる事、

に依りて繁盛を極めたれ共、國家統一後其繁昌を失へり。

ネーブルス、シリ

(4)ネーブルス、シリ 共に國家統一前一時衰頹せしも、統一後は諸業大に進歩して、富源を開發せり。

第十一節 西班牙

イスパニア社會の缺陷
植民地を失ふ

嘗ては世界商業史上に覇を唱へし、イスパニアも、十七、十八世紀の交に至つては、衰頹の極に達し、昔日の面影なし。これイスパニアの極端なる専制政體の然らしめし結果とす。第十九世紀に至り、イスパニアの政體は、立憲政體となりしも、其成績甚だ不結果にして、社會の情態を改良する能はず。國民の多數は無學文盲の徒にして、一丁字を知らず、所謂先覺者と云はるゝ者も因循姑息且つ腐敗の極に達せり。此くの如き情態の下に健全なる經濟社會の發達す可き理非なるなり。ナポレオン時代に、イスパニアは空前の悲運に沈み、外國の壓迫、内亂、及び反亂の結果は國力を疲弊せしめ、平和克復後も其窮狀より脱する能はざりき。終ひにイスパニア領アメリカ植民地の離叛を防ぐ能はざりき。

しかも其外國貿易は、極端なる關稅政策のために妨害せられて發達する事能はざりき。當時一英國人は是を評して曰く、

排他的商業政策

「最も狹隘にして有害なる排他的商業政策なり」

密輸入

と云ひしは適言なりき。當時輸入も輸出も關稅を課せられたるのみならず、其稅額頗る高く、五割十割は普通の事なりき。然れ共、國民及び官吏の腐敗は、この法律を嚴守せずして、密輸入頻繁に行はれたり。これ甚だいごふ可き事なれ共、若し、是なかりせば、イスパニア貿易は恐らくこれ以上の衰頹を見しならん。是を思へば、密輸入は反つて商況を活潑ならしめしものと云ふを得可し。

十九世紀後半に於ける貿易の進歩

十九世紀半過ぎに至り、舊關稅はいさゝか改正せられたり。これ實に、イスパニア商業史上の一廻轉期にして、これ以後、其貿易は長足の進歩をして、廿世紀に至る迄に約四倍の進歩を見たり。しかも輸入品中機械及原料品の増加を見たるは、イスパニアが、現代商工業の列に入るを證するものなり。

鑛業の進歩

千八百八十年代よりして、イスパニアの鑛業は著しき進歩を遂げ、鐵、銅、水銀の産額増加して、國富をなせ共、其資本家も經營者も多くは外國人なるを思はゞ、悲觀せざるを得ず、其輸出品は、葡萄酒、菓物、胡桃、乾葡萄を主とし國富をなせしが、近來カリフォルニアの競争に會ひ非常の苦境に陥りつゝあり。元來菓物の如き腐敗し易き物品は市場に近き生産者の勝利に期する事論ずる迄もなき事なるに、イスパニア人の荷造りの拙劣なるロンドン、バリーの市

不安なる産業状態

場に於いて、六千哩外より来る競争者に驅逐せらるゝは、イスパニア人の無智を語つて餘りなし。産業の情態はかく樂觀し能はざるに加へて、國狀の不安なるは、内閣の交迭をして頻繁ならしむ、千八百九十八年のアメリカとの戦争の創痍未だ全く癒えず、農業は大地主と無資力農民の争によりて其發達を害せられ、中等農民の存せざる地方甚だ多し。しかも政治上無政府黨の秘密結社ありて、常に不安なり。是と我國との外國貿易の比較をなすに、

西 班 牙	輸 入	輸 出
日 本	四一、七七四 萬圓	四一、七六〇 萬圓
	六一、八九四	五二、六九八

イスパニアは面積三萬二千餘方里。其商業上の地位は、歐米列強の眼中になき所のものなり。是れに反して、我國は世界列強の一と云はれ、面積四萬三千方里、イスパニアより大なるにかゝわらず貿易状態は不振なり。これ世界大戰直前の狀況とす。

第十二節 葡 萄 牙

ポルトガルは十六世紀に於いて、海上に勢力を振ひしが、十七世紀に至つて甚しく衰へたり。

ポルトガルの全盛期は十六世紀

唯黄金、金剛石及び砂糖に富める植民地ブラデルの勃興に依つて、僅かに氣焰を吐けり。而して十九世紀の初年に至り大ナポレオンのポルトガルを占領するや、王家はブラデル大植民地に逃れ、ブラデルは獨立の帝國となりたり。是に於いてかポルトガルは總べての點に於いて劣等國の地位に下り、商業も沈滞せり。國民皆舊式の農業に従事して、製造工業の如きは固より云ふに足らざりき。

千八百五十年以降に於いても、商工業は頗る振はず、唯商工業者の依頼する所は保護獨占、苛重の關稅のみ、千八百六十年代一時重なる貿易國と自由貿易主義の條約を締結せしが、千八百八十年代に至り、極端なる保護主義となりぬ。しかも政府は常に財政窮乏し（國債過重、歳入缺陷）外國貿易の大不權衡に苦めり。アフリカ東洋に於いて、猶ほ多少の植民地あれ共貿易上殆んど何等の價值をも有さざるなり。

ポルトガルの主要なる輸出品は何んぞや。葡萄酒とコルク是なり。國人は是を以て多國の製品を購買するなり。しかも其外國貿易の幼稚なる事は、

オランダ	輸 入	輸 出
	二、七七七、五〇〇、〇〇〇 圓	二、二七六、六六〇、〇〇〇 圓

幼稚なる外國貿易

財政窮乏

貿易政策の失敗

6
20

日 本	六一八、九四三、〇〇〇
ポルトガル	一五五、四三〇、〇〇〇

日 本	五二六、九八〇、〇〇〇
ポルトガル	七七、三三〇、〇〇〇

日 本	五二六、九八〇、〇〇〇
ポルトガル	七七、三三〇、〇〇〇

にて知る可し。其人口の和蘭に等しくして其貿易は、オランダの廿分の一にすら及ばざる事實によりて明かなり。

第十三節 丁 抹

好運なる
デンマル
ク

デンマルクは千八百七十年後、東西インド、南北アメリカと盛んに貿易を行ひて、商業漸進の兆あり、大陸戦争に際し、和蘭が佛兵に占領せられて、衰退を來すやデンマルクの商業は隆々として榮えたり。デンマルクの海上に雄飛するは、イギリスの喜ばざる所なれば、千八百一年に、イギリスは首府コペンハーゲンを砲撃して妨害を加へ、千八百七年に再び砲撃し、デンマルクがナポレオンに加勢すると云ふ事を口實として、其船舶七百隻を拿捕若しくは焼沈せり。これ以後デンマルクの商業は全く沈滞して、盛況を見ず。

大陸戦争
の打撃
極端なる
保護貿易
政策

ウイーン會議の後、デンマルクは、關稅政策に依りて自ら外國に對して封鎖せり。この極端なる關稅は、幼稚なる工業を保護せんとの目的に非ずして、國庫の收入を増加せんが爲めなり

關稅低減
海峽通過
稅全廢

き。後千八百六十三年に至りて、低率なる關稅政策をとるに至り輸出稅、通過稅及等差船稅を廢止するに至れり。特に千八百五十七年に北海及バルチック海の間にある海峽通過稅を廢して各國船舶の自由航行を許したるは世界商業上に一大利便を與へたり。元來この海峽通過稅は千三百四十八年に丁抹とハンザ同盟との間に成立し、デンマルクは海岸、諸島に燈臺を建設し、ハンザ同盟は通過稅を支拂ひ居たりき。この通過稅は年々百六十萬「ギユルデン」に上り、デンマルクの利する所大なりしが、千八百五十七年に列國は千七百五十萬弗を支拂ひて、其通過權を得たるものなり。

領土減少

デンマルクの地たるや狹小にして、イギリスの四分の一に過ぎざりしに、千八百六十四年にシユレスキツヒ、ホルスタイン、及ラウエンブルグを失ひて一大打撃を受けたり、シユレスキツヒ並びにホルスタインは、農牧の事業盛大にして、海上に雄飛する人頗る多く、其所有の船舶三千餘隻、三萬六千噸にして、全デンマルクの半數以上なりしに、今や此地を失なふ。加ふるに、西インドのセント・トーマス、及セントクロアは一旦他國に屬せしを取返せしも、物貨の集散昔日の如くならず、又支那香東の茶を歐洲市場に運ぶ業はイギリスに奪はれぬ。デンマルク商業の沈滞せる怪むに足らず。國民の多數は農牧に従事して、立國の基となしつゝあり。

随つて其貿易の特色も、穀物、工産物、植民地産物に對し畜産物を交換するに過ぎざりき。しかも輸入超過の大なる事も依然として變せざりき。千九百十一年に於ける輸出入額は、輸入三千八百五十萬磅、輸出三千四百五十一萬磅なりき。

第十四節 瑞典

スウェーデンもデンマークと同じく十八世紀末、外國の事端に乗じて商利を博せり。歐洲の戰亂中、中立の位置に立ちて、交戦國間の貿易を仲介し、木材土瀝青等をイギリスに供給し、其貿易は遠く支那印度に迄及べり。然れ共、千八百六年より千八百十五年迄ナポレオン戰爭に參加し、ロシアと銜を交へ、千八百六年にフィンランドを割讓し、バルチック海の海上權の幾分を失ふに至れり。大陸戰後、諾威と合併せられたり。貿易政策は保護を以て主眼となし、盛んに關稅を徵收せり。千八百五十年代六十年代にグリペンステット内閣は極端なる保護政策よりして西ヨーロッパ自由貿易及通商條約系統に加入せり。かくしてスウェーデンにも交通機關の建設、株式會社、大工業會社設立の時代來れり。然るに千八百七十年代に至り、(1) 商工業沈滯、(2) 歳入不足の結果、自由保護兩主義の爭半島に起こり、商業家輸出工業家は自由主義を唱へ、農業家非輸出業者は保護主義を唱へ、論争頗る盛んなりき。終ひに保護主義者勝利を

十八世紀末の瑞典

貿易政策

自由貿易主義

保護貿易主義

殖産事業の奨励

近世のノールウェー

得て、農業保護政策を取るに至れり。政府は盛んに荒地を開墾し、道路を開通し、森林を經營し、鑛山を開發し、鐵道を敷設し(一八五四)以て殖産事業を奨励せり。然れ共、其現狀は頗るあはれむ可きものなり。

第十五節 諾威

ノールウェーはデンマークより分離後スウェーデンと合併したり。しかも兩國の利害を斟酌して制定したりし憲法は、比較的に其和合を保持し、以て二十世紀に至る迄分離を免れたり。十九世紀の末葉、兩國間に不和を生じ千八百九十七年、其通商の自由は廢止せられたり。千九百五年以來ノールウェーは獨立王國となりて、獨立の行動を取れり。唯兩國商品の自由通過に關してのみ兩國間に協定あり。而して聯合解除以前に、諸外國と結ばれし條約はスウェーデンに對しては其効力を失ふ事なかりき。

經濟生活
自由貿易主義
保護貿易主義の色彩

ノールウェーの經濟生活は農業に非ずして、遠洋漁業、森林業及び海運業にありしを以て、國會は千八百六十年代以來自由貿易主義を取れり。然れ共、關稅は國家の主たる收入なりしを以て是を徵せり。千八百八十年代以來保護主義漸次勢力を得て、千九百五年に至つて、益々其色彩を明かにせり。其商業の振はざる點は、スウェーデンと相ざる事遠からず。

	輸 入	輸 出
スウェーデン	三八三、五九〇、〇〇〇 圓	三六五、四〇〇、〇〇〇
ノールウェイ	二七五、四二〇、〇〇〇	一八〇、八九〇、〇〇〇
日本	六一九、九四三、〇〇〇	五二六、九八〇、〇〇〇

第十六節 トルコ帝國

トルコの現状

トルコ帝國は十七世紀に至りて衰亡し、今や其瓦解は目前にせまり、西歐諸國は斷然帝國を滅ぼすか、然らずんば、事實上分離せる諸部を獨立せしめて帝國を存置するか、二者其一を撰まざる可らざるに至りぬ。然れ共、列強利害の關係は未だ、此老病國をして永眠せしむるを得ず、猶廣大なる領土を有して病蓐に伸吟しつゝあり、列國は機會だにあらば其地を蠶食せんとして外交上最も困難を極む。

古代中世を通じて此近傍は東西洋貿易の仲繼場、通過路として繁盛を極めしが、今や衰へて昔日の面影なし。

トルコに於ける農工業は共に活氣なく、將來又改良を知らざるが如し。商業及金融事業は世

經濟上の外人の手中にあり

コンスタントノブルの現状

界的通商遊牧民たるギリシヤ人、アルメニア人、ユダヤ人、西ヨーロッパ人の手中にありしかも、列國の商業的競争はトルコの港灣及内地例へば、サロニキ、トラベズント、サムスン、スミルナ、アレクサンドレタ、ベイルト、ブシルの如き繁盛を促し得たれ共、これ比較的の言なり。首都コンスタンチノブルは今日猶百二十萬の人口を有し、貨物の集散大なれ共、嘗て有せし商業的地位を失ひて、航海上の一大要點たるに過ぎざるに至れり。しかもヨーロッパ人の干渉は經濟上にも大ならんとす。ヨーロッパ人がトルコ鐵道の建設に競争しつゝあるは、其一證なり。

財政の困難 保護貿易主義

國家の財政は益々其の存立を危くし千八百八十一年後、債權者委員會の支配の下に立てり、貿易政策は保護主義にして、千八百三十年代六十年代に於いて外國と締結せる數多の通商條約によりて輸入品に八%、輸出品に一%の關稅を課せり。千八百九十年代の最近條約によりて特別の協定稅率を設くるに至れり。千九百十一年の貿易額は輸入三千七百七十七萬磅輸出二千二百四十七萬磅なり。

第十七節 バルカン諸邦

バルカン問題は、近世歐羅巴に於ける重要な外交問題にして、列國の注目の一日も離れざ

バルカンの新境界

る所なり。バルカン半島に於ける最近の同盟諸國とトルコとの戦争終結して、同半島諸國の境界に著しき變更を見たり。こは、ロンドン會議（一九一三年五月三十日署名）ブカレスト會議（一九一三年八月十日署名）コンスタンチノブル會議（一九一三年十月十七日署名）の結果により。其大要は、

- (1) バルカン同盟國とトルコとの境界は、黒海岸のメチアよりクセロス灣に向つて劃せる一線を境として、トルコは以北のオトマン諸州を放棄せざる可らず。
- (2) アルバニア新國を起し、其境界を定むる事。
- (3) アルバニアを除く舊オトマン諸州を同盟諸國に分配し、並にローマニアとブルガリアの東部境界を變更する事。
- (4) ブルガリアとトルコとの合意により、ロンドン會議に於いて決定せしメチアよりクセロス灣に引きたる境界線を尙北方に擴げ、アドリアノブル市を含む一帯の地をトルコ領とす。

此他猶、末結の問題あれ共、トルコの勢力は著しく減少して、其末路のあはれを語るものなり。

半島諸邦の形勢

此結果世界大戰前に於ける半島諸邦の形勢は、大體に於いて、

國名	舊領域	増加面積	新領域	増加率
モンテネグロ	三、五〇六 ^{方哩}	二、〇七四 ^{方哩}	五、六〇〇 ^{方哩}	六%
アルバニア	一八、五六〇	一四、九一〇	一〇、九〇〇	八〇
セルビア	五〇、七二〇	三、六二二	五四、三〇〇	八
羅馬ニア	三七、二〇一	六、一〇二	四三、三〇〇	一六
ブルガリア	二四、九六六	二一、六六〇	四六、六〇〇	八七
ギリシヤ	六五、三七〇	(一) 五五、六五〇	九、七〇〇	(一) 八五
トルコ				

となりぬ。

第一項 セルビア

半島諸國の經濟情態は頗る幼稚にして、商業の如き見るに足るものなし。セルビアも又其例にもれず、セルビアの外國貿易はオーストリアを主とす。千八百六十四年迄オーストリアは輸出入貿易に於いて、特典を受け居たりしが、同年にセルビアは自主的關稅表の制定によりて、

貿易の狀

總べての外國を同等に取扱ふに至れり。千八百八十年代に至り、王國の列に進み、低率の收入關稅を有する個々の條約を締結するに至りしが、自國家畜の輸出の關係上オーストリアには特典を與へたり。

セルビアは、ブルガリアと關稅同盟を結びて、オーストリアの勢力より脱せんと企てしが、事不成功に終れり。千九百十一年に於ける貿易額は、輸入四百四十五萬磅、輸出四百五十一萬磅なり。

第二項 ルマーニア

千八百五十六年のバリ會議はドナウ下流を中立地と定め、萬國ドナウ委員會を設うけしが、此時以來ルマニアの商權はイギリス、フランス、ドイツ等の手に移るに至れり。列國は汽船を送り鐵道技師を派遣して、商權の獲得に努力せり。此間ルマニア政府の努力見る可きものありて、千八百七十九年より八十八年迄に鐵道を國有とし、千八百八十三年には萬國ドナウ委員會に加入せり。然れ共此會より獨立せんが爲めに、唯一の獨立港コンスタンザの振興を圖れり。

千八百六十六年ホーヘンツォルレン家のカロ、即位するや、著しくヨーロッパ的色彩を帶び來り、農業、工業の改良に従事するに至りしが、工場の生産高は、内國の需要に應ずる能はず。

オーストリアの勢力範圍

ルマニアの商權

鐵道國有萬國ドナウ委員會

産業幼稚

オーストリアとの關稅戰爭

保護貿易主義

英、奥の勢力範圍

ギリシヤの獨立

ギリシヤ商人の機智

す。

ルマニアの家畜に對する國境封鎖の結果として、オーストリアとルマニアとの間に千八百八十六年より五年に亘る關稅戰爭を惹起せり。此戰爭は、千八百九十一年に終りを告げたり。其貿易政策は、常に保護主義なり。貿易額は金銀を除き千九百十一年に於いて輸入千六百三十八萬磅、輸出二千四百六十六萬磅なり。

第三項 ブルガリヤ

ブルガリヤの商業は未だ見るに足る者なし。この國の商權は一時イギリスに奪はれしが、オーストリアは千八百九十八年以來舊時の位地を回復し、貿易及びドナウ河航行、海上航行に於いてイギリス、ドイツ兩國の上に位するに至れり。

第四項 ギリシヤ

ギリシヤは久しくトルコの壓政に苦しみしが、千八百二十九年、年來の宿望を達して獨立を全ふするを得たり。獨立前既にギリシヤの商人は諸處に散在して商業を營み、皆本國との關係を離れて中立の態度を持し、以て巧みに立まはれり。ギリシヤ商人の機智はよく巨利を博し、時に或は海賊と爲つて掠奪をなし、其レバント貿易は頗る盛大となれり。大陸戰爭に際し、北

方の小國デンマーク、スウェーデンの如く、地中海に於いて、敏活なる商的活動を爲せり。既に獨立國となりて以來、銳意努力して半アジア的情眼より覺醒せり。然れ共、其外國貿易は、其農産物の僅少なるが如く、又工業の幼稚なるが如く、殆んど云ふに足らざるなり。

元來ギリシヤは歴史的回想の國家にして、其經濟的事業もまた微々たりと雖も、永續的事業なる事を示せり。彼等は古代ギリシヤの開鑿する能はざりしコリントの運河（長さ六三〇メートル）を千八百九十二年に完成せり。但し其資本は是を外國に仰げり。惜しむらくは工事不完全にして收支相償はざる事を。

新ギリシヤの政治は、其志徒らに高遠に馳せ、富力是れに伴はずして、千八百九十三年國家の破産を來せり。次いで千八百九十七年のトルコ戦争により財政の基礎益々動搖し、王國の財政盡督は六大ヨーロッパ列強の手にうつり、千八百九十八年列強は債權者と協定せり。千九百十一年に於ける貿易額は、輸入六百九十三萬九千磅輸出五百六十三萬六千磅なり。

第八章 歐米諸國の東洋蠶食、世界大戰前に於ける日本の地位

歐力東漸

千四百九十八年、ヴァスコ・ダ・ガマが歐人多年の宿望たりし、アフリカ廻航、印度航路の發見に成功して以來、ポルトガル、イスパニア、オランダ、フランス、イギリスの諸國相次いで東洋に來り植民地を開いて、各々商權の擴張に勉めたり。是等諸國の渡來年代に就いては、前後ある事勿論たり。

ポルトガル人の活動

歐洲人にしてアフリカを廻航して東洋に達せる第一の名譽はポルトガル人にあり。彼等は、インドに根據地を設け、其商權を支那日本に迄及ぼせり。其活動の敏活なりし事は、

- 一五〇八 ゴアを總督府とす
- 一五一七 始めて廣東に至る
- 一五四三 日本國大隅種子島に至る
- 一五六七 媽港を永代借地とす

に依つて知らる。イスパニア人は、始め力を新大陸方面に専らにせしが故に、東洋に達する時期はポルトガルに遅れたり。千五百十九年マガリエンス南アメリカに航し、マゼラン海峡を航して太平洋に出で、フィリッピン諸島を探檢せしが、不幸マガリエンスは土人の殺す所となりしも、フィリッピン諸島はイスパニアの有となりぬ。彼等は千五百七十二年、マニラ市を建て

マニラ市建設

イスパニア人の活動

列強の東
インド商
會建設

根據地とし、進んで支那通商を開かんせしが、ポルトガル人の妨害ありて成功を見ず、やむなく彼等の東洋貿易は日本平戸とマニラとに限られたり。かくして千五百年より千六百年頃までは東洋貿易はポルトガル人とイスパニア人との獨占にきし、絶大の權力を振ひしが、此に一大強敵は出現せり。(此期に於ける東洋貿易に於いて、イスパニアの勢力は、ポルトガルに及ばざりき)
十六世紀末年よりして、歐洲人の東洋貿易熱勃興せしと、イスパニアが海上權を失ひしとにより、歐洲諸國は相踵いで東洋貿易に従事し、互に競争せる結果、各々根據地に東インド商會を設くるに至れり。各國の東印度商會建設の年代は、

- イギリス 一六〇〇年建設
- オランダ 一六〇二年建設
- フランス 一六〇四年建設
- デンマーク 一六一二年建設
- オーストリア 一六二二年建設

オランダは元と、イスパニアの屬國なりしが、獨立以來直接に印度に達せんと心がけ、終ひに千五百九十六年、コルネリウス、ホウトマン、印度に達するを得たり。以後國人一致して、

和蘭人の
活動

東洋貿易事業に従事し、セイロン、マラツカ、スマトラ等を奪ひ、ジャバにバタビヤ府を建て、根據地とし、漸次勢力を扶植し、我が肥前平戸に來たり、ついで支那と廣東に於いて通商せり。かくして、ポルトガル、イスパニアを壓して、東洋貿易上、一大雄飛をなせしが、やがてイギリス、フランスの壓倒する所となりぬ。

イギリス
人の活動

イギリスは千五百七十九年始めてインドに達し、商館を印度、シヤム、ジャバに開きしも、ポルトガル、イスパニアに壓せられて目的を達するを得ざりしが、千五百八十八年イスパニアの無敵艦隊を撃破して、忽ち海上權を得るや其目的を達するに至れり。千六百年に設立せられたる東インド商會の事業は益々擴大し、千六百十四年オランダ人を破りて、インド土人の信用を得たり。後イギリス人は我平戸に來りて貿易を開き又、支那の廣東、厦門に赴て通商を試みしが、支那にてはポルトガル人に妨げられ、日本にてはオランダ人に妨げられて果さず依つて専らインド經營に従事するに至れり。フランス又イギリスとほぼ同時に、インド經營に従事するに至れり。

イギリス
の印度經
營
豊太閣の
活動

列國の東洋貿易熱勃興の時に當り、我國の情況は如何なりしや。一代の英傑豊太閣、渡航の制を定めて以來京都、堺、長崎等の商沽競うて船舶を出し、大いに利益を得しが徳川氏の始め

に至りて益々盛況を加へ、我商船は、

呂宋、安南、東京、占城、暹羅、柬埔寨、信州、太泥、順化、迦知安、密西耶、荖萊、田彈、摩利伽、交趾、摩陸、高砂、阿媽港、西洋

日本人の海外發展

の諸國に至る。是等の商船は大抵長崎にて南蠻、オランダ、咬嚙吧、南京、北京の詞に通じたるものを雇ひ入れ、水夫には沙馬答刺、滿刺加人の如き外國人をも用ゐる盛んに活動せり。我商人にして南洋諸國に滞在する者多く、呂宋暹羅には數百戸の日本町を立て我國人の意氣を示せり。又我國人にして南洋乗取りの計畫をたてし者ありしが、例へば伊達陸奥守の如きは支倉常長をローマに派遣し、又、呂宋を奪取して、貿易の利を興さんと計畫をめぐらせり。又家康の如きは、墨西哥へ新航路を開かんとして使者を送れり。この使者の乗れる船は僅かに八十噸、百二十噸の小舟のみ。この小舟を以て萬里の波濤を蹶破る我國人の勇氣は眞に賞嘆せざるを得ず。要するに此期に於ける我國人の活動は、目さむる許りにして、支那海は勿論南洋方面に及べり。歐洲列強との争ひに於いても勝利を得る事歴然たりしに、徳川氏の海外政策一變して、寛永の鎖國となり、外國貿易は僅かに長崎一港に於いて清蘭人に限りて是を許す事となり、國家發展の好チャンス空しく過ぎさりしは返すくも惜しむべき事にこそ。

日本人の意氣

寛永鎖國

フランスの印度に於ける失敗

インドに於けるイギリス、フランスの抗争は益々甚しきを加へしが、千七百五十七年、佛軍土人軍の連合軍をブラツシーに破りて以來、フランスはインドに於ける權力を全然失ひ、インドは全然イギリスの勢力範圍となり、其貿易はイギリスの獨占する所となりぬ。此後イギリスのインド經營は着々として効を奏し、千八百五十八年モグール朝滅びて全インドは全くイギリスの有となりぬ。次いで千八百七十六年、インドは商會の手を離れて政府の手に移り、ビクトリア女皇はインド女王の稱を取り、カルカッタ總督はイギリス大臣の下に全インドの政務を執行するに至れり。ビルマ又イギリス領印度の一部となれり。(一八八五)

英領印度

英國の對清貿易

イギリスは、インドよりフランス人を驅逐して以來、再び進んで支那通商に力を用ゐたり。當時イギリスの支那貿易品中主要なるものは阿片なりき。孟買に於いて阿片一箱の價四十磅乃至五十磅なりし者を政府は十磅十志の税を課し、廣東に輸出して百五十磅を得たり。かく利益大なりし者なれ共、清廷は其害毒を看破して暫々禁止令を出せしが悉く空文となり終りぬ。千八百三十九年林則徐、廣東に至り、嚴重なる命令を出して其輸入を禁遏す。清廷がかく暫々禁止令を出せし原因は、

(一) 阿片の害毒をさげん爲、

(2) 阿片貿易の盛んならざりし時は、輸出は常に輸入に超過し、頗る順調なりしが、盛大となるに及び、銀の流出一年平均三百萬磅に及び。これを防ぐの術、阿片の輸入を禁んずるにありと考へし事、

にあり。林則除は、斷然たる處置を取りて、阿片を焼却し其損害三百萬磅に及びしかば、英政府は清國に向つて開戦を宣し、連戦連勝せり。清廷力屈し、千八百四十二年、南京條約を結べり。

(1) 清國は軍費及阿片燒棄の賠償として二千百萬兩を出す事、

(2) 廣東、厦門、福州、寧波、上海の五港を開く事、

(3) 香港の主權をイギリスに讓る事、

この結果、清國は、廣東外四港を新に貿易場として開放し、支那商業史上一新時期を劃するに至れり。然れ共、この戦ひは、支那人をして外國文明の大なるをさとしめ、精神上大利益なりしも、列強に支那の弱き事を暴露するに至れり。イギリス人は是れに依つて支那貿易上貴重なる地位を得たり。是れを事實に徴するに、當時支那輸出品の最重要なる者は茶なり。千八百五十一年及千八百七十一年に五港より輸出せられたる額は、

	千八百五十一年(磅)	千八百七十一年(磅)
イギリス	六五、一〇〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇、〇〇〇
北米合衆國	三四、三二七、〇〇〇	四九、〇〇〇、〇〇〇
濠斯太刺利亞	八、八二九、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇
荷蘭	三、〇〇〇、〇〇〇	(此年の分不明)
ロシヤ	一五、〇〇〇、〇〇〇	(オランダ合算) 二、五〇〇、〇〇〇
他の諸國	二、七〇〇、〇〇〇	一九五、五〇〇、〇〇〇
合計	一二八、九五六、〇〇〇	

に達す。要するに、清國貿易の三分之一以上は、イギリスの占むる所なりき。支那は此大敗に依りてかながみる所大なりき。支那人が盛んに外國移住を企つるに至りしは、カリフォルニア及濠洲の金鑛發見以來の事なりとす。この潮流の如何に盛んなりしやは、千八百七十年の頃、オランダの船舶のみにて、一ケ年に三萬餘をカリフォルニアに輸送せし一事にて知らる。是等の移住民の多くは、勤儉貯蓄の美風に富み、富を致すや本國に歸航し所謂植民の本質を具有せる者に非ず。然れ共其勢力は大にして、マライ半島に南洋に北米に活動せり。現に北米人は人

支那人の海外活動

南京條約は支那商業史上劃新時期を劃せり

阿片戦争

支那貿易に於けるイギリスの地位

6
20

歐力東漸
の波日本
に及ぶ

道を無視して、支那人に壓迫を加へつゝあれど、支那人の勞働力は毫も劣へず。

外力東漸の波は、終ひに日本に來れり。幕府は歐米の船舶、時々來りて、邊海を窺ふを憂ひ
文政八年、沿海諸國に令して、其岸に近く者を砲撃掃壞せしむる事とせり。然れ共、外國の壓
迫は益々加はり、嘉永六年(一八五三)六月、北米合術國水師提督ペルリは軍艦、蒸汽船を率ゐ
て浦賀に來り國書を呈せり。これ日本開國の端緒なり。翌年ペルリ再び來り、約定書を交換し
て歸り後、安政二年(一八五五)批准を了したり。ついで露英佛三國來りて約を結ぶ事アメリカ
の如し。安政五年(一八五八)幕府は長崎、箱館、神奈川、兵庫、新潟の五港を開いて自由貿易
を開き、米露英佛蘭五國と假條約を締結したり。是時に當り我が國民は、攘夷を唱ふる者多く
朝廷又攘夷を幕府に命じて、國內紛亂鼎の沸くが如し。幕府は中間にありて困窮し、萬延元年
(一八六〇)より文久二年(一八六二)に至る間に進使を歐米に遣して、本條約を交換せしが屢々
條約實施の延期を求めざる能はざりき。朝廷は遂ひに長崎、箱館及横濱三港の互市を許し、慶
應三年(一八六七)に兵庫の開港を許せり。かくして此開國は勤王黨の幕府を攻撃する材料とな
り、慶應三年(一八六七)十二月九日、幕府終ひに瓦解して、政權は朝廷に復歸し、我國盛運の
基礎を定めたり。然れ共、我國をして開國に導きし者は徳川幕府、是を小にしては井伊大老な

日本の開
國

井伊夫老
の勳功

るを思はゞ、彼も又開國の元勳なる可し。違勅の故を以て彼を責むるは酷の甚しきものなり。
日本をして世界的國家たらしめし動機者たるを忘る可らず。當時の我が外國貿易を通觀するに
國際經濟の眞理に曉通せざりしを見る。國際貿易は常に均衡を保ち差額は硬貨を以て之を補填
するものなる事を知らざりしのみならず。外國の物産を排斥して内國の物産を及ぶ限り、多量
に收得するを以て富を致すものと考へたり。されば其國産たる銅絹を輸出するは、國益を損す
る者なれば、却て是を益々輸入するを以て得策なりと考へたり。一例として當時に於けるイギ
リスとの貿易を見るに、

開國當初
の日本人
の貿易思
想

	輸 入 (磅)	輸 出 (磅)
一八六〇(萬延元年)	二	一六七、五一
一八六一(文久元年)	四三、六三一	三三八、六八七
一八六二(同 二年)	二五四	五九一、八八五
一八六三(同 三年)	一二五、六二八	一、二八三、六三一
一八六六(應慶二年)	一、五五九、七五〇	二七三、七四五
一八六七(同 三年)	一、六九四、〇〇八	三一七、七九九

一八六八(明治元年)
一八六九(同 二年)

一、一一二、八〇四
一、四四二、一〇四

一八一、二二二
一六七、三〇八

の如し。

阿片戦争後支那に長髮賊の亂(太平天國の革命)おこり、勢猖獗を極め、滿洲政府の力微弱にして、この壓力に抗する能はず、此時に際して清廷は、英佛と事をかまへ、勢屈して千八百六十年、北京條約を結べり。

北京條約

(1) 清國は英國に千二百萬兩、佛國に六百萬兩の償金を拂ふ事、

(2) 南京條約の五港の他更らに牛莊、登州、潮州、臺灣、瓊州、九江、漢口を開放す、

(3) キリスト教公布の自由を許す、

長髮賊の亂は纔かに英佛の力をかりて平ぐるを得たりき。この時既にロシアは北より支那を脅かしつゝあり。

ロシアの
東漸
ネルチン
スク條約

ロシアは歐羅巴に於ける新勃興國なりしが、其アジア侵掠は、千五百八十年頃に始まる。其侵掠は年と共に威を逞くし千六百八十九年清國とネルチンスク條約を結ぶ。

「スタノボイ山脈ケルベチ河アルグン河を以て兩國の界ひとす。ロシア人はアルバン城を退去すべき事」

恰克圖條約

ウラジウ
オストツ
クの建設

愛琿條約

後、ロシア帝ペテロは屢々使を清廷に遣して通商を求め、千七百二十八年恰克圖條約を結び恰克圖を兩國の通商場とし、ロシア人は北京に至つて通商し、公使館教會堂をつくる事を約せり。千八百五十五年愛琿條約を結びて黒龍江左岸の地をロシア領とし、烏蘇里江南、靺鞨海岸に至る地を露清雜居の地となせり。又英佛が北京條約を結ぶ際、露公使イグナチエフは調停の勞を取れりとして、其報償として烏蘇里江東の地を取れり。千八百六十年に其南端にウラジウオストツクを建設せり。元來ロシアが諸方面に向つて侵掠を逞しくする原因は、主として不凍港を得るにあり、彼等是不凍港を得んが爲めに、滿洲並びに中央アジアに鋒を向けたり。

ロシアは千八百四十六年、大キルギス部を攻略し、終ひに清國と伊犁紛議を生ぜり。當時伊犁のイスラム教徒、天山南路のイスラム教徒に應じて紛亂せるにより、ロシアは清國の爲めに邊境の平和を名として千八百七十一年、兵を出して此地方を占領せり。清廷暫々伊犁の返還を求めしもロシアは言を左右にして應せず、終ひに光緒帝は崇厚をロシアに遣してリワヂア條約を結ぶ。

リワヂア
條約

61
20

伊犁本條約

かゝる屈辱的條約は清國の名折れに非ずして何んぞや。無斷に兵を率ゐて他國に侵入す、これ盜賊的の所業に非ずや、清廷にても群議百出し、是を廢棄せんとす。此に於いてか清廷は更に曾國藩曾紀澤を遣して伊犁本條約を結ぶ。

(1) 償金は九百萬ルーブルとす。

(2) テゲス河上流の地にかふるにコルゴス河以西の地を割讓す。

ロシアの中央アジアを略す

續いてロシアは中央アジアを略し、ベルシャを破り、千八百廿八年、裏海の西岸アラクセス河以北と償金を得たり。而してロシアの侵掠の鋒、アフガンに逼るやイギリスと争ひを惹起し、千八百八十七年境界を議定して平和の局を結べり。又バミール問題も千八百九十五年に至りて局を結びイギリスとの争ひは解けたり。然れ共此方面は將來益々多事ならんとす。

英露衝突

フランスの後印度半島經營

此間、フランスは後印度方面に活動せり。フランスは千八百八十三年安南を其保護國とす。然るに安南は嘗て清國の封冊を受けしを以て、清國先づ異議をはさみしも實力の差は詮方なく千八百八十四年の天津條約に依つて、清國は越南に於ける權利を放棄しフランスは東京地方を

清佛の天津條約

占有する事となれり。フランスは天津條約の一款として諒山鎮を占有せんとせしに、諒山の清兵是を拒みて衝突せしが千八百八十五年の天津條約に依つて解決せり。又シヤムの如きも英佛の壓力を蒙りたり。

然るに清廷の威力は國內を治むるに足らず、其領土は歐米諸國の爭覇場とならんとす。

日本の威力

東亞の諸國、悉く歐力の壓迫を蒙り、完全に其獨立を全ふするものなく、黄色人種の勢、衰頹の中にありて、我國は、幸ひに獨立を全うし、王政維新以來西洋文明を輸入して其長を探り、國力の發展注目に價せり。朝鮮保護の目的を以て千八百九十四年清國と戦端を開けり。結果は歐米人の豫想に反して、我國の連戦連勝に期し、千八百九十五年名譽ある馬關條約を締結せり。

日清戦争

(1) 清國は朝鮮の獨立を承認す。

(2) 償金二億兩を支辨し遼東半島及臺灣、澎湖列島を攘與す。

(3) 沙市、重慶、蘇州、杭州を開放す。

然るに、思ひがけなき三國の干渉ありて、遼東半島を清國に還附するに至りしは、殘念の至りなれ共、又是を如何ともし難し。戦後、戦勝の結果、我が商業は著しき進歩を遂げたり。

日清戦争後我が海外貿易は長足の進歩をなす

年	對清國貿易	
	輸入	輸出
二十五年	一二、五〇九、四一〇	六、三五八、八五九
二十六年	一七、〇九五、五七四	七、七一四、四二〇
二十七年	一七、五一、五〇六	八、八一三、九八七
二十八年	二二、九八五、一四四	九、一三五、一〇九
二十九年	二一、三四四、五二一	一三、八二三、八四四
三十年	二九、二六五、八四五	二一、三二五、〇六六

此他對米國、歐羅巴貿易、皆著しき進歩をとげぬ。

此に於いてか清國の無力は、歐米人の看破する所となりフランスは三國干涉の報酬として、南清に鑛山採掘權を得、ロシアは滿洲に鐵道敷設權を得、ドイツは宣教師の殺害されしを口實として膠州灣を得、イギリスは威海衛を租借せり。ロシアは旅順港大連を、フランスは廣州灣を租借せり。しかも内地に於いては各國民競うて鐵道敷設權及び鑛山の採掘權を得て經濟上の利益を獲得せり。

北清事件

清國の形勢日々非なるを以て、憂國の士は義和團を結びて山東省に叛し、天津北京に侵入

列強の清國壓迫

日英同盟

して外國人を殺害せり。これ所謂北清事變なり。日英米露獨佛等の諸國は聯合軍を組織して是を破り、清國をして、(1)元兇を處罪し、(2)償金四億五千萬兩を支辨する、を約せしめて局を結べり。

イギリスは、日清戦争の際、我國に心よからざる者なりしが、今や利害の上より打算して千九百二年(明治三十五年)に日英同盟を結べり。

- (1) 清韓兩土の保全を承認す
- (2) 全然侵略的趨向に制せらるゝ事なくして、清國に於けるイギリスの權利及利益、清韓兩國に於ける日本の權利及利益を擁護する事を明かにし
- (3) 同盟の期限を五ヶ年

とせり。日露戦後、更らに條約を改め純然たる攻守同盟となし、其區域を擴張して印度に及ぼしたり。

北清事變に際し、ロシアは滿洲の權利保護を名として、是を占領せしが、平和後も撤兵せず反つて兵力を増加せり。これ明かにロシアに滿洲占領の意志あるものなるが故に、我國は暫々是と交渉を重ねしも、事終びに意の如くならず、我國は千九百四年二月彼れに對して戰を宣せ

ロシアの滿洲經營